

第2回 柏崎市子ども・子育て会議

令和7(2025)年10月24日
元気館1階 きりんルーム

「柏崎市こども・若者計画(案)」について

主な内容

・ 柏崎市こども・若者計画の体系	4
・ 【施策の展開】 基本目標1	5
基本目標2	7
基本目標3	9
・ 【資料】 こども・若者の意見反映(基礎調査)	11
基礎調査① 若者の意識に関するアンケート調	12
基礎調査② こども・若者ヒアリング調査	20

「柏崎市こども・若者計画」の体系

《基本理念》

すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎

基本目標 (3つ)

1 こども・若者の豊かな人間性と社会を生き抜く力の育成

- 【方向性】 (1)交流・活動の場の充実/居場所づくり(余暇の充実・交流の場の充実)
(2)多様なこども・若者のチャレンジの促進

2 こども・若者の夢や希望が叶えられる環境づくり

- 【方向性】 (1)若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進
(2)結婚・こどもを産むことを希望する若者への支援

3 困難を有するこども・若者やその家族への支援

- 【方向性】 (1)複合的な課題を有するこども・若者への重層的な支援の充実
(いじめ、不登校、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー等)
(2)非行・ネットトラブル等の予防・啓発

施策の展開

基本目標1

こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成

方向性(1)

交流・活動の場の充実、居場所づくり

P30

【キーワード】

※孤立の防止

※自己肯定感・自己有用感の醸成

※成長機会の提供

※地域社会への参加

【関連事業】

- ・ 放課後児童健全育成事業
- ・ 放課後子ども教室推進事業
- ・ 子どもの屋内遊び場施設運営委託事業
- ・ 子どもの遊び場施設整備補助金

ほか
計8事業

施策の展開

基本目標1

こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成

方向性(2)

多様なこども・若者のチャレンジの促進 **P30~31**

【キーワード】

※多様性の尊重

※多様な学び

※自立・自律できる環境づくり

【関連事業】

- ・ 新潟県柏崎市ウエルカム柏崎ライフ応援事業補助金
- ・ 新潟県柏崎市U・Iターン促進住宅支援事業補助金
- ・ U・Iターン住宅取得助成金
- ・ 首都圏移住・就業者支援補助金

ほか
計12事業

施策の展開

基本目標2

こども・若者の夢や、希望が叶えられる環境づくり

方向性(1)

若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進

P32~34

【キーワード】

※市内企業の情報発信

※U・Iターン

※ワーク・ライフ・バランス

※就労支援

【関連事業】

- ・ ワーク・ライフ・バランス推進事業
(ワーク・ライフ・バランスセミナー/女性活躍推進セミナー)
- ・ 大学との連携・協働事業
- ・ 柏崎市移住定住マッチングサイト「くじらと。」
- ・ 育児休業取得促進事業

ほか
計14事業

施策の展開

基本目標2

こども・若者の夢や、希望が叶えられる環境づくり

方向性(2)

結婚・こどもを産むことを希望する若者へ支援

P34~35

【キーワード】

※仕事と子育ての両立

※切れ目のない支援

※経済的支援

※結婚を望む人への支援

【関連事業】

- ・ 男女共同参画啓発事業
(家事シェアリーフレットによる啓発)
- ・ 不妊・不育治療費助成事業
- ・ 結婚活動応援事業
- ・ 子育て応援券事業

ほか
計12事業

施策の展開

基本目標3

困難を有するこども・若者やその家族への支援

方向性(1)

複合的な課題を有するこども・若者への重層的支援の充実

(いじめ、不登校、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー等)

P36~39

【キーワード】

※いじめ・不登校

※ひきこもり

※貧困・ヤングケアラー

※障がい・発達障がい

※家庭支援/相談体制

【関連事業】

- ・ 生活困窮者自立支援事業
(子どもの学習・生活支援事業)
- ・ 障害者総合支援法の福祉サービス
- ・ 児童福祉法の福祉サービス
- ・ 障害者相談支援事業

ほか
計19事業

施策の展開

基本目標3

困難を有するこども・若者やその家族への支援

方向性(2)

非行・ネットトラブル等の予防・啓発

P40

【キーワード】

※孤立の防止

※啓発活動・予防対策

※家庭・学校・地域の連携

【関連事業】

- ・ 男女共同参画啓発事業
(デートDV防止啓発講座)
- ・ 人権擁護事業
(拉致問題啓発・人権講演会/モニタリング)
- ・ 消費者対策事業(消費生活センター)
- ・ 情報教育の推進事業 ほか

計6事業

資料

こども・若者の意見反映(基礎調査)

基礎調査①

若者の意識に関するアンケート調査

高校卒業後の19～29歳の若者の生活実態をはじめとする家庭・学校生活、意向、ライフプラン等を把握。計画の方向性を見定めるための参考資料として、アンケート調査を実施する。

基礎調査②

こども・若者ヒアリング調査

学生ヒアリング

市内2大学（工科大・産業大）の学生の意識・意見を把握。アンケート内容を具体化することで補完する。

困難を有するこども・若者へのヒアリング

不登校の状態にあるこども

ひきこもりの状態にある若者

不登校、ひきこもり等の状態にあるこども・若者の思いや意見を把握する。

基礎調査①

「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」

【調査対象】

柏崎市に住民票がある19～29歳(R7.4.1現在)の男女2,200人

【選定方法】

年齢を区切った無作為抽出(19～22歳:750人、23～26歳:700人、27～29歳:750人)

【調査方法】

依頼文及び調査票を郵送し、回収はウェブサイトもしくは郵送

【調査期間】

令和7年5月1日～5月23日

【配布数・回収数・回収率】

配布数	回収数	回収率
2,182	507	23.2%

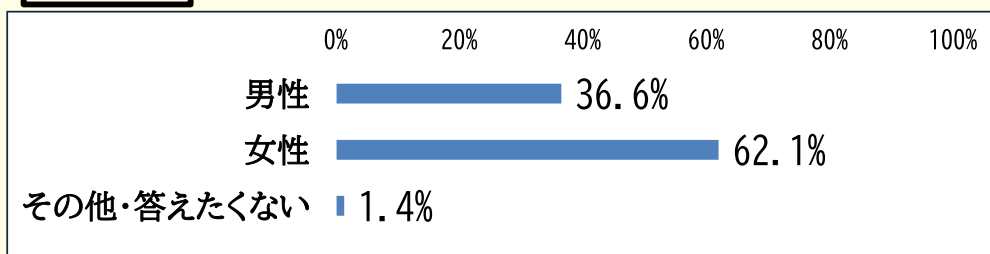
【調査結果の詳細】

「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査結果報告書」のとおりに

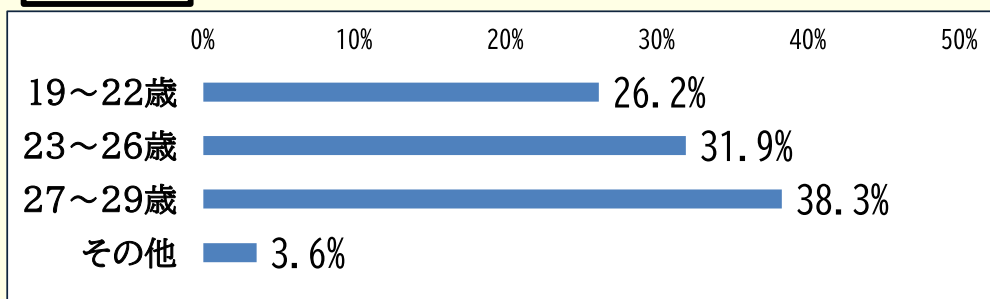
基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

回答者の属性

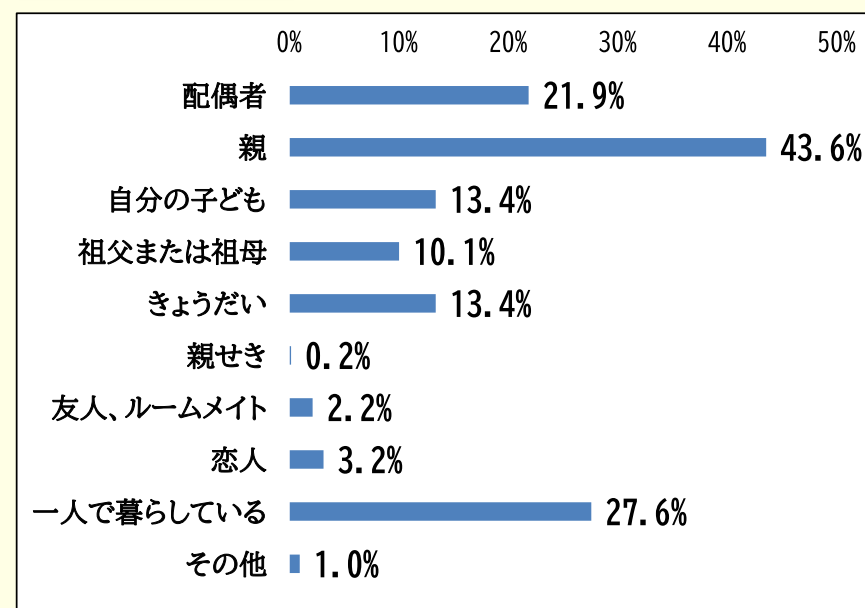
性別



年代

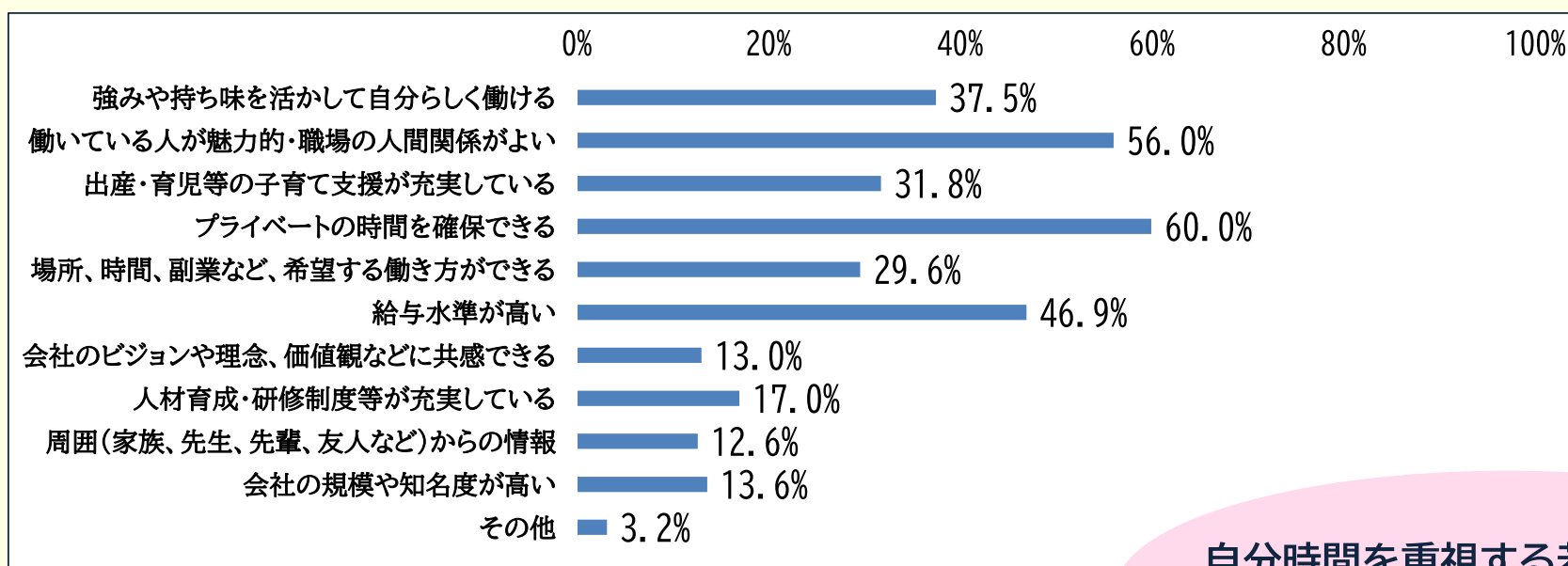


同居家族



基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

就職先を選ぶうえで重視したい点

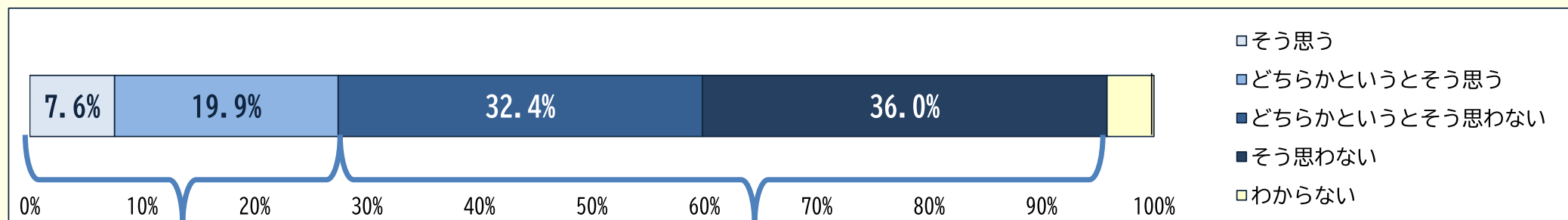


自分時間を重視する若者が多い傾向
⇒ ワークライフバランスの推進

基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

こどもや若者の遊び・体験の場

Q.柏崎市に、こどもや若者の遊び・体験の場が十分あると思う？

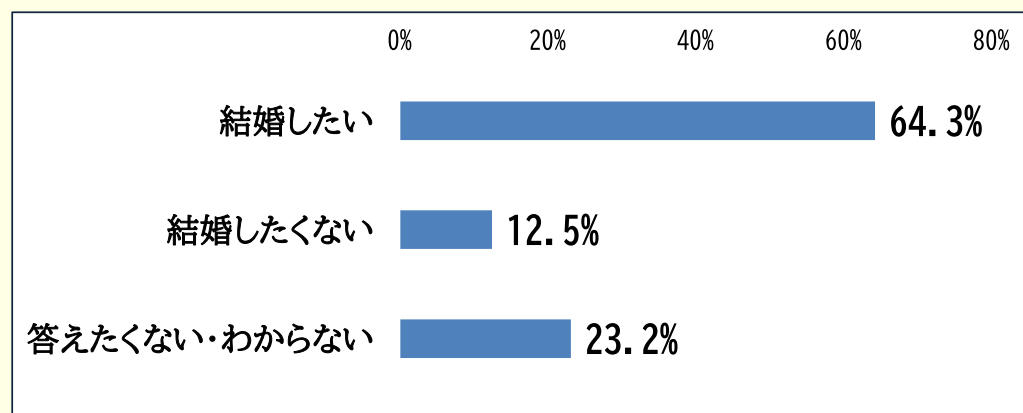


そう思う
27.5%

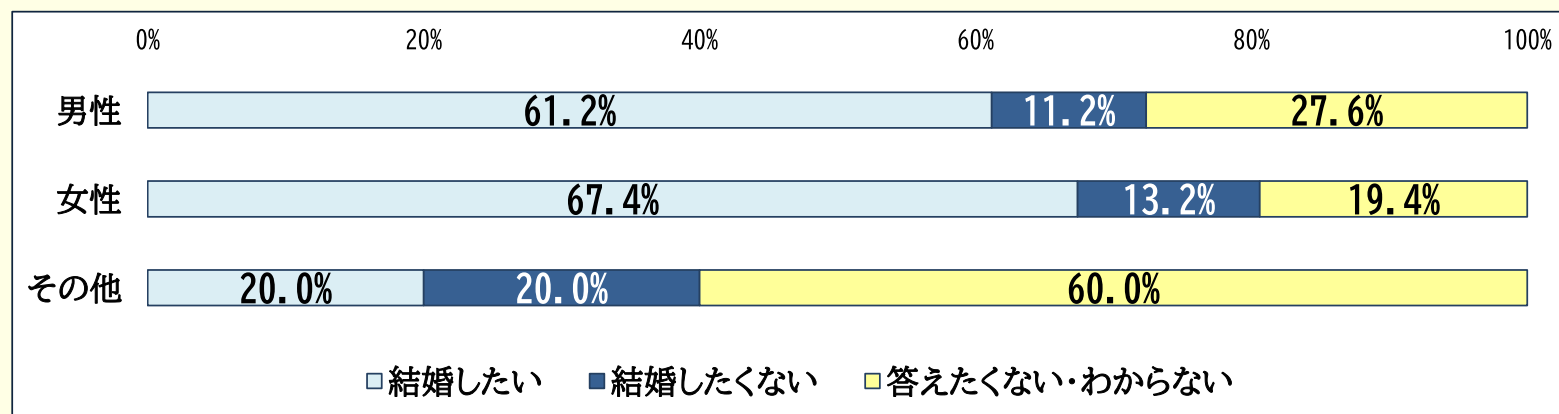
そう思わない
68.4%

基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

結婚願望

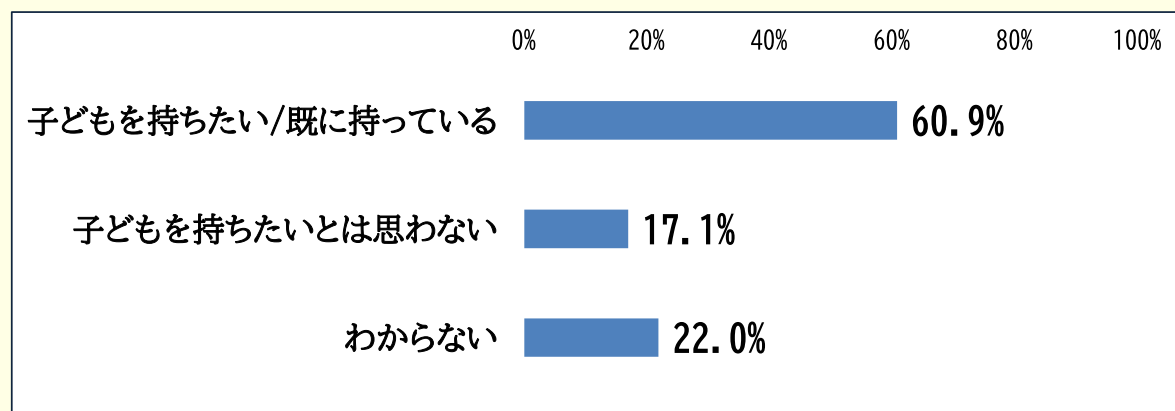


男女別

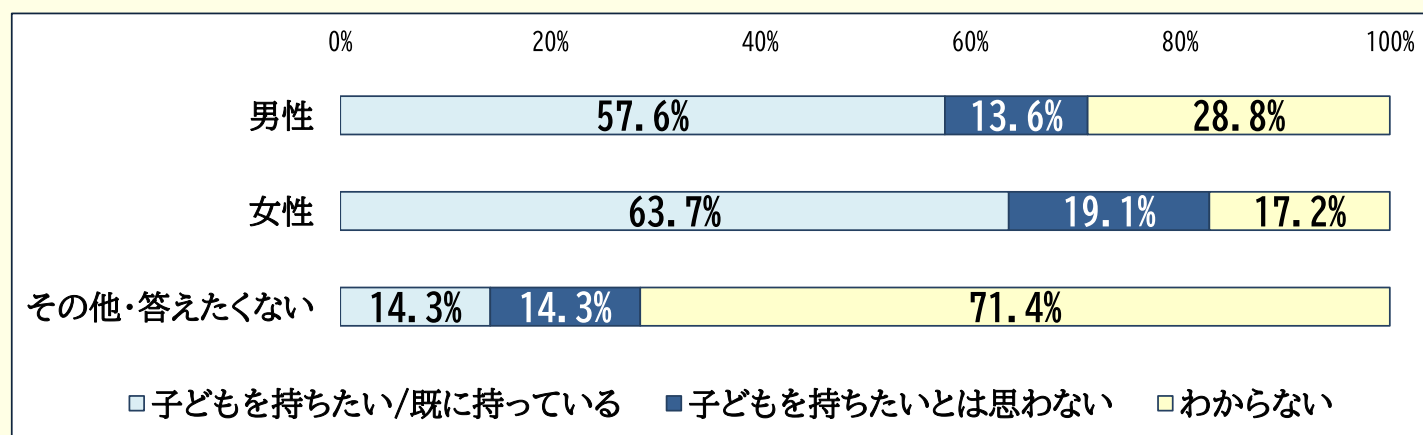


基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

こどもを持つこと

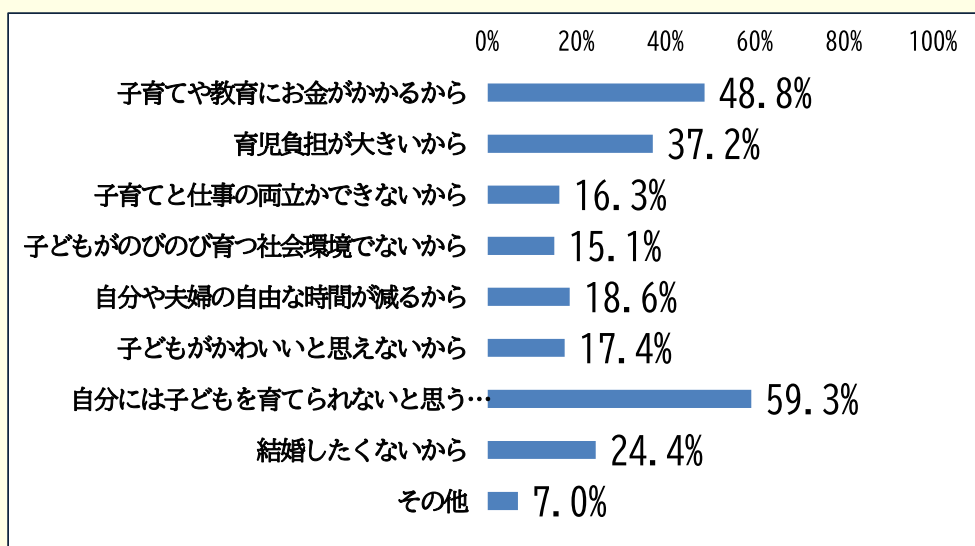


男女別

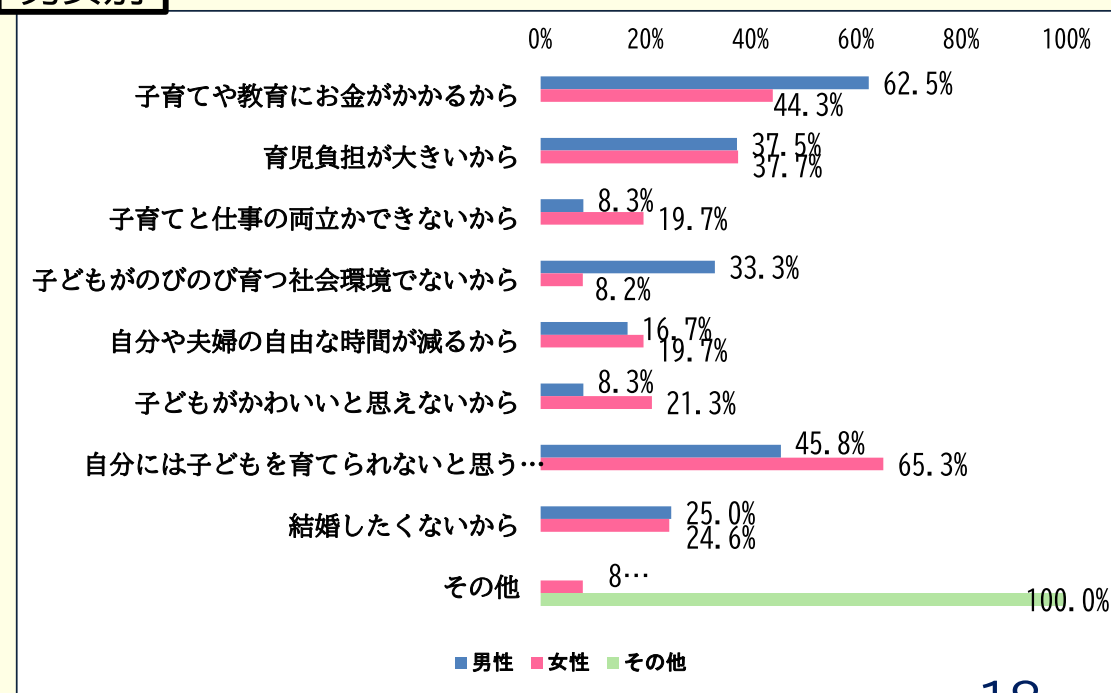


基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

こどもを持ちたいと思わない理由



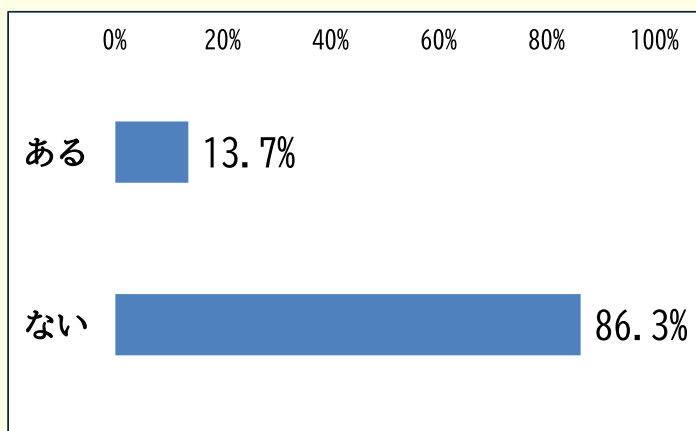
男女別



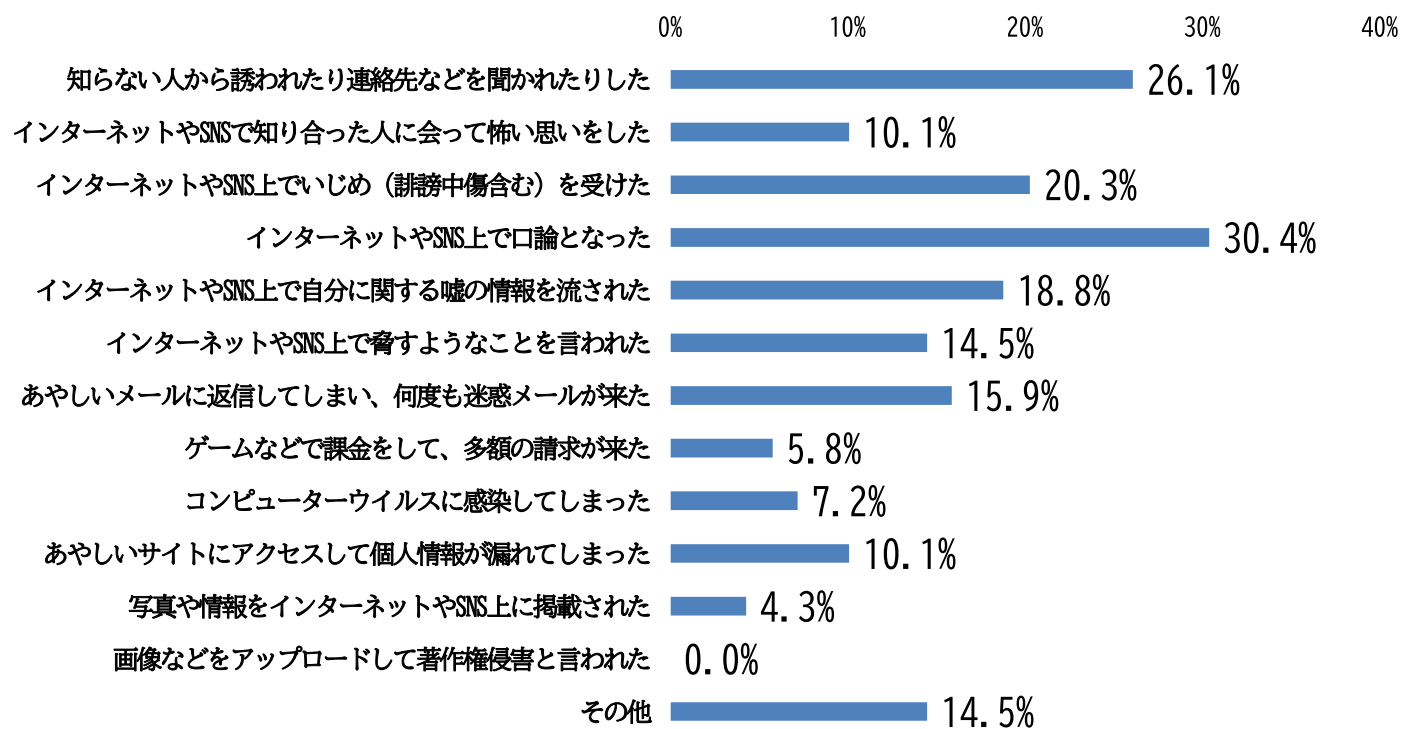
基礎調査①「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果(一部)

インターネット・SNSトラブル

トラブル経験の有無



トラブル内容



基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

学生ヒアリング

【ヒアリング対象】

柏崎市内2大学(新潟工科大学・新潟産業大学)に在籍する学生

【ヒアリング実施日】

新潟工科大学: 令和7年6月18日(水)

新潟産業大学: 令和7年7月11日(金)

【ヒアリング人数】

30名(工科大:12名、産大:18名)

【ヒアリング方法】

2グループに分かれ、KJ法の要素を取り入れ意見出し

【調査結果の詳細】

「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査結果報告書」のとおり

【ヒアリング内容】

柏崎市について	柏崎市にずっと住みたい派	* 柏崎市のいいところ * 柏崎市はこうなるともっとよい
	柏崎市にずっと住むのはちょっと・・派	* 柏崎市の残念なところ * 柏崎市はこうなったらよいのに
仕事について		* 仕事を選ぶときに重視するところ * 就職活動(将来)で大変なところ・不安なこと
恋愛・結婚観 / 子育てのイメージ		* 恋愛・結婚のイメージ * 子育てのイメージ

※ ヒアリング終了後にアンケート実施

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

学生ヒアリングの結果

柏崎市について	イベント	夏のイベントを魅力に感じる学生が多い。その一方で、冬のイベントのインパクトの弱さや他者交流ができるイベント開催を求める声が多かった。
	情報発信	WEBサイトやSNS等の発信の弱さを指摘する声が多い。若い年代の情報収集手段はSNS等が大部分を占めている。
	遊ぶ場(娯楽)	「こどもや若者の遊ぶ場(娯楽)がない」の意見が圧倒的に多く、ほぼすべての参加者から聞かれた。娯楽のなさ、若者の市外流出に繋がるとの意見が挙がった。
	公共交通インフラ	柏崎市は車を所有していないと生活が成り立たないとの指摘。すぐに車を持たない若者(学生)については生活が制限される、現状のあいくるの不便さ等の意見が聞かれた。
仕事について	やりがい	「やりがい」を重要視する学生が多く、「自分のやりたい仕事に就きたい」、「学んだことを活かせるか」等の声が多く聞かれた。
	ワーク・ライフ・バランス	「プライベート時間を確保したい」との意見が多く、残業が多い＝ブラック企業と認識する学生が多い。特に学生時は時間を自由に使えることもあり、今の生活が一変することへの不安の声が聞かれた。
	就職活動	企業を選ぶ際には、マイナビ等のWEBサイトやインターネットの情報を基に選択している学生が多く、若者の求人にインターネット情報は欠くことのできない媒体となっている。その一方で、インターネット等に情報がない企業はどのように探してよいかわからず、柏崎市にどのような企業があるのか「わからない」、「知りたい」との意見も多く聞かれた。

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

学生ヒアリングの結果

恋愛・結婚観	結婚願望	「結婚願望はない」と言う学生も、自然な流れで結果的に結婚に至ることは否定せず。結婚を「したくない」のではなく、「目指してはいない」との様子だった。「婚活」という言葉に強い抵抗感を抱く学生が多い。
	出会い	そもそも「市内に若者が交流する場がない」との意見だった。婚活目的ではない、 若者同士の気軽な交流の場・機会を求める 声が多く聞かれた。
	イメージ	学生の年代での経験の少なさに加えて漫画やテレビ等から受けるイメージも大きく、結婚に対し、漠然とした不安やマイナスイメージを抱いているようだった。

子育てについて	イメージ	「大変そう」、「お金がかかりそう」というイメージ・意見が圧倒的に多かった。社会に出る前の学生でもあり、自分が親になるイメージをまだ抱けない様子だった。 金銭的な支援 への要望が多く聞かれた。自分が大学進学していることもあってか、「こどもの大学費用を賄えるのか」との声も聞かれた。
	高齢出産	こどもを持つイメージが抱けない反面、「年を重ねたときに、こどもが欲しくなるかも」と漠然とした不安を抱える学生もいた。高齢出産となった場合の支援・不妊治療等のサポートを求める声も聞かれた。

基礎調査② 「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者へのヒアリング

今回は、「不登校」と「ひきこもり」を課題として取り上げ、ヒアリングを実施しました。

対 象	① 不登校の状態にあるこども	② ひきこもりの状態にある若者
	柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級生 一般社団法人CLAST（フリースクール）利用生	ひきこもり支援センター（アマ・テラス）登録者
協力者	ふれあいルーム指導員、CLAST職員	ひきこもり支援センター職員

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング

不登校の状態にあるこどもへのヒアリング

【ヒアリング対象】

柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級児童・生徒
一般社団法人CLAST利用生徒

【ヒアリング実施日・人数】

令和7年5月19日(月):3名(ふれあいルーム)
令和7年6月11日(水):1名(ふれあいルーム)
令和7年6月18日(水):1名(ふれあいルーム)
令和7年8月 6日(水):4名他(CLAST)

【ヒアリング方法】

- ① イベント方式
- ② 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング)
- ③ 集団での聴き取り方式(グループヒアリング)

【ヒアリング内容】

キーワード	テーマ
柏 崎 市	柏崎市のよいところ > 柏崎市のこんなところが好き！ > 柏崎市のおすすめスポット など
相 談	困ったときに相談したい人 > どんな性格の人？(優しい、まじめなど) > 自分とどんな関係の人？(家族、友だち、先生など) など
居 場 所	安心して過ごせる場所 > どんな場所？(静かな場所、にぎやかな場所など) > 特定の場所がある？(自分の部屋、トイレ、〇〇公園など)など
余 暇	至福の時間 > どんなことをしていると楽しい？
学 校	理想の学校 > こどもが「行きたくなる」学校とは？ > 学校がこうなるとよいな…願望でOK

基礎調査② 「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング

不登校の状態にあるこどもへのヒアリングの結果

キーワード	テーマ	具体的な発言/まとめ
柏 崎 市	柏崎市のよいところ	<p>「海」、「アクアパーク」、「松雲山荘」、「えんま市」、「アピタのようなお店や映画館やミスドがほしい」など</p> <p>柏崎市について考えること自体初めてな様子で最も意見が出にくいテーマだった。わかりやすい(目にとまりやすい項目)を思いつくままに絞り出していた。対象者の年齢からすると、他市の情報などは多くなく、他と比較するような発言はなかった。お店などのニーズは高い。</p>
相 談	困ったときに相談したい人	<p>「お母さん」、「友だち」、「家の人以外」、「CLASTの職員」、「正論を言わない人」、「こどもの気持ちがわかる人」、「ゲームで知り合った人」など</p> <p>信頼できる身近な存在を相談先と捉えるこどもが多い。周囲の配慮を要する子もいれば、配慮される(優しくされる)ことを煩わしく感じる子もいて、マッチングが重要。正論(答え)よりもこども目線で接しつつもエンパワメントを高めるられるような人を求める印象を受けた。</p>
居 場 所	安心して過ごせる場所	<p>「家」、「家族が出かけたときの家」、「声の聞こえない密室」、「自分を知っている人がいないところ」、「ネット環境があるところ」、「ふれあいルームやCLAST」など</p> <p>家を居場所と認識する声が多い。こどもにとって家を過ごしやすい安心できる場にすることが重要。ネット環境は重要で、よりよい設備が外出の動機づけになる子も。年齢的に行動範囲は狭く、自転車で行ける範囲に居場所がある必要がある。この年代に、市の施設などの情報は入りづらい。</p>

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)
困難な課題を有するこども・若者ヒアリング
不登校の状態にあるこどもへのヒアリングの結果

キーワード	テーマ	具体的な発言/まとめ
余暇	至福の時間	<p>「ゲームをしているとき」、「気の合う友だちといるとき」、「CLASTで遊ぶとき」、「寝ているとき」など</p> <p>ゲームをあげるこどもが圧倒的に多かった。1人でいることに心地よさを感じる子もいる一方、仲のよい友だちを求める声も多く聞かれ、この年代における友人関係は非常に重要なものと言える。</p>
学校	理想の学校	<p>「仲のよい友だちと一緒に居られる」、「学校でゲームができる」、「学校にいたずらする子がない」、「疲れたときに休める」、「こども目線の先生がいる」、「堅苦しくない学校」、「自由に過ごせるフリースペースがある」、「学校の雰囲気嫌」、「学校の皆と一緒に感じが嫌」、「できないを炙り出す感じが嫌」など</p> <p>仲のよい友だちがいることは、こどもにとって学校生活の重要ポイントとなる。学校生活全般に自由度が広がることを求める子が多い。インクルーシブ教育については、促進すると同時に、全方位的な配慮・環境等の体制整備が必要。</p>

当市の不登校児童・生徒数は依然として増加傾向にあります。
こどものエネルギーを回復するためには、必要なタイミングで活用できる居場所があることが重要です。
学校復帰や社会的自立等を支援するためにも、こどもが心地よく過ごせ、通い続けられうような場の提供、
社会環境の構築とその取組の前進が課題となります。

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング

ひきこもりの状態にある若者へのヒアリング

【ヒアリング対象】

ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者であり、
ヒアリングへの協力同意を得ることのできる若者

【ヒアリング実施日】

令和7年6月 4日(水):26歳男性

令和7年6月 9日(月):18歳女性、20歳男性、23歳女性、26歳男性

令和7年6月17日(火):18歳男性

令和7年7月24日(木):22歳男性

令和7年8月12日(火):18歳女性

【ヒアリング人数】

8名

【ヒアリング方法】

① 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング)

② 集団での聴き取り方式(グループヒアリング)

【ヒアリング内容】

- 余暇・自由時間の過ごし方
- 居場所/外出先について
- 就労に関するサポートについて
- 興味・関心のあること
- 困りごと・悩みごと

/ ひきこもり支援センターとの関わり経過

※ ヒアリング時に簡易なアンケートを実施

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング

ひきこもりの状態にある若者へのヒアリングの結果

テーマ	具体的な発言
余暇・自由時間の過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゲーム」、「ゲームで課金したい気持ちが、仕事をするきっかけやモチベーションになる」 ・「自分の部屋で過ごす」、「自分の部屋で好きなことをして過ごす」 ・「YouTubeやSNS」、「ネットで交流する」 ・「出かける」、「柏崎は車がないと外出困難、買い物に行くにも家族に乗せてもらう必要があるので不便」 など
居場所/外出先	<ul style="list-style-type: none"> ・「家」、「自分の部屋」、「気兼ねなくゲームできるところ(結局は家になる)」 ・「本来家は安心できる居場所であるべきだが、そうでない人もいる」、「家から出られる(避難できる)場がほしい」 ・「安心して過ごせる居場所などない」、「ネット上の交流も、安心できるとうわけではない」 ・「市内の自分で行ける範囲に、ゲームセンターがあるとよい」、「皆でワイワイ過ごせる場所があるとよい」 など
就労に関するサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・「世の中(柏崎)にどんな仕事があるのか知らない」、「何も知らないので答えられない」、「情報がほしい」 ・「仕事のジャンルを大きく分けて、小分けにしてわかりやすく示してもらえるとよい」 ・「動画で職場紹介をするような、行かずとも職場の雰囲気や様子を知れる仕組みがあるとよい」 ・「職場の人間関係が不安」、「仕事のモヤモヤをすぐに相談できるような相談場所があるとよい」 など

基礎調査②「柏崎市 こども・若者ヒアリング調査」の結果(一部)

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング

ひきこもりの状態にある若者へのヒアリングの結果

テーマ	具体的な発言
興味・関心のあること	・「ゲーム」、「好きなアニメや漫画」 ・「社会的なものを知りたい、触れていきたい」 ・「ひきこもり当事者が何を求めているかは、至って普通で他の若者と大きな違いはないと思う」 など
困りごと・悩みごと /ひきこもり支援センター との関わり経過	・「家族からの相談」、「中学校の先生・保健師・市のカウンセリングからの紹介」 ・「最初は相談機関を紹介されても抵抗感があり、戸惑い・不安が強かった」、「自分なりの下調べが必要だった」 ・「ひきこもり支援センターの名称の印象が悪い。わかりやすさも必要だが、わかりやすすぎると何かひっかかる」 ※困りごと・悩みごとは、アンケート実施:「身近な相談窓口の充実」、「居場所づくり」の声が多い。

課題

- ・ ひきこもりは、顕在化しにくい
⇒ ひきこもりの長期化を防ぐためには早期(若年)に支援に入る必要がある
- ・ 段階に応じて就労に向けた支援を展開できるよう、支援体制の強化・工夫が必要
- ・ 居場所の充実

報告事項

(1) 屋内遊び場施設「キッズマジック」の利用状況について

① 月別利用者数(R7.4.1～9.30)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
7,781人	7,528人	5,989人	7,161人	11,893人	6,764人	47,116人

R7.3.20プレオープンからの利用者数(3,185人)を加えると、早くも50,000人を突破

② 利用者数の変化

R7 (R7.4.1～9.30)	47,116人
R6 (R6.4.1～9.30)	23,810人
R5 (R5.4.1～9.30)	11,376人

令和6年度の約2倍、
令和5年度の約4倍の利用者数

③ 利用者の居住地の割合(R7.4.1～9.30)

市内	45.9%
県内	47.8%
県外	6.3%



8月に帰省客の利用が多かったことが、
市外利用率の増加につながっている

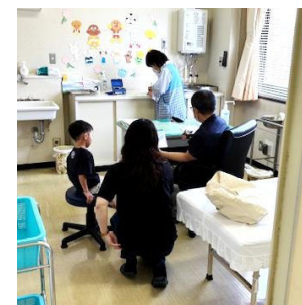
(2) 5歳児健診の受診状況について

令和7(2025)年7月より開始

目的:子どもの発達上の課題を早期に発見し、適切な支援につなぐこと、
生活習慣・その他育児に関する保健指導を行い、幼児の健康保持
及び増進を図る

① 内容

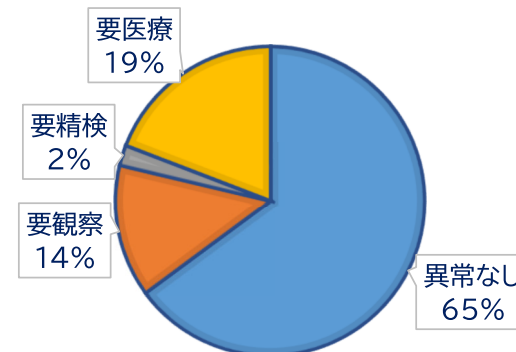
- ・計測(身長・体重) ・集団遊び(子ども)
- ・保健指導(保護者)・問診・小児科医の診察
- ・結果説明 ・専門相談(心理、教育、栄養)



② 実施状況(R7.7~9月)

	7月	8月	9月	合計
対象者(人)	26	40	32	98
受診者(人)	24	37	33	94
受診率(%)	92.3	92.5	103.1	95.9

③ 健診結果(R7.7~9月)



(3) 乳幼児等通園支援制度(こども誰でも通園制度)の利用状況について

乳幼児等通園支援制度(こども誰でも通園制度)とは

保育園等に在籍していない生後6か月から満3歳未満のこどもを、月一定時間までの利用枠の中で、就労等の要件を問わず時間単位で柔軟に預かる事業

利用実績(R7.6.1～9.30) ※6.1から運用開始

① 利用人数(実人数)：2人

② 各月の利用回数及び利用時間

	6月	7月	8月	9月	合計
利用者A	1回 3時間	2回 7時間	1回 7時間	—	4回 17時間
利用者B	—	—	—	1回 2時間	1回 2時間

③ 利用場所：松波保育園のみ

(4) 児童クラブにおける新規取り組みについて

新潟県が新たに創設した交付金制度を活用して、2つの新規取り組みを実施します

① 体験プログラムの実施(R7.11月～)

- 各児童クラブにおいて、11月～3月の間、月1回の頻度で運動レクリエーションや工作教室などの体験プログラムを実施
- 子どもたちの主体性を重視し、実施するプログラムの決定方法には「こども会議」を取り入れます

② 児童クラブミニシアターの実施(R7.12月～)

- 長期休みにおいての子どもたちの楽しみを増やすため、各児童クラブにおいて、スクリーンやプロジェクターを使用したミニシアターを実施します



運動レクリエーションのイメージ

(5) 児童クラブ使用料の改定について

近年の物価高騰などにより、令和8年度から児童クラブ使用料の値上げを検討しています

現在の使用料

通常	8月
4,750円/月	9,500円/月

現在の使用料は平成27(2015)年度以降、変更していません

【参考】 近隣市の使用料(令和7年度現在)

	8月以外	8月
長岡市	無料	無料
上越市	6,000円/月	8,000円/月
小千谷市	6,000円/月	11,000円/月
十日町市	5,500円/月	7,000円/月

(6) 保育園給食費の改定について

近年の物価高騰などにより、令和8年度から公立保育園給食費の値上げを検討しています

国が示す副食費相当額と本市副食費の推移

		R元(2019)～ R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度	R7(2025)年度
国	0～2歳児	※1			
	3歳以上児	4,500円	4,700円	4,800円	4,900円
市	0歳児	※1			
	1・2歳児	※2	6,000円(4,500+1,500)※3		
	3歳以上児	4,500円			

※1 国0～2歳児、市0歳児の副食費及び主食費は保育料の中に含まれています。

※2 R5(2023)年9月まで、市1・2歳児の副食費及び主食費は保育料に含まれていました。

※3 市1・2歳児については、R5(2023)年10月からの保育料無料化に伴い、給食費相当分として、月額6,000円を納めていただいています。

表記変更一覧

「柏崎市こども・若者計画(案)」について、下記のとおり表記を変更します。

該当箇所		旧 (10/10 配布案)	新 (10/24 配布案)
ページ	タイトル		
25	基本目標、施策の方向性、主な関連事業 基本目標1 施策の方向性(2)		※ 地域生活支援事業(地域活動支援センターⅢ型)を追加
	基本目標2 施策の方向性(1)		※ 女性活躍推進事業を削除
33	(1)若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進 ア 施策の方向性の趣旨	<p>ハローワーク柏崎と連携し、若者の就職を支援するために、企業見学や説明会を開催し、市内企業の魅力や技術をわかりやすく発信します。また、新たな分野の企業進出を促し、就職の選択肢を広げていきます。さらに、国や県などが行う研修・技能訓練の情報提供を充実させ、大学との連携によるインターンシップの受け入れ強化、新規就職者への経済支援を進め、U・Iターンや地元就職を後押しします。</p> <p>企業に対しては、多様な働き方の導入やワーク・ライフ・バランスの推進、育児・介護休暇、短時間勤務制度などの普及を呼びかけ、職場環境の改善を進めていきます。</p>	<p>誰もが働きやすい職場環境の整備を推進し、地元企業が自社の魅力や強みを発信できるよう支援します。関係団体と連携し、企業説明会の開催や採用活動への支援を行うとともに、多様な人材が活躍できるよう、就労機会の創出の促進や就労支援に取り組みます。また、多様な業種の企業立地を推進することで、就職選択幅の拡大や雇用の場の創出に努めるとともにU・Iターンや若者の地元就職を後押しします。</p> <p>企業に対しては、多様な働き方の導入やワーク・ライフ・バランスの推進、男性の育児休業取得の促進、短時間勤務制度などの普及を呼びかけ、職場環境の改善を進めていきます。</p>

柏崎市こども・若者計画（案）

「すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎」

令和 8（2026）年 4 月（仮）

空白のページ

はじめに

少子高齢化と人口減少が進行する中、こどもや若者を取り巻く環境は、核家族世帯や共働き世帯の増加、ライフスタイルの多様化、人間関係の希薄化などにより大きく変化し、それぞれが不安や負担、孤立といった感情を抱えやすくなっていることから、こどもや若者、子育て家庭が安心して暮らすために、社会全体で支えていく取組が求められています。



国では、令和5(2023)年4月に施行された「こども基本法」に基づき、すべてのこども・若者が自立した個人としてひとしく健やかに成長し、将来にわたって幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども家庭庁を設置し、こども・若者・子育て家庭への支援等に係る施策を総合的に推進しています。

こども・若者の健やかな成長や豊かな心は、人と人とのふれあい、様々な体験を通じた交流活動、地域における多様な関わりの中から育まれます。

この計画では「すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎」を基本理念とし、次代を担うこども・若者一人一人の最善の利益を尊重し、社会全体で見守っていく視点を大切にしながら、こども・若者が希望をもって健やかに成長できる社会の実現を目指します。

そのために、市民、関係団体及び企業等と連携し、こどもや若者、子育て家庭が将来にわたって柏崎市に住んでよかった、住み続けたいと実感できる施策に取り組んでいきます。

なお、本計画は令和7(2025)年度からスタートした「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画」と一体のものとして推進する「柏崎市こども計画」として運用していきます。

結びに、本計画の策定に当たり、貴重な御意見をいただきました柏崎市子ども・子育て会議委員の皆様を始め、各種基礎調査に御協力をいただいた多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

今後とも皆様の一層の御理解と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

令和8(2026)年 月

柏崎市長 櫻井 雅 浩

目 次

第1章 柏崎市こども・若者計画について

1	計画策定の背景と趣旨	3
2	計画の法的根拠	3
3	計画の位置付け	4
4	計画の期間	4
5	計画の対象	4
6	策定体制	5

第2章 若者を取り巻く現状

1	統計で見る本市の現状	9
2	基礎調査結果から見る若者の現状	12
3	若者を取り巻く現状のまとめ	17

第3章 計画の基本的な考え方

1	基本理念	21
2	計画の基本目標	21
3	こどもまんなか社会の実現に向けた数値目標	22
4	計画の体系	24

第4章 施策の展開

基本目標 1	こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成	29
基本目標 2	こども・若者の夢や希望が叶えられる環境づくり	32
基本目標 3	困難な課題を有するこども・若者やその家族への支援	36

第5章 計画の推進に向けて

1	関係機関との連携と推進体制	43
2	計画の進行管理（点検・評価・見直し）	43

資料編

1	柏崎市子ども・子育て会議（設置条例・委員名簿）	46
2	計画策定の経過	50
3	パブリックコメント（意見公募）での意見	50
4	用語解説	51

「こども」と「子ども」表記について

こども基本法、こども大綱など、こども・若者に関する呼称と年齢区分は、法律等によって様々です。

本計画においては、こども基本法にならい、「心身の発達の過程にある者」との定義を用い、原則として「子ども」ではなく、「こども」と表記します。

ただし、法令に根拠がある語を用いる場合や、既存の予算事業・取組や組織名などの固有名詞として用いる場合は「子ども」と表記します。

第1章 柏崎市こども・若者計画について

空白のページ

1 計画策定の背景と趣旨

いじめ、不登校*¹、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー*²等、こども・若者を取り巻く課題は複雑化しています。また、デジタル化、経済情勢の変化、少子高齢化等により、価値観やニーズも多様化しています。これらの課題に対応するため、こども・若者が健やかに成長し、社会生活を円滑に営むことができるよう、切れ目のない支援が必要とされています。

国においては、子ども・若者育成支援施策を総合的に推進することを目的とした「子ども・若者育成支援推進法」が平成22(2010)年4月に施行されました。また、こども施策を社会全体で総合的かつ強力に実施していくための「こども基本法」が令和5(2023)年4月に施行、同年12月には「こどもまんなか社会」の実現を目指す施策を総合的に推進する「こども大綱」及び少子化対策を抜本的に強化するための基本的方向を定めた「こども未来戦略」が閣議決定されました。

柏崎市（以下、「本市」という。）では、安心して子育てできる環境づくりを目指す「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、教育・保育の量の見込み及び確保の方策並びに妊娠期から出産・子育て期までの支援に取り組んできました。令和7(2025)年4月には少子化、子どもの貧困対策も含めた第三期計画を策定し、子育て支援施策を総合的に推進しています。

こども基本法第10条第2項において、市町村はこども大綱や都道府県計画を踏まえて「市町村こども計画」を定めることが努力義務とされました。本市では「柏崎市こども・若者計画（以下、「本計画」とする）」と「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画」を相互に関連付け、両計画を合わせて「柏崎市こども計画」と位置付けて運用していきます。

なお、子ども・若者育成支援推進法に定める市町村子ども・若者計画のうち、18歳以下のこどもに関わる施策については「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画」に内包されていることから、本計画では、それらのこどもも念頭に置きながら19歳以降の若者の育成支援に関わる施策を主として策定します。

2 計画の法的根拠

本計画は、子ども・若者育成支援推進法第9条第2項に基づく市町村計画です。

（都道府県子ども・若者計画等）

第九条 都道府県は、子ども・若者育成支援推進大綱を勘案して、当該都道府県の区域内における子ども・若者育成支援についての計画（以下この条において「都道府県子ども・若者計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

2 市町村は、子ども・若者育成支援推進大綱（都道府県子ども・若者計画が定められているときは、子ども・若者育成支援推進大綱及び都道府県子ども・若者計画）を勘案して、当該市町村の区域内における子ども・若者育成支援についての計画（次項において「市町村子ども・若者計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

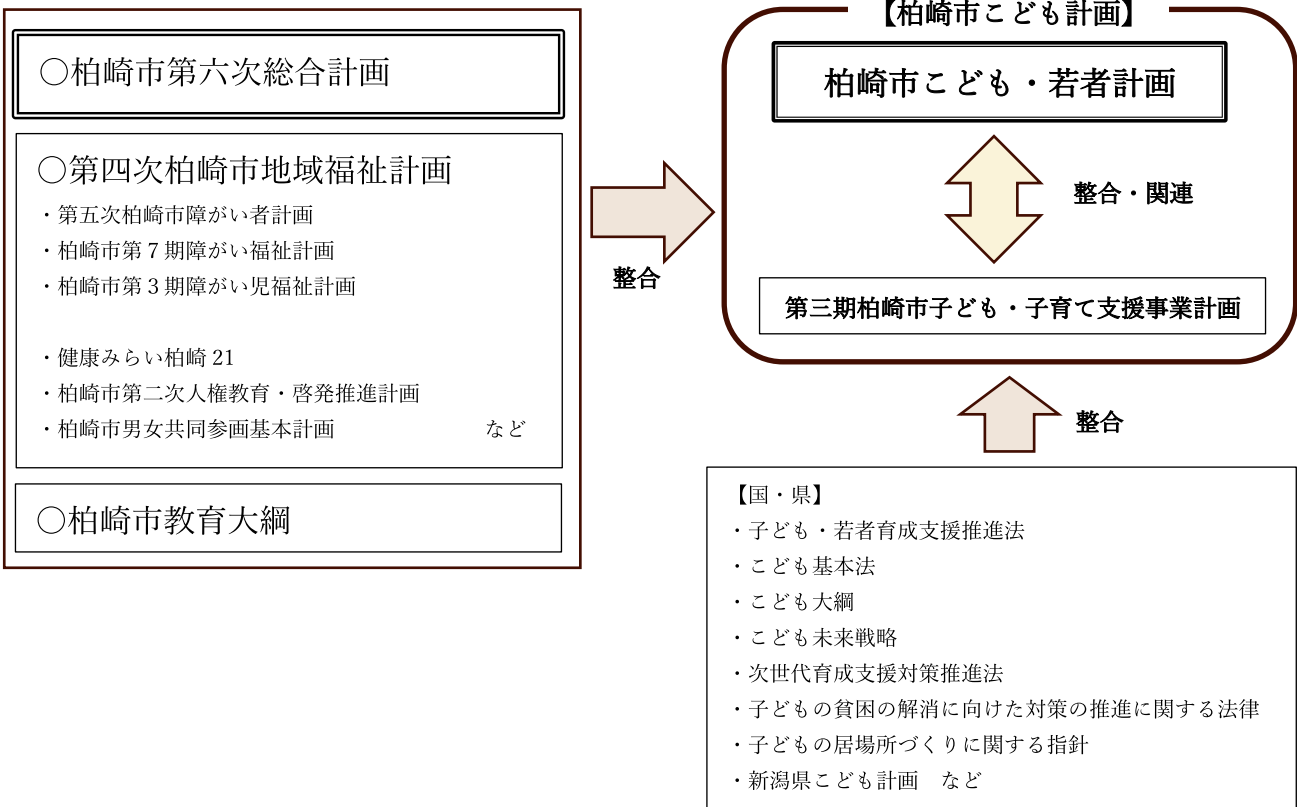
※令和5(2023)年12月22日より、子ども・若者育成支援推進大綱はこども大綱に包含されました。

3 計画の位置付け

本計画は、上位計画である柏崎市第六次総合計画との整合を図り、福祉部門の上位計画である第四次柏崎市地域福祉計画等との整合を図り策定します。

また、本計画と令和7(2025)年4月に施行された「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画」とを相互に関連付け、一体のものとして推進する「柏崎市こども計画」の一部として位置付けます。

【計画の位置付け】



4 計画の期間

本計画の計画期間は、令和8(2026)年度から令和11(2029)年度までの4年間とします。

5 計画の対象

本計画の対象となるこども・若者の範囲は、乳幼児期の0歳から青年期の29歳までを対象とします。ただし、施策によっては39歳までのポスト青年期*3も対象とします。

幼少期 0歳～6歳	学童期 6歳～12歳	思春期 12歳～18歳	青年期 18歳 ～おおむね29歳	ポ ス ト 青 年 期 20 歳代後半 ～39歳
第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画				
柏崎市こども・若者計画				

6 策定体制

(1) 子ども・子育て会議

本計画の策定においては、こども・若者施策に関わる市民や関係団体の代表者に、大学生2名を加え、幅広い関係者で構成する「柏崎市子ども・子育て会議」にて審議しました。柏崎市子ども・子育て会議構成員は資料編49ページに掲載しています。

(2) 若者の意見の反映

ア 若者の意識に関する基礎調査

こども基本法第11条において、こども施策の策定、実施、評価に当たっては、その対象となるこども又はこどもを養育する者などの意見を反映させるために必要な措置を講ずることが義務付けられています。

本計画の策定に当たり、市内在住の若者が日頃どのような生活を営み、どのような意識を持っているかを把握することで、今後の若者支援施策を進めるうえでの参考資料とするため、令和7(2025)年5月に「若者の意識に関するアンケート調査」を実施しました。また、アンケート調査を補完する目的で市内2大学の学生へのヒアリング調査、困難な課題を有するこども・若者へのヒアリング調査もあわせて実施しました。

詳しくは、「柏崎市若者の意識に関するアンケート調査報告書」、「柏崎市こども・若者ヒアリング調査報告書」を御覧ください。

イ パブリックコメントの実施

本計画の内容について、市民の意見を本計画に反映させるため、令和8(2026)年1月にパブリックコメントを実施し、意見の収集を行いました。パブリックコメント（意見公募）での意見は資料編50ページに掲載しています。

空白のページ

第2章 若者を取り巻く現状

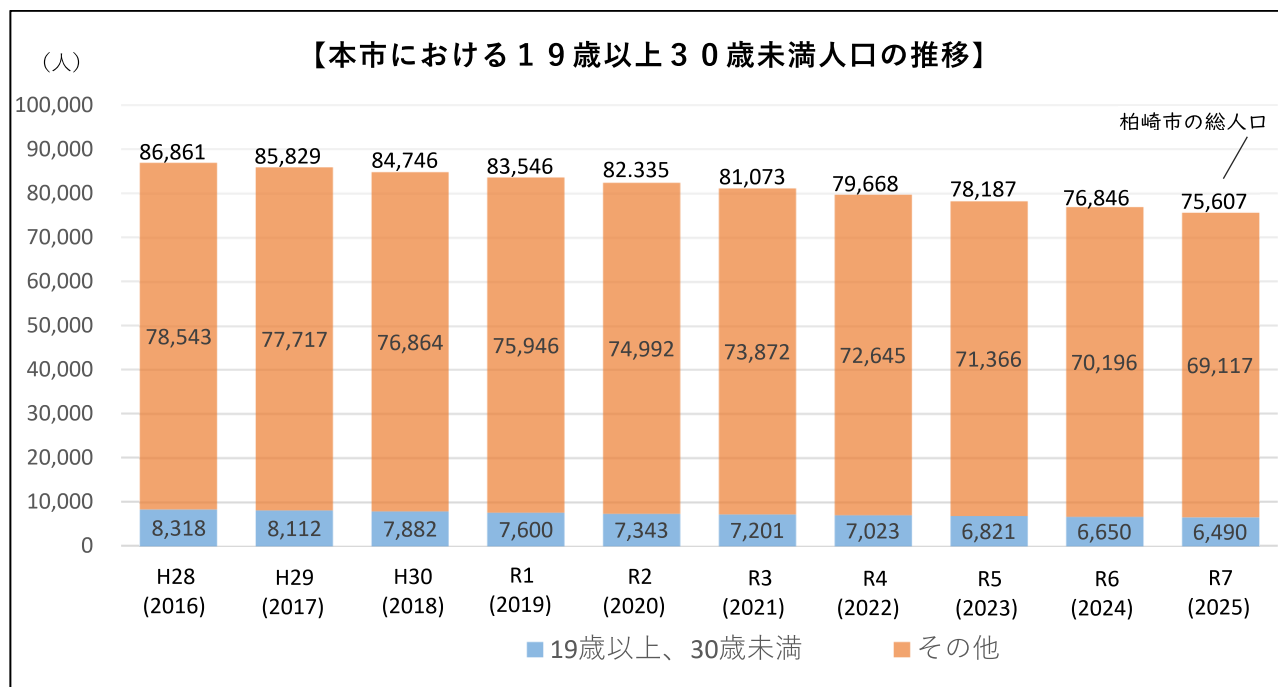
空白のページ

1 統計で見る本市の現状

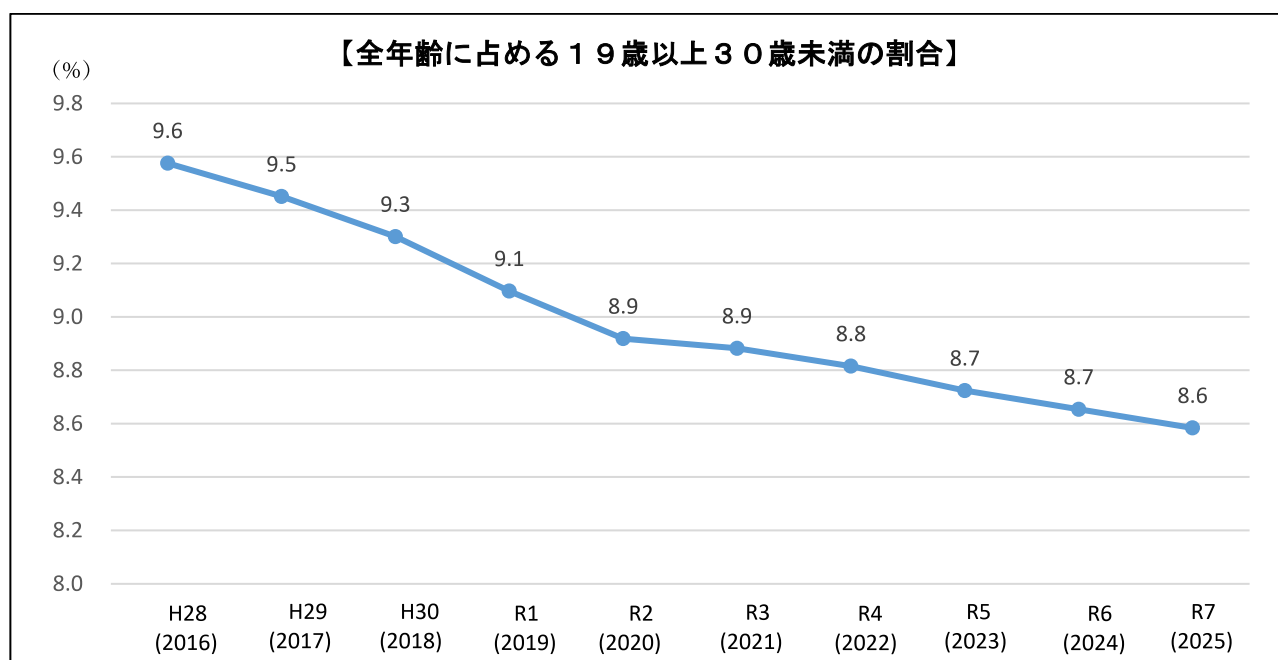
(1) 19歳以上30歳未満の人口の推移

令和7(2025)年4月末現在、本市の住民基本台帳に登録されている19歳以上30歳未満の人口は6,490人で、平成28(2016)年以降減少傾向です。

全年齢に占める19歳以上30歳未満の割合は、令和7(2025)年4月末現在で約8.6%となっています。



※各年4月末日時点

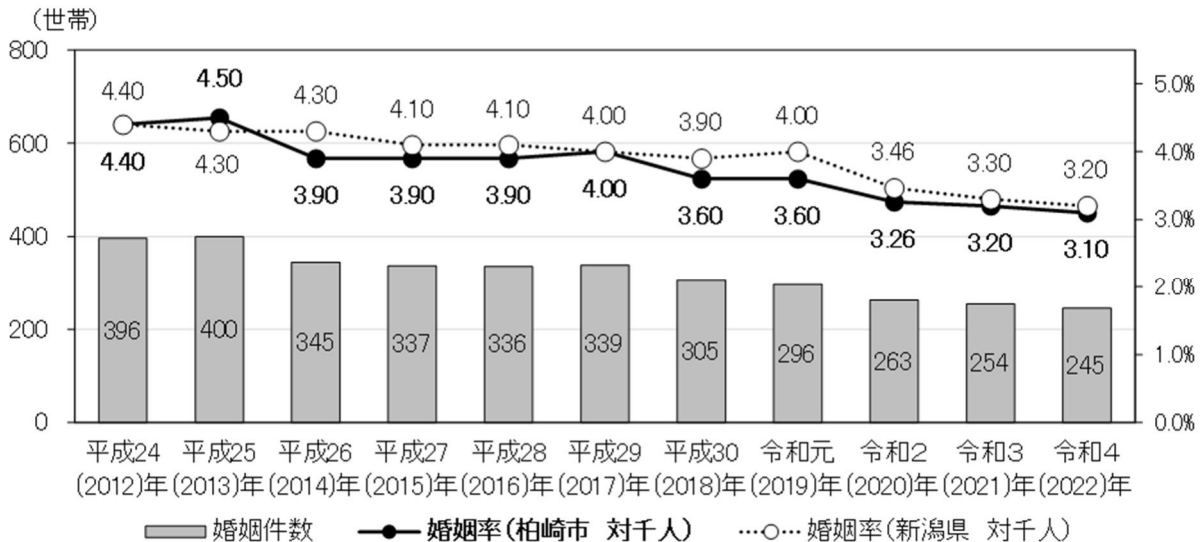


※各年4月末日時点

(2) 婚姻件数・婚姻率の推移

本市の20歳から39歳までの婚姻件数についてみると、平成29(2017)年を境に減少傾向にあり、令和4(2022)年比較では94件減少しています。

婚姻件数減少の主な要因は、結婚適齢期の人口減少、結婚に対する意識の変化、経済的な理由、出会いの機会の減少等が挙げられます。特に、結婚に対する意識の変化は、若者の価値観の変化や、経済的な不安など、複合的な要因が絡み合っていると考えられています。また、令和2(2020)年から感染が拡大した新型コロナウイルスの影響が長引くなか、経済状況の懸念などから、結婚や妊娠を控えるケースが影響したものと思われます。

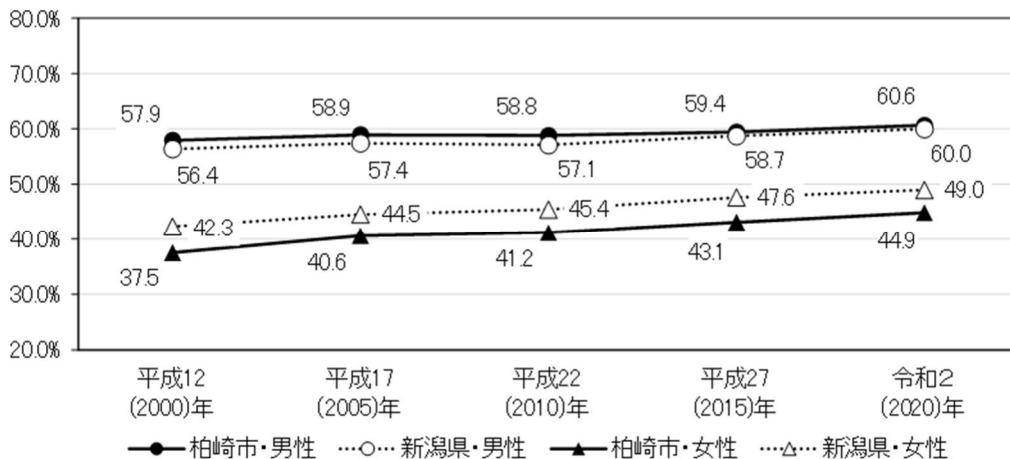


資料：新潟県「人口動態統計の概況」

(3) 未婚率の推移

本市の20歳から39歳までの未婚率についてみると、令和2(2020)年では、男性が60.6%、女性が44.9%となっています。平成12(2000)年からの推移では、この20年間で男性は2.7ポイント、女性は7.4ポイント増加し、男性に比べ女性の増加割合が大きくなっています。

年齢20歳から39歳までの未婚率の推移



資料：国勢調査

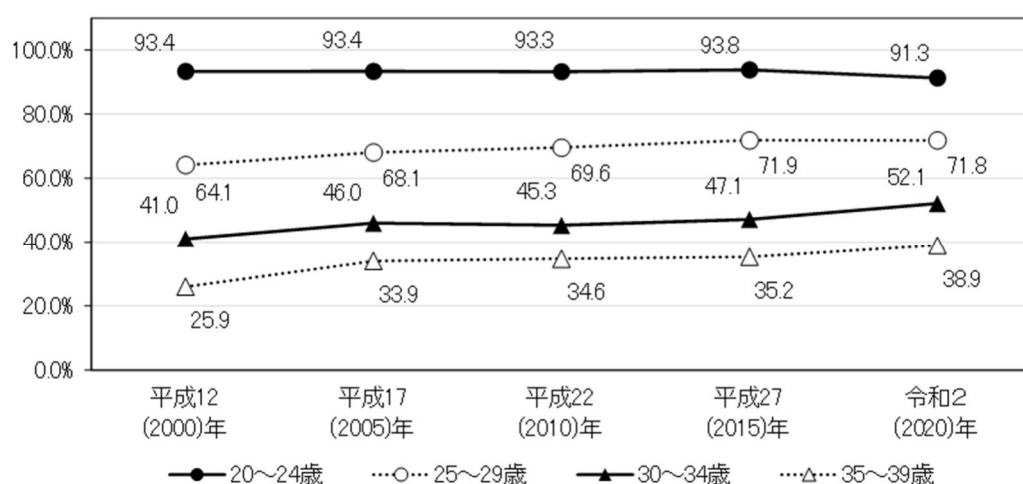
次に、未婚率を男女別、5歳階級年齢別でみると、男性は平成12(2000)年から令和2(2020)年の比較で30歳～34歳が11.1ポイント、35歳～39歳で13.0ポイント上昇しています。

考えられる要因としては、経済的不安により結婚に踏み切れない、出会いの場がない、30歳代の層での結婚・恋愛への興味の薄れが挙げられます。

一方、女性は平成12(2000)年から平成27(2015)年まで上昇しますが、令和2(2020)年ではすべての年齢階級で減少しています。各種婚活事業やマッチングアプリの普及、令和婚も相まって一時的に婚姻率が上昇したものであると推測されます。

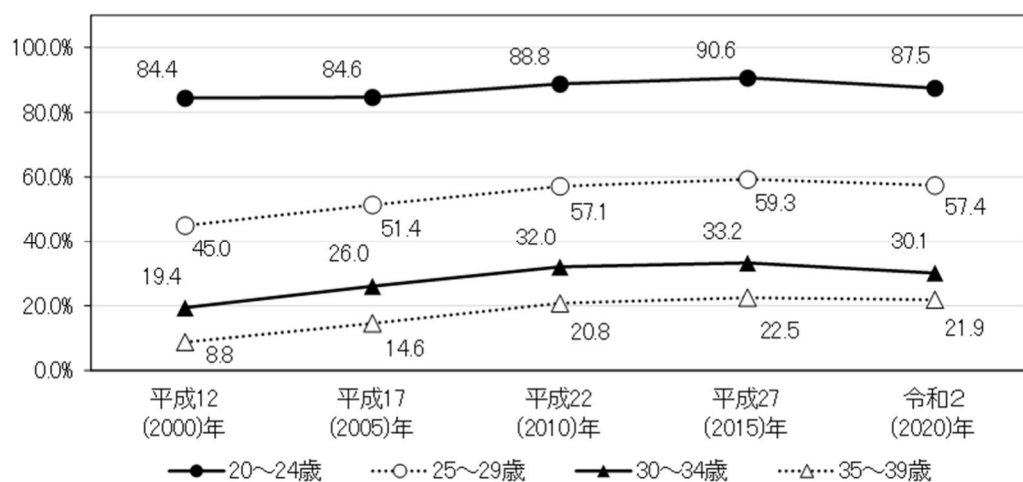
価値観の多様化は自然な社会変化であり、経済的支援や、出会いの場となる交流機会の創出・マッチング支援、さらには結婚後の育児や家事の平等な分担を促進することで、若い世代が安心して結婚・家庭を築ける環境づくりを進めていく必要があります。

男性の年齢別未婚率の推移



資料：国勢調査

女性の年齢別未婚率の推移



資料：国勢調査

(1) 調査の概要

■調査名	柏崎市若者の意識に関するアンケート調査
■調査対象者	柏崎市に住民票がある 19 歳～29 歳（令和 7(2025)年 4 月 1 日時点）の男女 2,200 人
■調査方法	郵送にて配布し、郵送もしくはインターネット上の回答フォームにて送信
■調査時期	令和 7(2025)年 5 月 1 日～5 月 23 日
■回収結果	対象者：2,182 人 回収数：507 件 回収率：23.2%

■調査名	柏崎市こども・若者ヒアリング調査		
■調査対象者	① 学生ヒアリング：新潟工科大学・新潟産業大学の学生		
	② 困難な課題を有するこども・若者ヒアリング		
	・柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級児童・生徒		
	・一般社団法人「CLAST」を利用している生徒		
	・柏崎市ひきこもり支援センターアマ・テラス登録者		
■調査方法	個別ヒアリング・グループヒアリング など		
■調査時期	令和 7(2025)年 6 月～8 月		
■調査人数	① 学生ヒアリング/新潟工科大学・新潟産業大学の学生	:	30 名
	② 困難な課題を有するこども・若者ヒアリング		
	・柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級児童・生徒	:	5 名
	・一般社団法人「CLAST」を利用している生徒	:	4 名
	・柏崎市ひきこもり支援センターアマ・テラス登録者	:	8 名

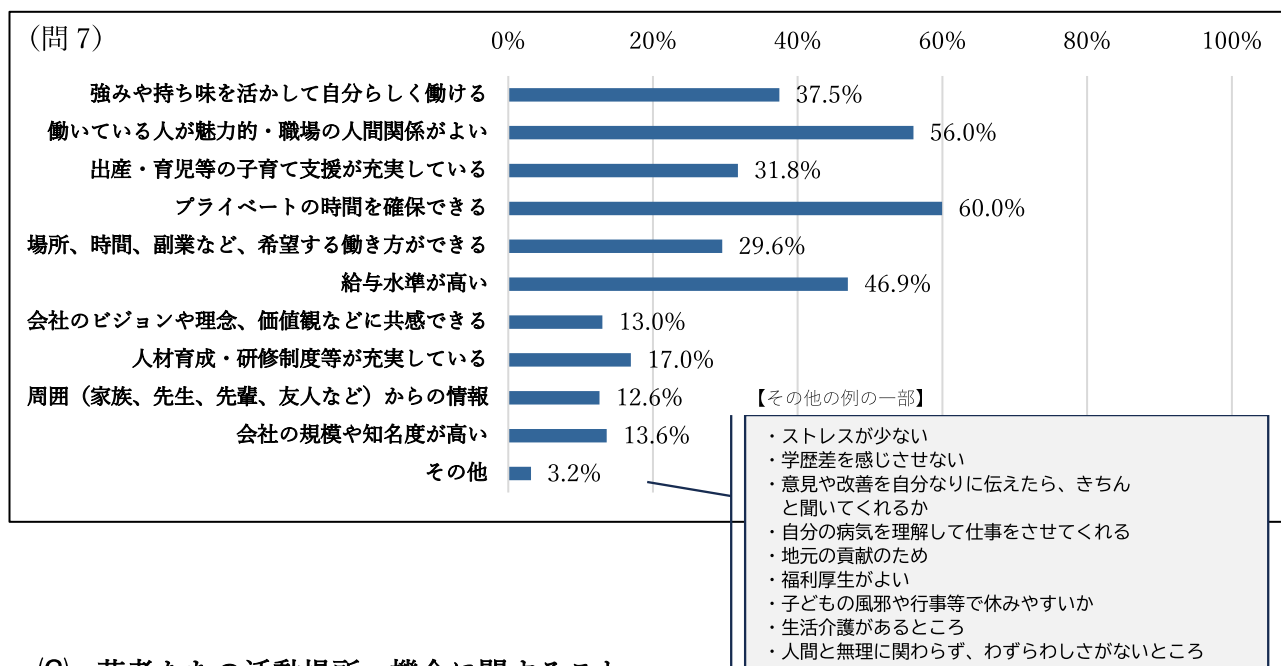
12

(2) 就労意識に関すること

問7「就職先を選ぶうえで重視したい点（重視した点）」（複数回答）の設問について、「プライベートの時間を確保できる」60.0%、「働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい」56.0%、「給与水準が高い」46.9%の順となっており、「ワーク・ライフ・バランス」を重視する傾向が高いことがうかがえます。

また、就職活動において、多くの若者がインターネットの求人情報を基に選択しており、欠くことができない媒体となっています。企業側は若者の求人において、企業概要や福利厚生、ワークスタイル（勤務形態）に加え、残業状況や年休取得率等の情報発信・提供及びインターネット上での求人や企業説明会等の開催が重要となります。

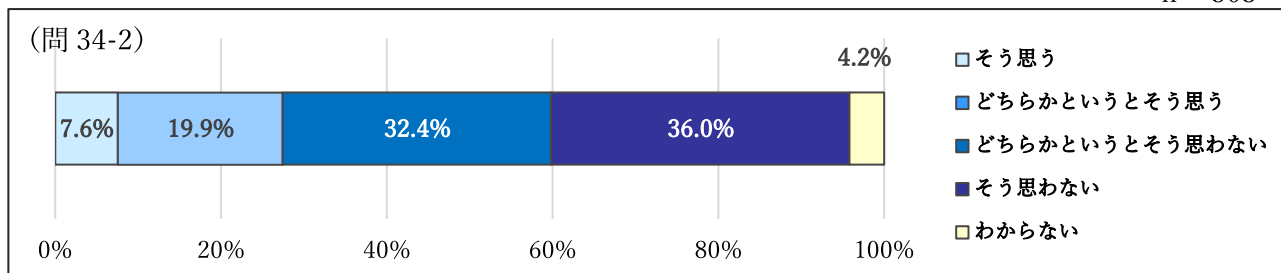
n=507



(3) 若者たちの活動場所・機会に関すること

問34_2「子どもや若者の遊びや体験の場が身近に十分あると思うか」の設問について、「そう思う・どちらかというと思う」27.5%、「そう思わない・どちらかというと思う」68.4%という結果となっています。「学生ヒアリング」や「困難な課題を有することも・若者ヒアリング」においても、こどもや若者の遊ぶ場・交流する場（居場所）に関するニーズは非常に高いことが示されています。こどもや若者にとって、遊びや体験・交流の場（居場所）があることは、心身の成長、社会性の育成、自己肯定感の向上など、様々な面で非常に重要であることから、既存の施設の魅力向上や積極的な情報発信が求められると同時に、新たな活動の場の整備が強く期待されます。

n = 503

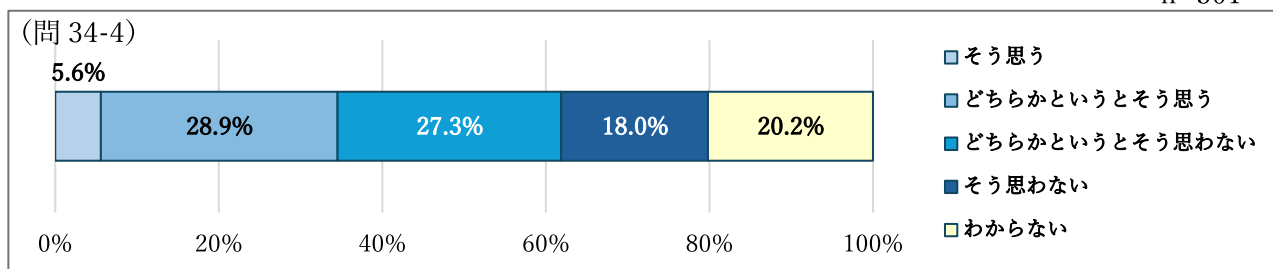


(4) 困難な課題を有する若者への支援に関すること

問34_4「障がいや発達特性があっても地域で暮らしやすいと思うか」の設問について、「そう思う、どちらかというと思う」34.5%、「そう思わない、どちらかというと思わない」45.3%という結果となっています。令和5(2023)年度国が実施した「こども政策の推進に関する意識調査^{*4}」及び令和6(2024)年度に新潟県が実施した「若者意識調査^{*5}」においても「そう思わない」が多い同様の結果となっています。

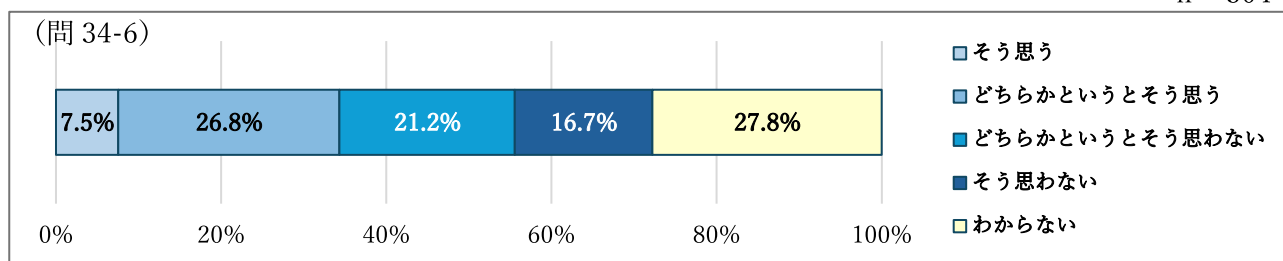
すべての人が排除されることなく、個性や違いを互いに認め合い、共に暮らしやすい地域、「地域共生社会^{*6}」の実現を目指す取り組みや支援の充実を図る必要があります。

n=501



問34_6「こころのケアの情報や支援が十分に整っていると思うか」の設問について、「そう思う、どちらかというと思う」34.3%、「そう思わない、どちらかというと思わない」37.9%という結果となっています。支援を必要とする人が、必要なタイミングで情報を得ることができるように、支援制度や相談窓口の情報発信・提供が重要となります。

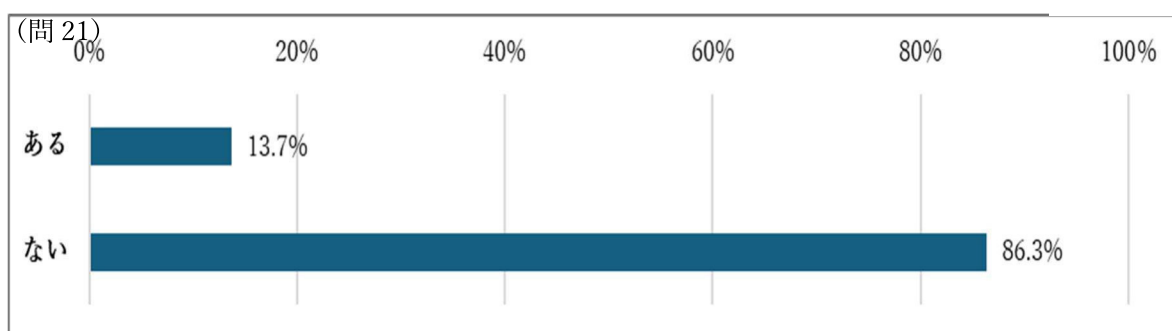
n = 504



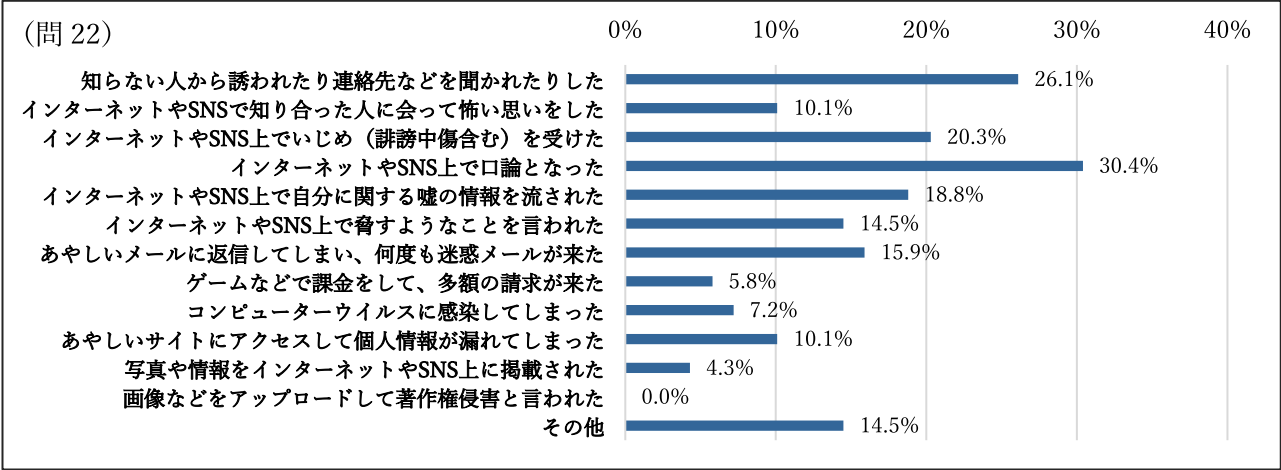
(5) インターネット・SNSトラブルに関すること

問21「インターネットやSNSでのトラブルの経験はありますか」の設問について、「ある」が13.7%という結果となっています。

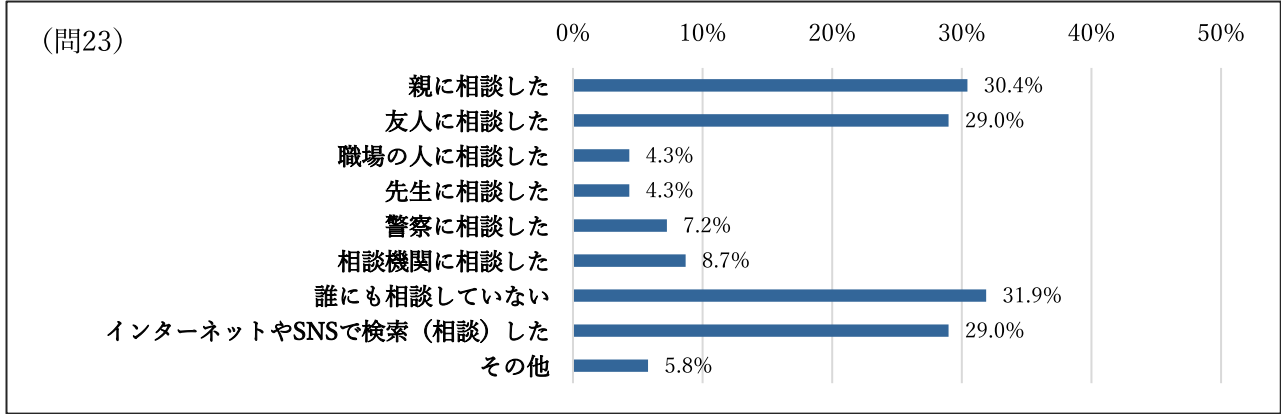
n = 505



問22「それはどのようなトラブルでしたか」（複数回答）の設問について、「インターネットやSNS上で口論となった」30.4%、「知らない人から誘われたり連絡先などを聞かれたりした」26.1%、「インターネットやSNS上でいじめ（誹謗中傷含む）を受けた」20.3%等の回答がみられました。その一方で、トラブルがあったときの対応については、「誰にも相談していない」が31.9%と最も多く、次いで、親や友人への相談が約6割に上り、身近な人に相談していることが伺える結果となりました。トラブルに巻き込まれないためには、事前の対策が重要であり、インターネットやSNSに潜む危険性の周知・啓発が重要です。 n=69

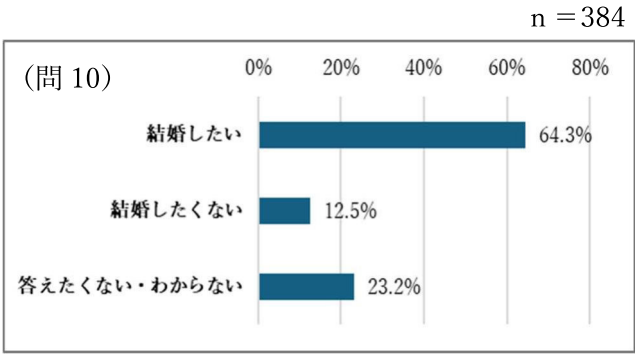


n=507



(6) 結婚・子どもを持つことに関すること

問10「自分の一生を考えたとき、結婚への考えは」の設問について、「結婚したい」は64.3%という結果となっています。「答えたくない・わからない」の回答23.2%のうち学生を除いた23歳以上の割合は約15.4%となっています。

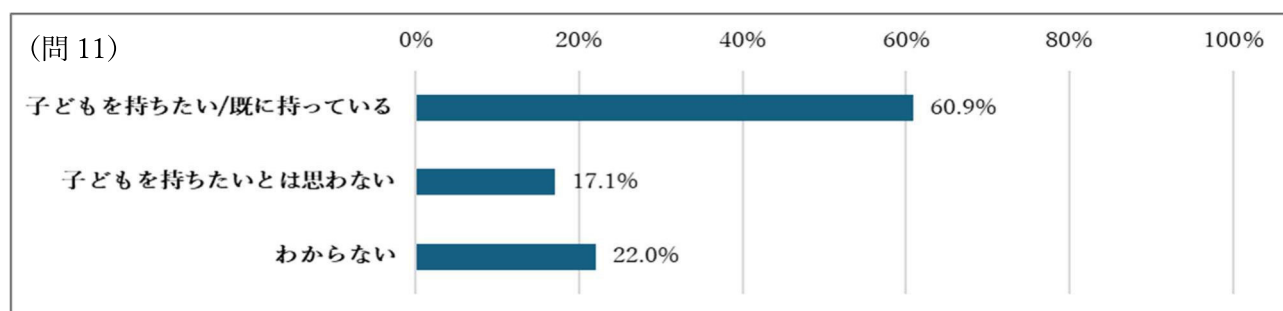


n=384

年齢別	調査数	結婚したい	結婚したくない	答えたくない・わからない
全体数(n)	384	247	48	89
19～22歳	単位(%)	34.8	22.9	33.7
23～26歳		32.4	50.0	38.2
27～29歳		30.4	22.9	25.8
その他		2.4	4.2	2.2

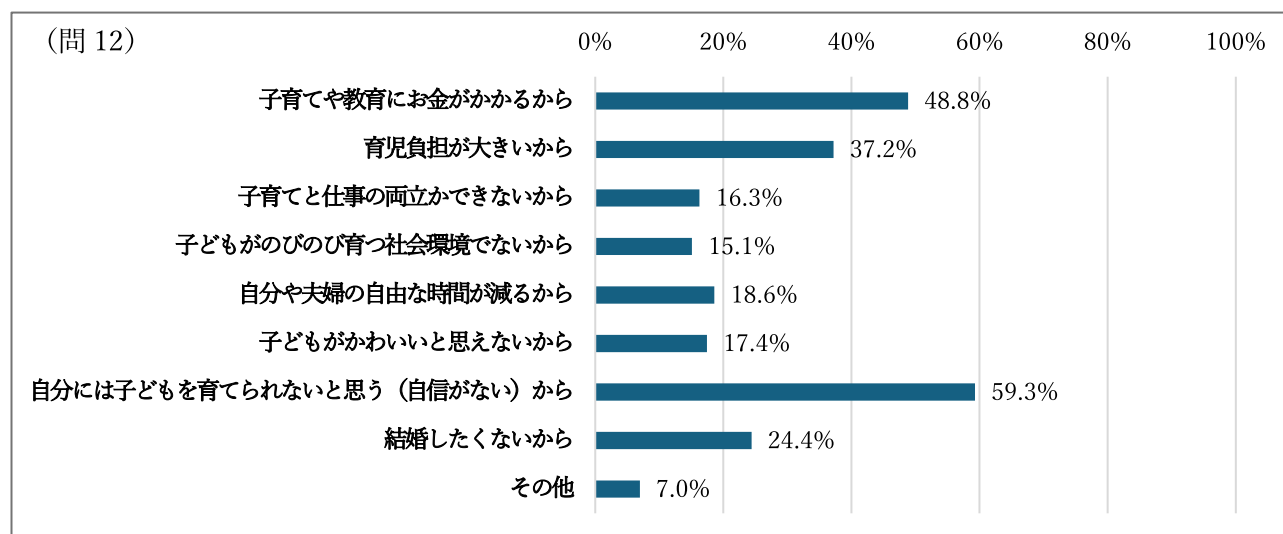
問11「子どもを持つことについて、どう思うか」の設問について、「子どもを持ちたい（既に持っている）」が60.9%、「子どもを持ちたいと思わない」が17.1%という結果となっています。

n = 504



問12「子どもを持ちたいと思わない」その理由（複数回答）の設問では、「自分には子どもを育てられないと思う（自信がない）」59.3%が最も多く、「子育てや教育にお金がかかる」48.8%、「育児負担が大きい」37.2%、「結婚したくないから」24.4%という結果となっています。「学生ヒアリング」においても、同様の意見が多く聞かれています。その一方で、今はまだ親になるイメージを抱けないが、「年を重ねてから子どもが欲しくなるかも」との発言もありました。今後は、高齢出産となった場合の支援、不妊治療の充実とあわせ、リスクについても丁寧に情報提供していくことが求められます。

n = 86



3 若者を取り巻く現状のまとめ

こども大綱が示す課題認識としては、自殺をはじめとする生命・安全の危機、孤独・孤立の顕在化、低いウェルビーイング*7、格差拡大の懸念などの複合的な課題が存在します。家庭や学校、地域など、こどもや若者が暮らす場ごとの状況としては、家庭内の虐待や世帯構造の変化、教職員の多忙化・人員不足、地域とのつながりの希薄化、インターネット上のリスク、ニートなどの就業をめぐる課題などが指摘されています。あわせて、少子化の進行、いじめや不登校の増加、こどもの貧困の深刻化などの社会問題も、こども・若者にとっての「生きづらさ」を助長する要因となっており、政策の抜本的な対策が求められています。

新潟県が令和6(2024)年度に実施した「若者意識調査*5」では、「今、自分が幸せだと思うか(問13)」の設問に、「そう思う・どちらかといえばそう思う」が79.7%と高い回答を得ている一方で、「今の自分を変えたいと思うか(問12)」の設問では、69.4%が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答し、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」の27.4%に比して大幅に高い結果でした。これは、若者の「自分の人生をより満足するものにしたい」という気持ちと、「自らを成長させたい・チャレンジしたい」という想いが表れているものと考えられます。

本市が、実施した「若者の意識に関するアンケート調査」における問15「最近の生活にどれくらい満足しているか(生活満足度)」を0(満足していない)～10(十分満足している)の数値で表す設問では、「7」の回答が最も多く、平均評点は6.1でした。一方で、令和6(2024)年度に本市の小学5年生、中学2年生、高校2年生相当の年代に実施した「子どもアンケート」において同じ設問をした際には、「10」の回答が最も多く、平均評点は7.3でした。このことから年代が上がるにつれて、生活満足度が低下していることが分かり、先述した「自分を変えたい」の回答が多くなっていることにも繋がるものと考えられます。

また、問37「柏崎市が特に取り組むべきこと」(複数回答)の設問においては、子育て支援(子どもの遊び場、保育など)の充実を望む意見が最も多く、次いで企業誘致など就労先の充実、若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実、就労に向けた相談・サポートの順で上位を占めています。また、困難な課題を有する子ども・若者への支援の充実(悩みの相談・機会の充実、いじめ・不登校*1・ニート・ひきこもり及び障がい(発達障がい含む)のある子ども・若者への支援など)に関する意見も多く寄せられています。

「こどもまんなか社会」の実現には、こどもや若者が尊重され、自分らしく生き、希望に沿って力を発揮できる社会をつくることが示されています。若者が柏崎で働き、住み続け、安心して子どもを産み育てられるようなまちを実現していくためには、多様化するニーズに対する施策の推進、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行うことが重要です。また、次代を担う若者の思いを社会全体で支え合い、応援する気運を高めていくことも重要なプロセスとなり、引いては市民全体の幸福度を高めることに繋がるものと考えられます。

空白のページ

第3章 計画の基本的な考え方

空白のページ

1 基本理念

「すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎」

一人一人のこども・若者が、自尊感情や自己肯定感^{*8}を育みながら、様々な社会体験を通じて将来の夢や希望を持つことは、自己の形成と自立の準備にとって大切なことです。

また、困難な課題を有するがゆえに夢や希望をあきらめることなくチャレンジできることが必要です。

本市では、「すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎」を基本理念として、関係機関・団体を含んだ地域全体が有機的に連携^{*9}し、すべてのこども・若者が持てる能力を生かして社会的に自立・自律^{*10}し、将来にわたり住み続けたいと思えるまちを目指します。

2 計画の基本目標

基本理念の実現に向けて、基礎調査結果等を踏まえたうえで3つの基本目標を掲げ、こども・若者施策を展開していきます。

基本目標 1

こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成

[施策の方向性]

- (1) 交流・活動の場の充実／居場所づくり（余暇の充実・交流の場の充実）
- (2) 多様なこども・若者のチャレンジの促進

基本目標 2

こども・若者の夢や希望が叶えられる環境づくり

[施策の方向性]

- (1) 若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進
- (2) 結婚・こどもを産むことを希望する若者への支援

基本目標 3

困難な課題を有するこども・若者やその家族への支援

[施策の方向性]

- (1) 複合的な課題を有するこども・若者への重層的な支援の充実（いじめ、不登校^{*1}、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー^{*2}等）
- (2) 非行・ネットトラブル等の予防・啓発

3 こどもまんなか社会の実現に向けた数値目標

(1) 国の数値目標と市の現状値

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標（アウトカム）の全12項目のうち、「柏崎市子どもアンケート」及び「柏崎市若者の意識に関するアンケート調査」で調査した7項目の結果は以下のとおりです。

こども大綱が目指す数値目標			令和6(2024)年度のアンケート結果 (子どもアンケート調査) ※対象：小学5年生、中学2年生、高校2年生		令和7(2025)年度のアンケート結果 (若者の意識に関するアンケート調査) ※対象：19～29歳の若者	
項目	目標値	現状値	アンケート設問	現状値	アンケート設問	現状値
「生活に満足している」と思うこどもの割合	70%	60.8% (2022年)	問11 全体として、あなたは最近の生活にどのくらい満足していますか ※0～10で満足している度合いを測定	7以上の割合 68.9%	問15 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか ※0～10で満足している度合いを測定	7以上の割合 48.0%
「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合（自己肯定感の高さ）	70%	60.0% (2022年)	問12 全体として、あなたは自分のことが好きだと感じますか ※0～10で好きと感じる度合いを測定	7以上の割合 50.1%	問29 全体として、あなたは自分のことが好きだと感じますか ※0～10で好きと感じる度合いを測定	7以上の割合 39.7%
「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合	90%	84.1% (2022年)	問13 あなたは自分には自分らしさというものがあると思いますか	あると思う割合の合計 78.7%	問30 あなたは自分には自分らしさというものがあると思いますか	あると思う割合の合計 73.4%
「どこかに助けくれる人がある」と思うこども・若者の割合	現状維持	97.1% (2022年)	問9 困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できる（助けしてくれる）と思う人がいますか	いると思う割合 83.1%	問25 あなたは、困りごとや悩みごとを相談できる人がいますか	いると思う割合 80.2%
「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合	70%	51.5% (2022年)	問18 最近2週間で、次のようなことがどれくらいありますか ・明るく、楽しい気分 ・落ち着いた、リラックスした気分 ・前向きで、元気 ・ぐっすりと寝られて、気持ちよく目覚めた ・日常生活で興味のあることがあった	いつも、ほとんどいつも、半分より多いと回答した割合の合計 86.0% 79.2% 82.1% 71.9% 72.2%	該当なし	
「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合	70%	20.3% (2023年)	問21 国・新潟県・柏崎市の取組について自分の意見が聴いてもらえていると思いますか	聴いてもらえていると思う割合の合計 40.1%	該当なし	
「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合	80%	66.4% (2022年)	問17 おとなになったら叶えたいことが、将来、叶えられていると思いますか	叶えられていると思う割合 60.2%	問31 自分の将来について明るい希望を持っていますか	希望がある、どちらかといえば希望がある割合の合計 67.4%

(2) 本市が目指す数値目標

こども大綱における「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標を踏まえ、4年おきのアンケートにより評価する市の目標値を以下のとおり設定します。

■自己肯定感に関する指標

番号	項 目		目標値	現状値 (こども大綱における現状値)	現状値 (子どもアンケート調査結果)	現状値 (若者の意識に関するアンケート調査結果)
1	国	「生活に満足している」と思うこどもの割合	70%	60.8% (2022年)		
	市	「全体として生活に満足している」と思う割合	70%		68.9% (2024年)	48.0% (2025年)
2	国	「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合（自己肯定感の高さ）	70%	60.0% (2022年)		
	市	「全体として自分のことが好きだ」と思う割合	70%		50.1% (2024年)	39.7% (2025年)
3	国	「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合	90%	84.1% (2022年)		
	市	「自分らしさというものがある」と思う割合	90%		78.7% (2024年)	73.4% (2025年)

■悩みや不安に関する指標

番号	項 目		目標値	現状値 (こども大綱における現状値)	現状値 (子どもアンケート調査結果)	現状値 (若者の意識に関するアンケート調査結果)
1	国	「どこかに助けしてくれる人がある」と思うこども・若者の割合	現状維持	97.1% (2022年)		
	市	「困っているときに相談できる（助けしてくれる）人がある」と思う割合	98.0%		83.1% (2024年)	80.2% (2025年)

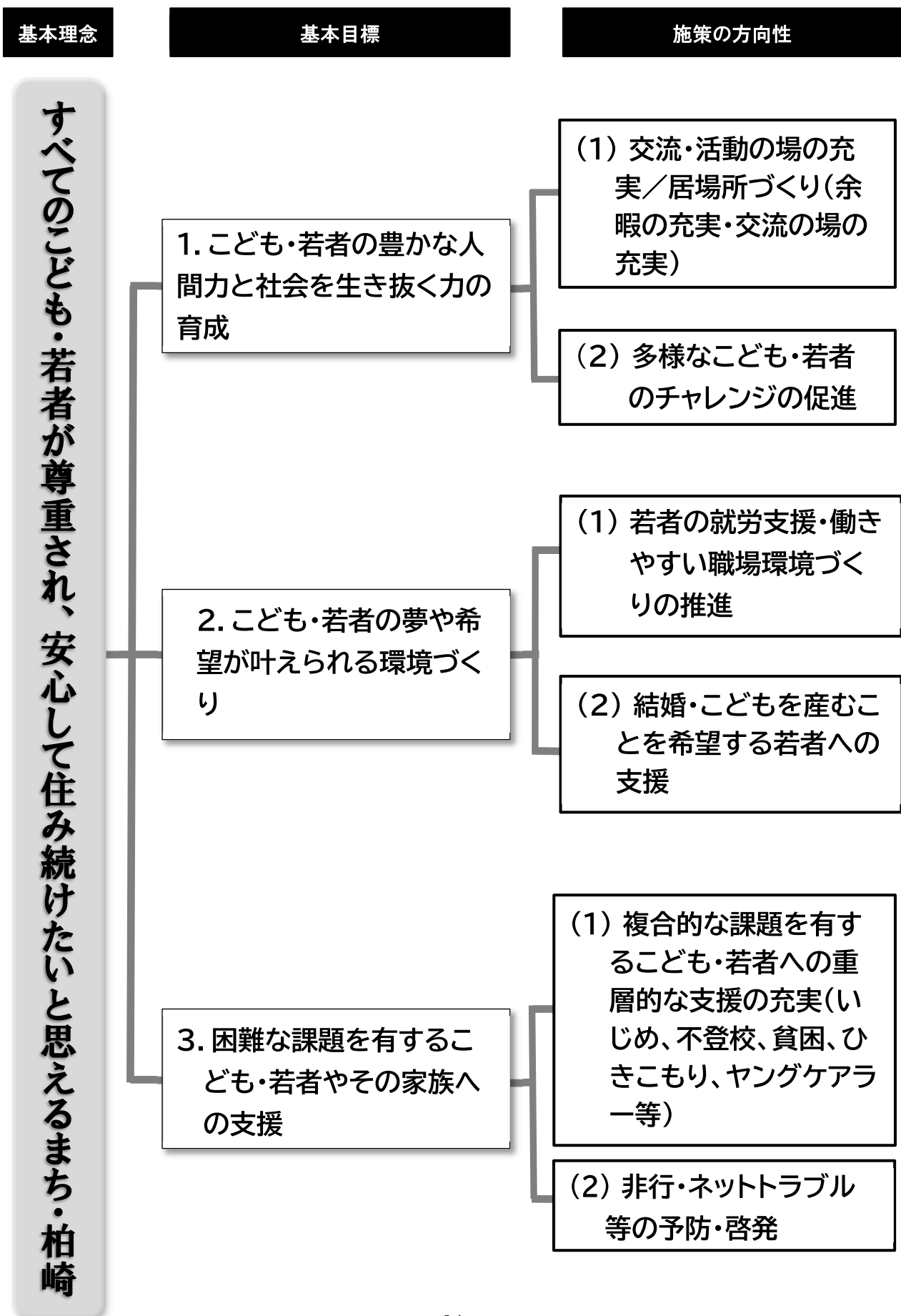
■将来への希望に関する指標

番号	項 目		目標値	現状値 (こども大綱における現状値)	現状値 (子どもアンケート調査結果)	現状値 (若者の意識に関するアンケート調査結果)
1	国	「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合	70%	51.5% (2022年)		
	市	「最近2週間で、次のようなことがある」と思う割合 ・明るく、楽しい気分 ・落ち着いた、リラックスした気分 ・前向きで、元気 ・ぐっすりと寝られて、気持ちよく目覚めた ・日常生活で興味のあることがあった	すべての項目で半分以上 80%		半分以上合計 86.0% 79.2% 82.1% 71.9% 72.2% (2024年)	該当なし
2	国	「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合	80%	66.4% (2022年)		
	市	「将来、自分の夢が叶えられている」と思うこどもの割合	80%		60.2% (2024年)	
	市	「自分の将来について明るい希望がある、どちらかといえばある」と思う若者の割合	80%			67.4% (2025年)

■意見反映に関する指標

番号	項 目		目標値	現状値 (こども大綱における現状値)	現状値 (子どもアンケート調査結果)	現状値 (若者の意識に関するアンケート調査結果)
1	国	「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合	70%	20.3% (2023年)		
	市	「国・新潟県・柏崎市の取組について自分の意見が聴いてもらえている」と思う割合	70%		40.1% (2024年)	該当なし

4 計画の体系



基本目標、施策の方向性、主な関連事業

基本目標	施策の方向性	主な関連事業
1. こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成	(1) 交流・活動の場の充実／居場所づくり(余暇の充実・交流の場の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ■放課後児童健全育成事業 ■放課後子ども教室推進事業 ■子どもの屋内遊び場施設運営委託事業 ■子どもの遊び場施設整備補助金 ■県立こども自然王国管理運営費 ■柏崎市美術展覧会(市展) ■博物館管理運営費 ■博物館振興事業 ■プラネタリウム管理運営費 ■図書館サービス事業
	(2) 多様なこども・若者のチャレンジの促進	<ul style="list-style-type: none"> ■新潟県柏崎市ウェルカム柏崎ライフ応援事業補助金 ■新潟県柏崎市 U・I ターン促進住宅支援事業補助金 ■U・I ターン住宅取得助成金 ■首都圏移住・就業者支援補助金 ■子育て世帯移住・就業者支援補助金 ■県立こども自然王国整備費 ■公民館講座運営事業 ■市民大学運営事業 ■子どものスポーツ体験・能力測定業務 ■奨学金貸付事業 ■かしわざきこども大学事業 ■かしわざき”木”のちから発信事業(親子森林体験)
2. こども・若者の夢や希望が叶えられる環境づくり	(1) 若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ワーク・ライフ・バランス推進事業(ワーク・ライフ・バランスセミナー) ■ワーク・ライフ・バランス推進事業(女性活躍推進セミナー) ■大学との連携・協働事業 ■柏崎市移住定住マッチングサイト「くじらと。」 ■育児休業取得促進事業 ■女性活躍推進事業 ■若年就労支援事業 ■雇用促進事業 ■働き盛りのメンタルヘルズ講座 ■新規就農者育成支援事業 ■青年就農支援事業 ■地産地消推進事業(収穫体験) ■林業従事者雇用促進支援事業(新規雇用促進、雇用定着促進) ■林業従事者雇用促進支援事業(新規雇用住宅支援) ■漁業就業者支援事業
	(2) 結婚・子どもを産むことを希望する若者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ■男女共同参画啓発事業(家事シェアリーフレットによる啓発) ■不妊・不育治療費助成事業 ■結婚活動応援事業 ■子育て応援事業 ■1 歳児・2 歳児の保育料無料化 ■家庭養育応援事業 ■出産前のパパママセミナー ■地域子育て支援拠点事業(元気館ジャングルキッズ・公立子育て支援室) ■私立保育園地域子ども・子育て支援事業(私立保育園子育て支援室) ■私立保育園地域子ども・子育て支援事業(私立保育園一時預かり・延長保育) ■病児保育事業 ■思春期保健対策事業
3. 困難な課題を有するこども・若者やその家族への支援	(1) 複合的な課題を有するこども・若者への重層的な支援の充実(いじめ、不登校、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー等)	<ul style="list-style-type: none"> ■生活困窮者自立支援事業(子どもの学習・生活支援事業) ■障害者総合支援法の福祉サービス ■児童福祉法の福祉サービス ■障害者相談支援事業 ■SOS の出し方に関する教育 ■SOS の受け止め方研修 ■ゲートキーパー養成研修 ■精神保健相談業務 ■ひきこもり支援事業 ■ヤングケアラーへの支援 ■家庭児童相談事業 ■いじめ・不登校電話相談 ■ふれあいルーム推進事業 ■教育相談事業(カウンセリングルーム) ■心の教室相談員事業 ■子どもの心育ち支援連携体制構築事業(教職員研修事業) ■通級指導教室事業 ■スクールサポート事業 ■特別支援教育推進事業
	(2) 非行・ネットトラブル等の予防・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ■男女共同参画啓発事業(デートDV 防止啓発講座) ■人権擁護事業(拉致問題啓発・人権講演会) ■人権擁護事業(モニタリング) ■消費者対策事業(消費生活センター) ■情報教育の推進事業(児童生徒) ■教職員研修事業(教職員)

空白のページ

第4章 施策の展開

空白のページ

基本理念の実現に向け、次の3つの基本目標を掲げ施策を展開していきます。

基本目標 1

こども・若者の豊かな人間力と社会を生き抜く力の育成

現状と課題

現代のように変化の激しい社会では、若者が自分らしく生きていくために、「人間力」と「社会を生き抜く力」を育てることが大切です。

具体的には、自己肯定感を高める、他人を思いやる心を育てる、社会性を身につける、困難を乗り越える力をつけるといったことが重要となります。

こども家庭庁が実施した令和5(2023)年度こども政策の推進に関わる意識調査では、日本の若者の「協調的幸福感^{*11}（周囲と良い関係を築きながら幸せを感じること）」は、13歳～15歳で最も高く、年齢が上がるにつれて低くなり、25歳～29歳で最も低くなることがわかりました。特に働き始めて数年のこの年代では、自己肯定感^{*8}、将来への楽観、職場の満足度や居心地の良さが協調的幸福感^{*11}を支える鍵になります。そのためには、若者がこどもの頃から「居場所」を持ち、自分の未来に希望を持てるような環境をつくる必要があります。さらに、人とのつながりや価値観を学べる場、仲間づくりや多様性を学ぶ機会を増やすことも重要となります。

本市が行った「若者の意識に関するアンケート調査」において、問16「自由な時間の過ごし方（複数回答）」の設問では、家族や友人と出掛けたり、一緒に過ごすとの回答が61.1%あったものの、何もしない、や、テレビ・動画・DVDを見る、SNSなどインターネットやゲームをするといったデジタルメディアに関することへの回答が平均で53.8%と高い結果となりました。また、問34_2「子どもや若者の遊びや体験の場が身近に十分あるか」という設問に対しても「そう思わない・どちらかというと思わない」が68.4%という高い結果となっています。

問34_3「学校でのインクルージョン^{*12}が推進されているか」の設問では、「そう思う・どちらかというと思思う」44.0%、「そう思わない・どちらかというと思思思思」31.3%となったものの、問34_4「障がいや発達特性があっても地域で暮らしやすいと思うか」という設問においては、「そう思う・どちらかというと思思思思」34.5%、「そう思わない・どちらかというと思思思思」45.3%と否定的な意見が上回りました。地域での暮らしやすさに関しては、同様の設問である、こども家庭庁（内閣府）が実施した令和4(2022)年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」Q15(3)や、新潟県が実施した令和6(2024)年度の「若者意識調査」問42において、「そう思わない・どちらかというと思思思思」がともに47.5%であるなど、国・県・市を通じて否定的な意見が多い結果となっています。

これらの調査から、インターネットやSNS、スマートフォンの普及等によって、人との対話や地域活動・交流の機会が減り、つながりが薄れていることがその要因の1つであり、課題となると考えられます。若者が人間力や社会を生き抜く力を育むためには、「多様性の尊重」と「若者自身の積極的な参加」が重要です。人にはさまざまな価値観があることを理解し、それを尊重し支え合うこと、また、若者が安心して自分らしくいられる場や、個性を活かして社会に関わり、チャレンジできる機会の確保やその支援が求められています。

(1) 交流・活動の場の充実、居場所づくり

ア 施策の方向性の趣旨

すべてのこども・若者が、年齢に関係なく、安心して過ごせる居場所を持てるよう、社会全体で支えていくことが大切です。「居場所」とは、遊んだり、人と交流したり、1人で好きなことをしたり、もしくは何もしなくてもよい場所や時間、そして人とのつながりなど、こども・若者が心地良く、安心できるすべての環境を指します。

新しい居場所をつくるだけでなく、児童クラブや学習支援の場、公民館や図書館など、既にある地域の施設等を、もっと居心地の良い場所になるよう取り組むことも重要な「居場所づくり」となります。本市では、こども・若者の視点に立ち、声を聴きながら、誰一人取り残さない多様な居場所づくりを進めていきます。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	放課後児童健全育成事業	放課後や学校休業日に留守家庭となる小学校の児童を預かり、適正で安全な遊びや生活の場を提供、子どもたちの健全育成を図る。(放課後児童クラブを21か所、23単位(令和8年4月1日現在)を開設)	子育て支援課
2	放課後子ども教室推進事業	県立こども自然王国の施設を利用し、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動などに取り組み、子どもたちの安心安全な活動拠点を提供	子育て支援課
3	子どもの屋内遊び場施設運営委託事業	柏崎ショッピングモール「フォンジェ」内に開設した子どもの屋内遊び場施設「キッズマジック」の運営を委託し、子どもの遊び場環境の充実を図る	子育て支援課
4	子どもの遊び場施設整備補助金	町内会などが主体的に行う子どもの遊び場整備事業(子どもの遊び場環境の向上)に対して、補助金を交付	子育て支援課
5	県立こども自然王国管理運営費	県立こども自然王国の適正な維持管理を行い、子どもや保護者が豊かな自然の中で交流を深め、子どもの健全な成長を図る	子育て支援課
6	柏崎市美術展覧会(市展)	創作活動の成果を発表する場を作り、多くの方々に芸術鑑賞の機会を提供	文化・生涯学習課
7	博物館管理運営費 博物館振興事業 プラネタリウム管理運営費	市立博物館の適正な維持管理を行い、多くの方々が柏崎の自然や人物、歴史、文化を学ぶ機会を提供し、プラネタリウムをきっかけとして星空に親しむことにより、子どもの健全な成長を図る	博物館
8	図書館サービス事業	誰もが利用しやすい身近な図書館として、読書環境を整え、情報提供や学習支援を行うなど、こどもや若者をはじめ幅広い世代に生涯学習の場を提供	図書館

(2) 多様なこども・若者のチャレンジの促進

ア 施策の方向性の趣旨

こども・若者が、自分の個性や能力を大切にし、自らの希望や意欲に応じて、チャレンジできる環境を整えることが大切です。そのためには、経済的な支援や心のサポートに加え、一人一人のニーズに合った教育や学びの機会を用意すること、異なる価値観や経験を

持つ人々が、互いを理解し、社会の一員としての自覚を深め、主体的に関わる機会を増やすことで協力し合える関係性の構築、意識の醸成を図ります。

また、個々の特性や状況に応じた支援を提供し、誰もが安心して自立・自律^{*10}できる環境づくりを行います。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	新潟県柏崎市ウェルカム柏崎ライフ応援事業補助金	市内への定住を図るため、柏崎市に居住している住民登録時点の年齢が34歳以下の方の奨学金返還を支援（国家公務員または地方公務員（非常勤職員等も含む）は対象外）	元気発信課
2	新潟県柏崎市U・Iターン促進住宅支援事業補助金	県外から市内企業等にU・Iターン就職し、賃貸住宅に住む、住民登録時点の年齢が39歳以下の方の家賃を補助	元気発信課
3	U・Iターン住宅取得助成金	転入から3年以内に市内に住宅を取得または市内に定住住宅を取得後1年以内に転入した方で、定住住宅を取得する際に取扱金融機関からの借入額が200万円以上である方の住宅取得を助成（公務員も利用可）	元気発信課
4	首都圏移住・就業者支援補助金	東京23区又は東京圏（東京23区に通勤）から柏崎市にU・Iターンし、各種要件を満たした方に移住支援金を交付	元気発信課
5	子育て世帯移住・就業者支援補助金	東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）から柏崎市にU・Iターンした子育て世帯で、各種要件を満たした方に移住支援金を交付	元気発信課
6	公民館講座運営事業	子どもからシニアまでのニーズに合った、多様な学びの機会を提供。興味関心の目覚めや発展を促す幅広い分野の講座の実施	文化・生涯学習課
7	市民大学運営事業	主に18歳以上の方々を対象に、専門性の高い学習機会を提供。幅広い学問分野を対象にした講座を実施	文化・生涯学習課
8	子どものスポーツ体験・能力測定業務	未就学児や小学生を対象に、運動遊び出前教室、親子運動あそび教室、親子で体力測定を実施。また、柏崎市スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの体験を行う	スポーツ振興課
9	奨学金貸付事業	経済的理由により大学などへの就学が困難な方に、無利子の奨学金を毎月貸与	教育総務課
10	かしわざきこども大学事業	かしわざきこども大学として、概ね18歳未満の子どもを対象とした各種事業を行う。	学校教育課
11	かしわざき“木”のちから発信事業（親子森林体験）	木の伐採、製材作業の見学、木工工作という一連の工程を親子で体験。また、森林が持つ多面的機能について学習を行う	農林水産課

現状と課題

将来の夢や希望を実現するためには、就職や結婚、子育てなどによる時間の変化や金銭面の動きを見据えたうえで、明確な目標を持つことが大切です。

仕事も生活の一部と考え、ライフステージに合わせて多様な生き方を選べるよう、ワーク・ライフ・バランスを意識する必要があります。そのために、ライフイベント（就職、結婚、出産、子育てなど）について本人で選択できるよう情報を提供したり、妊娠・出産などの正しい知識を広めることが重要です。また、若者が将来に希望を持てるよう、経済的な安定に向けた就職支援も必要となります。

こども家庭庁の令和5(2023)年度「こども政策の推進に関する意識調査」によると、結婚の意思がある未婚者は全体の57.7%でした。

年代別に見ると、「いずれは結婚したい・5年以内に結婚したい」との回答が20代以下で最も高く、「2～3年以内に結婚したい・すぐにでも結婚したい」との回答は、30代で最も高い結果でした。「結婚するつもりはない」との回答は、高い年代ほど割合が高くなっており、40代では約6割でした。

子育てに対する理解を家庭・地域・職場で広め、安心してこどもを産み育てられる社会づくり、意識の醸成が求められています。

本市が行った「若者の意識に関するアンケート調査」において、「就職先の企業等を選ぶうえで特に重視する点」の設問（複数回答）では、「プライベートの時間を確保できる」60.0%、「働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい」56.0%、「給与水準が高い」46.9%が上位を占めています。若者が自分の適性や将来について主体的に考えられるよう、キャリア教育や職場体験の機会、個人に合った就労支援が必要となります。また、企業側においてもワーク・ライフ・バランスを意識した職場環境づくり（残業時間の削減、休暇取得の推奨、賃上げ、相談窓口の設置、職場全体の意識改革など）に、これまで以上の積極的な取組が重要です。

若い世代が、やりがいや充実感を持って働き、結婚や子育てを希望する人が、安心して夢を実現できるようにするためには、経済的・社会的な自立を支援することが大切です。また、若者の意見を尊重し、多様な価値観が共に認められる社会づくりを進めることも重要です。

(1) 若者の就労支援・働きやすい職場環境づくりの推進

ア 施策の方向性の趣旨

ハローワーク柏崎と連携し、若者の就職を支援するために、企業見学や説明会を開催し、市内企業の魅力や技術をわかりやすく発信します。また、新たな分野の企業進出を促し、就職の選択肢を広げていきます。さらに、国や県などが行う研修・技能訓練の情報提供を充実させ、大学との連携によるインターンシップの受け入れ強化、新規就職者への経済支援を進め、U・Iターンや地元就職を後押しします。

企業に対しては、多様な働き方の導入やワーク・ライフ・バランスの推進、育児・介護休暇、短時間勤務制度などの普及を呼びかけ、職場環境の改善を進めていきます。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	ワーク・ライフ・バランス推進事業 (ワーク・ライフ・バランスセミナー)	事業所の人事・総務担当者などを対象にワーク・ライフ・バランスを推進するためのセミナーを開催	人権啓発・男女共同参画室
2	ワーク・ライフ・バランス推進事業 (女性活躍推進セミナー)	事業所の人事担当者や女性従業員などを対象に女性のキャリアアップにつながるセミナーを開催	人権啓発・男女共同参画室
3	大学との連携・協働事業	市内2大学の魅力づくりや認知度の向上により市内外からの進学を促進し、若者の活力によるまちづくりを目指す	企画政策課
4	柏崎市移住定住マッチングサイト 「くじらと。」	柏崎市内にあるU・Iターン者の採用に積極的な企業を紹介	元気発信課
5	育児休業取得促進事業	市内の中小企業等に勤務する男性労働者が育児休業を取得した場合に、男性労働者及び事業者へ奨励金を交付	商業観光課
6	女性活躍推進事業	女性が活躍しやすい職場環境の整備等に取り組んだ事業者を対象に、かかった経費の一部を助成	商業観光課
7	若年者就労支援事業	ワークサポート柏崎において、専門相談員が職業相談を行うほか、自己分析や面接練習など就職活動に役立つセミナーを開催	商業観光課
8	雇用促進事業	柏崎職安管内雇用促進協議会(事業費の一部を負担)による高校生や大学生等を対象とした企業説明会を開催、協議会が運営するホームページ「ジョブナビかしわざき」で管内企業の情報発信を行う	商業観光課
9	働き盛りのメンタルヘルス講座	地域や企業へ出向き、こころの健康に関する情報提供、健康づくりの健康教育を実施	健康推進課
10	新規就農者育成支援事業	新規就農希望者を雇用した農業法人などが国の「雇用就農資金」の助成を受けた場合、市からも上乗せ助成	農林水産課
11	青年就農支援事業	国が定める要件を満たす認定新規就農者に対して、経営開始資金を交付	農林水産課
12	地産地消推進事業(収穫体験)	農作物の栽培、収穫、選果、加工及び販売にいたるまでを学習・体験	農林水産課
13	林業従事者雇用促進支援事業 (新規雇用促進、雇用定着促進)	林業経営体が雇用する新規雇用者に係る人件費及び特殊手当の一部を補助	農林水産課
14	林業従事者雇用促進支援事業 (新規雇用住宅支援)	新規で林業経営体に雇用された就業者に対して賃貸住宅の家賃の一部を補助	農林水産課

15	かしわざ”木”のちから発信事業（親子森林体験）	木の伐採、製材作業の見学、木工工作という一連の工程を親子で体験。また、森林が持つ多面的機能について学習を行う	農林水産課
16	漁業就業者支援事業	漁船をリース又は購入する漁業協同組合の正組合員に対して漁船のリース又は購入費用の一部を補助。また、新規に漁業協同組合の正組合員になる漁業者に対して漁業経費、研修費、生活費の一部を補助	農林水産課

（２）結婚・こどもを産むことを希望する若者への支援

ア 施策の方向性の趣旨

本市においても、若い世代の未婚率や初婚年齢の上昇が大きな課題となっており、少子化の大きな要因となっています。

改善のためには、若者が希望を持てる雇用環境の整備、仕事と子育ての両立支援（保育環境や子育て制度の充実）、男性の家事・育児参加の促進、ひとり親家庭や多子家庭への支援、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援、地域や世代間の助け合いによる子育て支援が必要です。また、結婚を望む人への支援や、子育て家庭を応援する社会的な雰囲気づくりも大切です。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	男女共同参画啓発事業（家事シェアリーフレットによる啓発）	市民や事業所を対象に家事シェアリーフレットを配布	人権啓発・男女共同参画室
2	不妊・不育治療費助成事業	不妊や不育症治療を受ける夫婦の経済的負担を軽減するため、費用の一部を助成	子育て支援課
3	結婚活動応援事業	出会いや結婚を望む若者を支援 ・結婚を希望する若者に出会いの機会や結婚へのきっかけづくりを提供するため、イベントなどの開催 ・新潟県が開設するマッチングシステムの登録料助成 ・結婚新生活支援補助金を交付	子育て支援課
4	子育て応援券事業	経済的負担の軽減や子育て世帯が安心して子どもを産み育てられる環境の充実を図る ・0～3歳までの子どもがいる世帯を対象に、子育て応援券「かしわ★ざ★キッズ！スターチケット」（電子・紙）を配布	子育て支援課
5	1歳児・2歳児の保育料無料化	1・2歳児の保育料を世帯の収入にかかわらず無料化	保育課
6	家庭養育応援券事業	経済的負担の軽減や子育て世帯が安心して子どもを産み育てられる環境の充実を図る ・1歳児からの未就学児童のうち、保育料無料化の対象となる保育園等を利用していない方を対象に、家庭養育応援券「かしわ★ざ★キッズ！スターチケット@ホーム」（電子・紙）を配布	保育課
7	出産前のパパママセミナー	妊娠5～7か月の妊婦の健康チェック（個別相談）、妊娠7～9か月の妊婦とパートナーの集団健康教育（沐浴実習等）の2回コースで実施し、妊娠・出産・子育て支援の充実を図る	子育て支援課

8	子育て支援室（地域子育て支援拠点事業・私立保育園地域子ども・子育て支援事業）	元気館ジャングルキッズ、保育園・認定こども園・幼稚園の子育て支援室において、保護者同士が交流する場の提供や子育て相談を実施。また、身近な子育て相談窓口として、こども家庭センターとの連携を図る	保育課
9	一時預かり事業	保護者の様々な理由（就労・けが・病気・冠婚葬祭・リフレッシュなど）により保育できないときに一時的に預かり保育を実施	保育課
10	延長保育事業	保育認定を受けたこどもを対象に、通常の利用時間を超えて保育を実施	保育課
11	病児保育事業	病気の始まりから治るまでのお子さんの預かり保育（ムーミンハウス、びっころの2か所で実施）	保育課
12	思春期保健対策事業	申し込みのあった中学校に、市内助産師を派遣し、中学生への心身の健康保持や健全な成長を支援	学校教育課

現状と課題

社会の変化により、こどもや若者が感じる生きづらさが問題となっています。その中で、「こども基本法」や「子ども・若者育成支援推進法」に基づき、全てのこども・若者に対するライフステージ全体での支援の充実や切れ目のない支援を行うことが求められています。

こども基本法では、こどもの意見を年齢や発達に応じて尊重し、最善の利益を最優先に考えることが基本理念とされています。そのため、施策を考える際には、当事者の声を聞き、必要な支援を把握することが大切です。一方で、いじめ、不登校^{*1}、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー^{*2}など、困難な課題を抱えるこども・若者の中には、自分の思いを伝えにくい状況にある人も多くいます。

本市の「若者の意識に関するアンケート調査」結果では 80.2%の若者が「悩みを相談できる人がある」と回答しており、最も多かったのは「母親」69.2%、次いで「友人」56.4%、「父親」43.6%の順でした。一方で「相談できる人がいない」の回答は 8.1%と少ないものの、いないと考える理由には、「相談したいと思える人がいない」48.8%、「相談しても解決しないと思う」41.5%、「誰に相談したらよいかわからない」34.1%が多くあげられています。

また、「困っていることや悩んでいること」（複数回答）では、「将来の生活」52.7%、「お金のこと」49.5%、「仕事・就職」46.5%が上位となっています。他にも、近年ではインターネットや SNS 等の普及に伴い、トラブルに巻き込まれるこども・若者が増加しております。トラブル経験の有無についての設問では、「ある」の回答は 13.7%でしたが、トラブルの内容は、「インターネットや SNS 上で口論となった」30.4%、「知らない人から誘われたり連絡先などを聞かれたりした」26.1%、「インターネットや SNS 上でいじめ（誹謗中傷含む）を受けた」20.3%が上位となっており、スマートフォン利用の低年齢化が進むとともに SNS の利用が増加し、SNS に起因する犯罪が増加している昨今では、見逃せない課題と言えます。

こども・若者をトラブルから未然に守り、また困難な課題を有するこども・若者やその家族が、地域で安心して暮らし、社会的に自立・自律^{*10}できるようになるためには、早期の予防・啓発への取り組みが重要であるとともに、相談体制の強化や経済的支援等の充実・促進が不可欠です。そしてこども・若者が抱えている課題の解決を目指す支援と、背景にある生きづらさに寄り添いつながり続ける支援、その両輪からこども・若者の孤立を防ぎ、継続的にサポートしていくことが重要となります。

(1) 複合的な課題を有するこども・若者への重層的支援の充実（いじめ、不登校、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー等）

ア 施策の方向性の趣旨

複合的な課題を有するこども・若者に対しては、一人一人の状況を理解し、本人のペースを尊重して寄り添いながら、共に歩む支援、また多面的な支援が必要となります。そのためには、学校、福祉、医療、地域団体などの関係機関と連携し、支援を必要とすることも・若者を早期に発見すること、そして適切な支援に繋げ、継続的にサポートすることが大切です。例えば、不登校^{*1}を課題とすることもであっても、実はいじめや貧困、発達障がいなど、困難な課題がいくつも複雑に絡み合っていることが少なくありません。こども・若者の成長段階に応じ、適切なタイミングでサポートし、本来持っている力を発揮できるよう支援することで、こども・若者が自信を持って前に進めるよう支えていきます。

【いじめ・不登校^{*1}】

本市の令和 6 (2024) 年度のいじめ認知件数は前年度より小学校は減少(228 件→201 件)、中学校は増加(39 件→57 件)となっています。また、不登校^{*1}の児童・生徒数は近年増加傾向（令和 2 (2020) 年度 71 件→令和 6 (2024) 年度 146 件）にあります。いじめや不登校^{*1}は、こどもたちの心身に深刻な影響を与え、学びや成長の機会を奪う重大な課題です。

今後はいじめ・不登校^{*1}の早期発見と対応に向けた相談体制の強化、学校・家庭・関係機関等との連携促進、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用、適応指導教室や教育支援センター等の充実を進めていきます。

【ひきこもり】

本市が令和 6 (2024) 年度に実施した民生委員や介護サービス事業所等への「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」によると、ひきこもりの該当者数は前回令和 3 (2021) 年度調査と比べて微増（120 人→125 人）しています。全国的な傾向では女性割合が増加傾向で、今後の動向を注視します。40 歳～50 歳代になっても支援につながっていないケースが目立ち、10 年以上の長期にわたるひきこもりのケースが全体の 6 割超と長期化が懸念されます。また、不登校経験者が一定数存在することから、早期段階からの支援や介入が非常に重要です。相談窓口や支援事業のさらなる周知に加え、ひきこもりが個人の問題ではなく社会全体の課題であるという理解を広げる啓発活動を継続していくこと、民間事業者や地域との連携を深め、誰一人取り残さない支援体制の構築を目指す必要があります。

【貧困・ヤングケアラー^{*2}】

貧困とは、経済的な困窮によって、衣食住や教育、医療など、人間として最低限度の生活水準を維持することが困難になる状況であり、生活困窮者の自立を促すために、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度、就労支援、住居確保など状況に応じた支援を推進します。また、ヤングケアラー^{*2}が抱える課題は多岐にわたります。学業に集中する時間や遊びの時間、友人との交流のみならず、将来の選択肢までもが制限されることがあります。

また、周囲に相談しにくい状況があることから、支援体制の強化も課題となっています。家庭内のデリケートな問題であること、本人や家族に自覚がないといった理由から、表面化しにくいことも大きな課題です。地域での見守りや啓発、相談窓口の充実によって、支援を要する家庭を早期に発見・支援ができるような体制の構築を進めていきます。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	生活困窮者自立支援事業（子どもの学習・生活支援事業）	様々な要因で学習する環境が整っていない生活保護世帯、生活困窮者世帯の小学生並びに中学生を対象とした学習支援・学習意欲の向上及び対象世帯への相談支援を通じての生活支援。また、高校生への高校中退防止支援の実施	福祉課
2	障害者総合支援法の福祉サービス	障がい者・障がい児を対象に、障がい福祉サービスの提供により、地域で安心して暮らせるよう支援	福祉課
3	児童福祉法の福祉サービス	障がい児を対象に、成長発達を図るための支援	福祉課
4	障害者相談支援事業	障がいのある方やその家族からの相談に応じ、必要な情報提供、自立に向けての支援	福祉課
5	SOS の出し方に関する教育	小学校、中学校、高等学校の児童生徒に対し、保健師等が「悩み事を抱えた時の対応方法」「SOSを発信することのメリット」「SOSの受け止め方」等について研修を実施	健康推進課
6	SOS の受け止め方研修	小学校、中学校、高等学校の教職員に対し、床心理士や保健師等が「自殺の現状」「SOSを受けた時の対応（相談先、相談の流れ）」等について研修を実施	健康推進課
7	ゲートキーパー養成研修	地域や大学、企業等に出向き、保健師等が「自殺の現状」や「ゲートキーパーの役割」「こころの相談窓口」等について研修や紹介を実施	健康推進課
8	精神保健相談業務	精神保健相談員等が、個別相談、メンタルヘルス不調を生じたハイリスク者に関する専門的な助言や支援を実施	健康推進課
9	ひきこもり支援事業	ひきこもり支援センターに専門的な知識や経験を有する相談員を配置し、関係機関と連携しながら、悩みを抱えるひきこもり当事者と家族を支援	健康推進課（ひきこもり支援センター）
10	ヤングケアラーへの支援	柏崎市要保護児童対策地域協議会、関係機関が連携し、一般市民や関係者に向けて周知・啓発と支援が必要な個別のケースへの支援策の検討・実施を行う	子育て支援課
11	家庭児童相談事業	養育環境などに支援の必要な家庭に対し、支援児童の健全育成や養育環境の適正化に向け、関係機関と連携・支援し、児童の福祉の向上を図る	子育て支援課
12	いじめ・不登校電話相談	小学生から高校生までの児童生徒とその保護者を対象に、いじめや不登校について匿名の電話相談を臨床心理士・専門相談員が対応する	子どもの発達支援課
13	適応指導教室推進事業（ふれあいルーム推進事業）	登校が困難な小・中・高校生を対象に、ふれあいルームでの学習の意識付け、交流・体験活動、居場所の提供により、学校、社会参加を支援	子どもの発達支援課
14	教育相談事業（カウンセリングルーム）	不登校や発達障がい等に悩む小・中・高校生や保護者、教職員を対象に、臨床心理士等がカウンセリング、心理検査等を実施し、悩みの早期解決を支援	子どもの発達支援課
15	心の教室相談員事業	市内中学校6校に心の教室相談員を配置し、悩みやストレスを抱える生徒及び保護者の相談に対応	学校教育課
16	子どもの心育ち支援連携体制構築事業（教職員研修事業）	不登校対策として、市内の小中学校の生活指導主任、生徒指導主事を対象とした生徒指導研修会を実施	学校教育課

17	通級指導教室事業	通級指導により、通常学級に在籍する児童生徒の言葉、聞こえ、発達、コミュニケーションなどの改善・克服を図る	学校教育課
18	スクールサポート事業	要請があった学校の授業を参観し、対象児童生徒への支援や授業改善の方策、校内支援体制の整備、関係機関との連携に関するコンサルテーションの実施	学校教育課
19	特別支援教育推進事業	関係機関と連携し、適切な就学判断を決定。また必要な支援が小中学校で一貫して受けられるよう学校支援を行う	学校教育課

(2) 非行・ネットトラブル等の予防・啓発

ア 施策の方向性の趣旨

こども・若者の非行は、社会情勢や家庭、学校、地域など様々な要因が複雑に関係して生じる問題です。これを防ぐためには、家庭・学校・地域が連携し、健やかな育成と非行防止に向けた啓発活動を積極的に行うことが重要です。また、SNS 等での誹謗中傷やネット詐欺、出会い系トラブル、課金問題など、ネット上の危険からこども・若者を守るため、講習会などを通じて安全なインターネット利用に関する啓発を進め、保護者も含めた予防対策を強化していく必要があります。

イ 主な関連事業

No.	事業名称	取組概要	担当部署
1	男女共同参画啓発事業（デートDV 防止啓発講座）	市内の中学生と高校生を対象にデートDVの防止啓発講座を実施	人権啓発・男女共同参画室
2	人権擁護事業（拉致問題啓発・人権講演会）	市内の小・中学生と教職員等を対象に拉致問題啓発・人権講演会を実施	人権啓発・男女共同参画室
3	人権擁護事業（モニタリング）	インターネットにおける掲示板等への悪質な差別書き込みをモニタリングすることで、早期発見及び拡散防止等を図る	人権啓発・男女共同参画室
4	消費者対策事業（消費生活センター）	インターネットトラブルに関する相談対応として、出前講座や街頭での啓発活動の実施、警察等と連携し、未成年の SNS 等に起因する犯罪の未然防止の取組を図る	市民活動支援課
5	情報教育の推進事業	申込みのあった小中学校に、指導主事を派遣し、情報モラルを中心とした講演会を実施	学校教育課
6	教職員研修事業	市内小中学校の情報主任を主な対象とし、情報モラル教材を用いたシミュレーション授業を年度初めに研修会で実施	学校教育課

第 5 章 計画の推進に向けて

空白のページ

1 関係機関との連携と推進体制

(1) 計画の周知

広報、本市ホームページ等で事業計画の内容等の情報を公表します。

(2) 庁内における計画の推進

本計画の策定主体は本市であり、その推進に果たす役割を大きく担っています。そして計画を推進するための様々な子ども・若者施策・事業は、市庁内の様々な部門が担っています。子ども未来部が中心となり、各部局が緊密な連携のもとに計画を推進します。

(3) 関係機関との連携強化

子ども・子育て支援は我が国の最も重要な課題の一つであり、「こども大綱」に基づき、国、県、市町村が一体となって推進しなければならない政策です。計画の推進に当たっては、国及び新潟県を始め、関連機関・団体との連携を強化して取り組みます。また、本計画の策定組織である柏崎市子ども・子育て会議において、協議、意見を聴取して、計画を推進します。

2 計画の進行管理（点検・評価・見直し）

本計画は、柏崎市子ども・子育て会議が中心となり、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルに基づき、計画の進捗管理を行います。

計画に盛り込まれた施策・事業は、子ども・若者育成支援推進法に基づく事業を中心に、その実施状況を年度ごとに調査・審議し、必要に応じて計画の見直しを検討します。施策・事業の点検・評価、計画の見直しの検討結果は、柏崎市子ども・子育て会議に報告するとともに、本市のホームページ等で公開し、市民に周知します。

空白のページ

資 料 編

1 柏崎市子ども・子育て会議（設置条例・委員名簿）

（1）新潟県柏崎市子ども・子育て会議設置条例

平成 26 年 2 月 27 日条例第 6 号

改正

平成 30 年 2 月 23 日条例第 5 号

令和 5 年 3 月 16 日条例第 4 号

令和 7 年 3 月 21 日条例第 11 号

（設置）

第 1 条 一人一人のこどもが健やかに成長することができるよう子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号。以下「法」という。）第 72 条第 1 項及びこども基本法（令和 4 年法律第 77 号。以下「基本法」という。）第 13 条第 3 項の規定に基づき、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づく市長の附属機関として、柏崎市子ども・子育て会議（以下「子育て会議」という。）を置く。

（定義）

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) こども 基本法第 2 条第 1 項に規定するこどもをいう。
- (2) 保護者 親権を行う者、未成年後見人その他の者で、こどもを現に監護するものをいう。
- (3) 子ども・子育て支援 法第 7 条第 1 項に規定する子ども・子育て支援をいう。
- (4) こども施策 基本法第 2 条第 2 項に規定するこども施策をいう。

（所掌事務）

第 3 条 子育て会議は、次に掲げる事務を行うものとする。

- (1) 法第 72 条第 1 項各号に掲げる事務を処理すること。
- (2) 次世代育成支援対策推進法（平成 15 年法律第 120 号）に規定する次世代育成支援対策の推進に関して必要な事項を審議すること。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、子ども・子育て支援及びこども施策に関して必要な事項を審議すること。

（組織）

第 4 条 子育て会議は、15 人以内の委員をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、特別の事項を調査・審議する必要があるときは、子育て会議に臨時委員を置くことができる。

3 委員及び臨時委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) こども
- (2) 保護者
- (3) 子ども・子育て支援又はこども施策に関する事業に従事する者
- (4) 子ども・子育て支援又はこども施策に関する関係団体から推薦を受けた者
- (5) 子ども・子育て支援又はこども施策に関し学識経験のある者

- (6) 労働者を代表する者
 - (7) 関係行政機関の職員
 - (8) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者
- (任期)

第5条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 臨時委員の任期は、委嘱の日からその者の委嘱に係る当該特別の事項に関する調査・審議が終了したときまでとする。

(会長及び副会長)

第6条 子育て会議に会長及び副会長をそれぞれ1人置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、子育て会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(子育て会議)

第7条 子育て会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 子育て会議は、委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 子育て会議の議事は、委員及び議事に関係のある臨時委員で会議に出席したもの（以下「出席委員」という。）の合議で決する。ただし、合議が調わないときは、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 議長は、必要があると認めるときは、議事に関係のある者に対し、資料の提出、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。
- 5 子育て会議及び調査・審議に係る手続は、公開とする。ただし、議長が特に必要があると認める場合は、これを非公開とすることができる。
- 6 子育て会議の運営に関し必要な事項は、議長が子育て会議に諮って定める。

(守秘義務)

第8条 委員及び臨時委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第9条 子育て会議の庶務は、子ども未来部において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
- (準備行為)
- 2 委員の委嘱のために必要な手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

(特例措置)

- 3 この条例の施行の日以後に最初に開催される子育て会議は、第7条第1項の規定にかかわらず教育委員会が招集するものとする。
- 4 新潟県柏崎市特別職の職員で非常勤のものの報酬、費用弁償及び実費弁償に関する条例（昭和31年条例第22号）の一部を次のように改正する。

別表1中

「文化財保護審議会委員 1日につき 6,400円」を

「子ども・子育て会議委員 1日につき 6,400円」

文化財保護審議会委員 1日につき 6,400円」に

改める。

附 則（平成30年2月23日条例第5号抄）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 5 この条例施行の際現に改正前の新潟県柏崎市子ども・子育て会議設置条例第4条第3項の規定により委員に委嘱されている者は、第13条の規定による改正後の新潟県柏崎市子ども・子育て会議設置条例第4条第3項の規定により委嘱された者とみなす。

附 則（令和5年3月16日条例第4号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和7年3月21日条例第11号）

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

(2) 委員名簿

柏崎市子ども・子育て会議委員一覧

任期：令和 6(2024)年 4 月 1 日 ～ 令和 8(2026)年 3 月 31 日

No.	区 分 ・ 所 属	氏 名	備 考
1	学識経験者（新潟県立大学）	植木 信一	会長
2	保護者公募委員	金子 弥生	
3	保護者公募委員	遠藤 三矢	
4	柏崎市私立幼稚園教育研究会 （認定こども園柏崎中央幼稚園）	関沢 恵	
5	柏崎市私立保育園境界 （にしやま保育園）	野中 智美	副会長
6	柏崎市刈羽郡小学校長会 （内郷小学校）	田村 芳彦	
7	柏崎市小中学校 P T A 連合会	品田 奈月	
8	柏崎市民生委員児童委員協議会	霜田 正仁	
9	柏崎市刈羽郡医師会	村井 力四郎	
10	柏崎市歯科医師会	平田 伸明	
11	連合新潟・柏崎地域協議会 （株式会社リケン労働組合）	根立 知幸	
12	共に支えあう「とまとの会」	上杉 絵理	
13	学生代表 新潟工科大学	南 直広	
14	学生代表 新潟産業大学	田中 夢翔	

2 計画策定の経過

年 月		実施事項
令和 7(2025)年	5 月	若者の意識に関するアンケート調査
	6 月	新潟工科大学学生へのヒアリング 困難を有するこども・若者への聴き取り調査（6 月～8 月随時実施）
	7 月	第 1 回子ども・子育て会議を開催 新潟産業大学学生へのヒアリング
	10 月	第 2 回子ども・子育て会議を開催
	12 月	子ども・子育て会議委員へ計画案に係る意見聴取（書面）
令和 8(2026)年	1 月	パブリックコメント（意見公募）の実施
	3 月	第 3 回子ども・子育て会議を開催

3 パブリックコメント（意見公募）での意見

-
-
-

4 用語解説

【用語解説】

* 1 不登校

文部科学省が用いる定義によると、病気や経済的な理由以外で、何らかの心理的・情緒的・身体的・社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあり、年間 30 日以上学校を欠席した状態を指す。

* 2 ヤングケアラー

家事や家族の世話を、子どもや若者が日常的に行っている状態。これは、学業や友人関係、自身の成長に影響が出るほど負担が大きい場合を指し、こどもたちが健やかに成長するための権利が損なわれている可能性があるもの。

* 3 ポスト青年期

青年期（一般的には 18 歳からおおむね 30 歳未満）を過ぎ、成人期前（40 歳未満）で、大学等において社会の各分野を支え、発展させていく資質・能力を養う努力を続けている者や、円滑な社会生活を営む上で困難を有する、社会的に大人の役割を担う前の過渡的な時期のこと。

* 4 こども政策の推進に関する意識調査

こども大綱に基づくこども政策の推進に当たり、こどもや若者、子育て当事者の置かれた状況や意識について、令和 5（2023）年度にこども家庭庁が実態把握や情報収集・分析を行ったもの。

* 5 若者意識調査

新潟県に住む若者の生活や、普段考えていることを把握し、「新潟県こども計画」の内容を検討する上での基礎資料を得ることを目的として、令和 6（2024）年度に新潟県が実施・結果分析を行ったもの。

* 6 地域共生社会

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が、『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共につくっていく社会。

* 7 ウェルビーイング

身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。幸福感や満足感、充実感など、より広い意味での「良い状態」を表す。

*** 8 自己肯定感**

ありのままの自分を受け入れ、自分の価値や存在意義を受け入れ、前向きに評価できる感覚のこと。

*** 9 有機的に連携**

複数の個人や組織が、お互いの役割や能力を補完し合い、緊密なコミュニケーションを通じて目標達成のために協力する関係性のこと。

*** 10 自立・自律**

「自立」とは、他者に依存せず自分の力で生活していくこと。

「自律」とは、外部からの強制や指示ではなく、自分が内的に立てたルールや規範、価値観に従って、自らの行動を判断し、コントロールしていくこと。

*** 11 協調的幸福感**

個人が単独で感じる幸福感だけでなく、周囲の人々との関係性や社会とのつながりの中で感じる幸福感。

*** 12 インクルージョン**

性別、年齢、国籍、障がいの有無、性格、価値観などが違っていても、その人が排除されず、仲間として受け入れられる状態のこと。



柏崎市こども・若者計画

令和 8 (2026) 年度～令和 1 1 (2029) 年度

(発行年月) 令和 8 (2026) 年 3 月

(編集・発行) 柏崎市子ども未来部子どもの発達支援課

〒945-0064 新潟県柏崎市中央町 5 番 8 号

TEL : 0257-32-3397 (直通)

e-mail : hattatsushien@city.kashiwazaki.lg.jp

柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査

報 告 書

令和7(2025)年10月

柏崎市子ども未来部 子どもの発達支援課

目 次

I. 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査対象者	3
3. 調査期間	3
4. 配布・回収方法	3
5. 配布数・回収数	3
6. 結果の見方	3
II. 集計結果	4
1. 回答者の属性	4
2. 仕事・経済面について	6
3. 結婚・子どもを持つことについて	11
4. 子どもの頃のことについて	14
5. 現在の生活について	15
6. 回答者の気持ち・考えについて	23
7. 柏崎市に求めること・期待すること	30

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、「柏崎市こども・若者計画」の策定にあたって、若者の現状や意識、考え等を把握し、本市が取り組むべき課題や施策の方向性等を見定めるため、アンケート調査を実施し、集計・分析を行い、計画策定の基礎資料を作成することを目的とする。

2. 調査対象者

柏崎市に住民票がある 19～29 歳(令和 7 年 4 月 1 日時点)の男女 2,200 人

3. 調査期間

令和 7(2025)年 5 月 1 日～5 月 23 日

4. 配布・回収方法

配布方法	回収方法
郵送による配布	郵送及び WEB 回答方式

5. 配布数・回収数

配布数	回収数	回収率
2,182	507	23.2%

※ 調査票を送付した 2,200 人のうち、転居等で対象者に届かなかった 18 人分を除いた数です。

6. 結果の見方

- ・ 調査数「n」は、比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者になるかを示しています。
- ・ 回答の構成比は百分率(%)で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため合計が 100.0%にならない場合もあります。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率は 100.0%となりません。
- ・ 質問文、選択肢の見出しを一部簡略化してある場合があります。

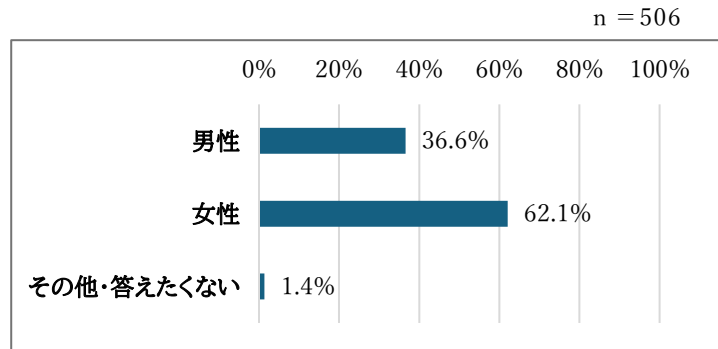
Ⅱ. 集計結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 性別をお答えください。

- 回答者の性別は、女性が 62.1% と高くなっています。
- 年齢でみると、男性、女性ともに年齢が上がるにつれ、高くなっています。



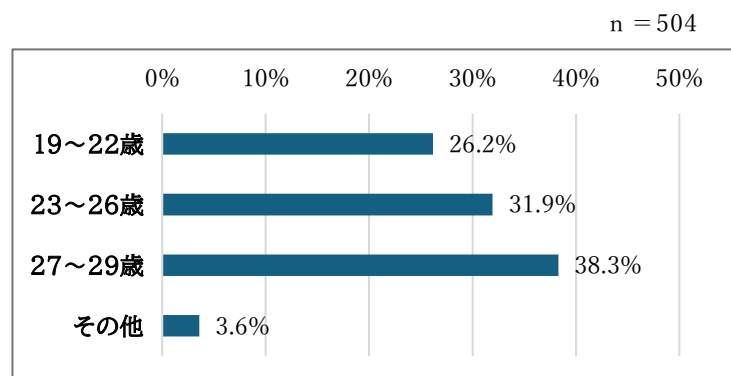
年齢別集計

	調査数	男性	女性	その他・答えたくない
全体数(n)	506	185	314	7
19～22 歳	単位(%)	27.6	24.8	42.9
23～26 歳		30.3	32.8	28.6
27～29 歳		38.9	37.9	28.6
その他		3.2	4.5	—

(2) 年代

問2 年齢を教えてください。※回答日現在

- 全体では、「27～29 歳」が 38.3% と最も高く、年齢が上がるにつれて、高くなっています。

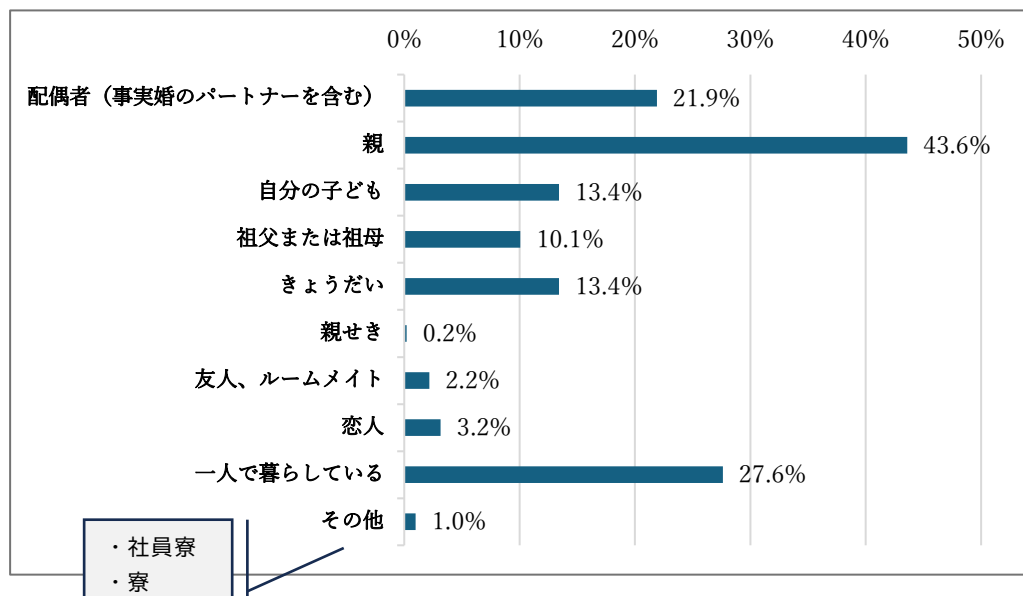


(3) 同居家族

問3 誰と一緒に暮らしていますか。(複数回答)※ 一時的に単身赴任している家族含む。

- 一緒に暮らしている人は「親」が43.6%と最も高く、次いで「一人暮らし」が27.6%、配偶者(事実婚含む)」が21.9%となっています。

n = 507



年齢別集計

	調査数	配偶者(パートナー含む)	親	自分の子ども	祖父または祖母	きょうだい	親せき	友人、ルームメイト	恋人	一人で暮らしている	その他
全体数(n)	507	111	221	68	51	68	1	11	16	140	5
19～22 歳	単位(%)	0.9	27.1	2.9	31.4	50.0	—	—	12.5	46.4	20.0
23～26 歳		18.0	37.1	17.6	45.1	29.4	—	36.4	43.8	32.1	20.0
27～29 歳		72.1	32.1	70.6	17.6	19.1	100.0	54.5	37.5	20.7	60.0
その他		9.0	3.6	8.8	5.9	1.5	—	9.1	6.3	0.7	—

- 年齢でみると、「配偶者」、「自分の子ども」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて、高くなっています。
- 「一人で暮らしている」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて、低下しています。

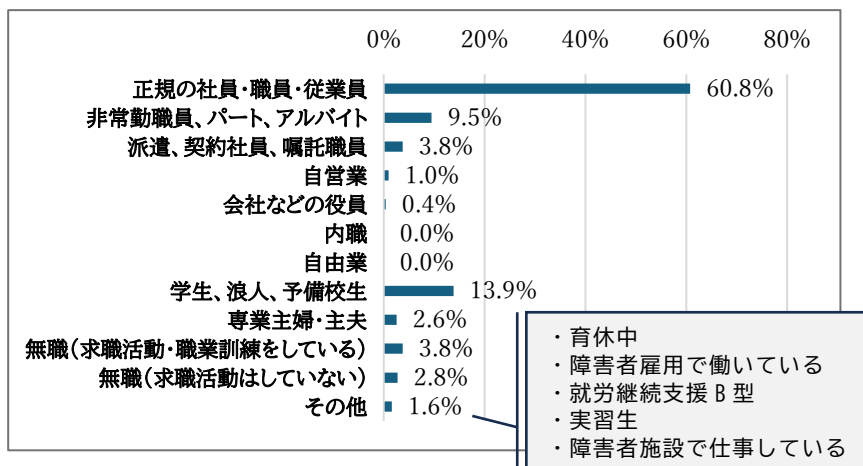
2. 仕事・経済面について

(4) 職業

問4 あなたの現在の職業等を教えてください。

n = 504

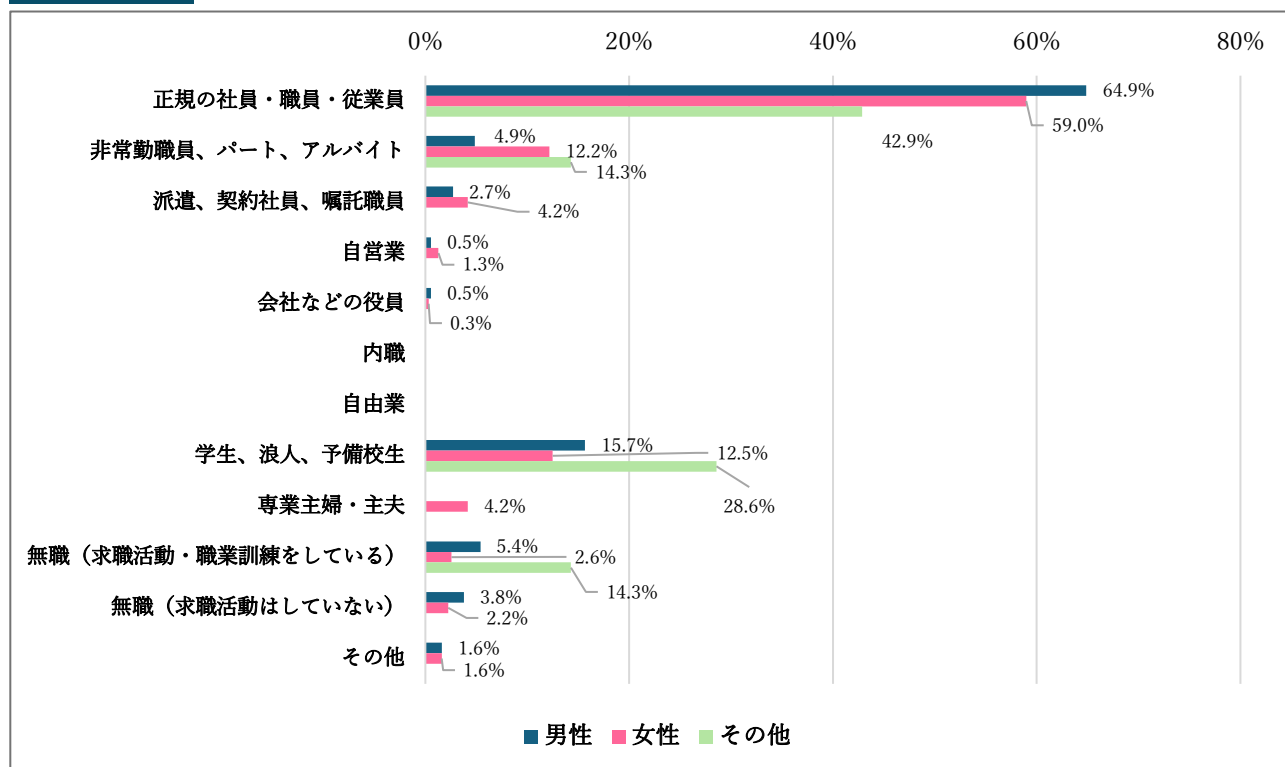
- 「正規の社員・職員・従業員」が60.8%と最も高く、次いで「学生、浪人、予備校生」が13.9%となっています。



年齢別集計

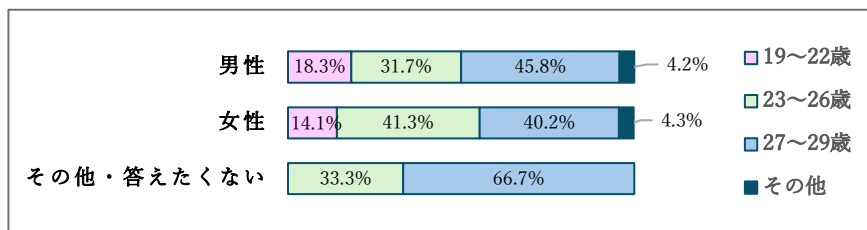
	調査数	正規の社員・職員・従業員	非常勤職員、パート、アルバイト	派遣、契約社員、嘱託職員	自営業	会社などの役員	内職	自由業	学生、浪人、予備校生	専業主婦・主夫	無職(求職活動・職業訓練中)	無職(求職活動はしていない)	その他
全体数(n)	504	307	48	18	5	2	0	0	70	13	19	14	8
19～22 歳	単位(%)	15.6	12.5	22.2	20.0	50.0	—	—	91.4	—	21.1	28.6	25.0
23～26 歳		37.5	31.3	22.2	—	—	—	—	4.3	46.2	42.1	35.7	25.0
27～29 歳		42.7	52.1	55.6	60.0	50.0	—	—	2.9	46.2	36.8	28.6	37.5
その他		4.2	4.2	—	20.0	—	—	—	1.4	7.7	—	7.1	12.5

男女別集計

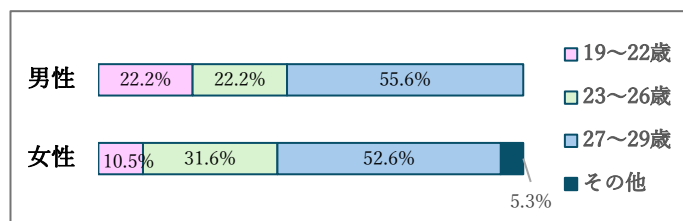


年齢別×男女別集計

【正規の社員、職員、従業員】



【非常勤職員、パート、アルバイト】

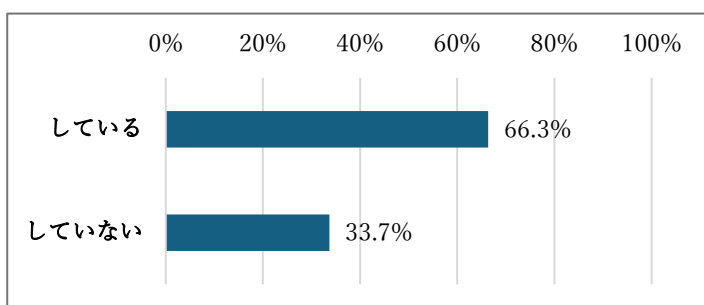


- 男女別でみると、男性は「正規の社員・職員・従業員」が 64.9%、女性は 59.0%となっています。
- 女性は、23 歳以上で、年代が上がるにつれて、「正規の社員・職員・従業員」が若干低下しており、ライフステージが職業に影響を与えている可能性があります。

(5) 経済面

問5 あなたは、経済的に自立していますか。

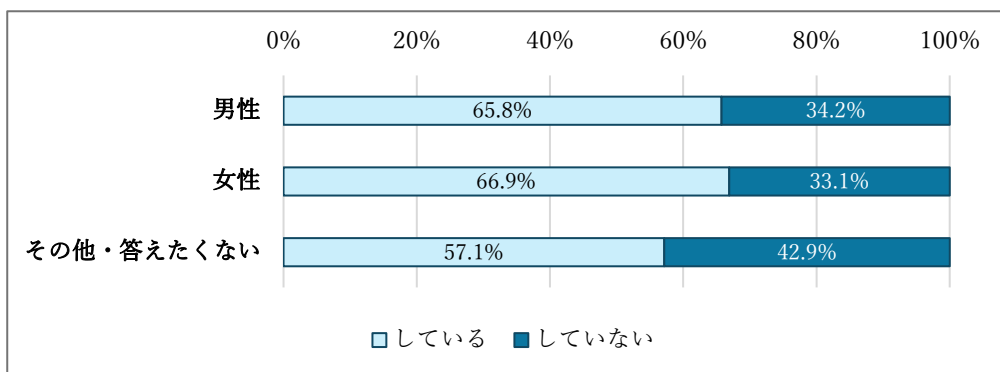
n = 505



年齢別集計

	調査数	している	していない
全体数(n)	505	335	170
19~22 歳	単位(%)	14.0	49.4
23~26 歳		34.9	25.9
27~29 歳		46.3	22.4
その他		4.8	2.4

男女別集計



- 「自立している」が 66.3%、「自立していない」が 33.7%(170 人)となっています。
- 年齢でみると、「自立している」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて、高くなっています。
- 男女別でみると、男性は「自立している」が 65.8%、女性は 66.9%であり、男女間で大きな差はないようです。

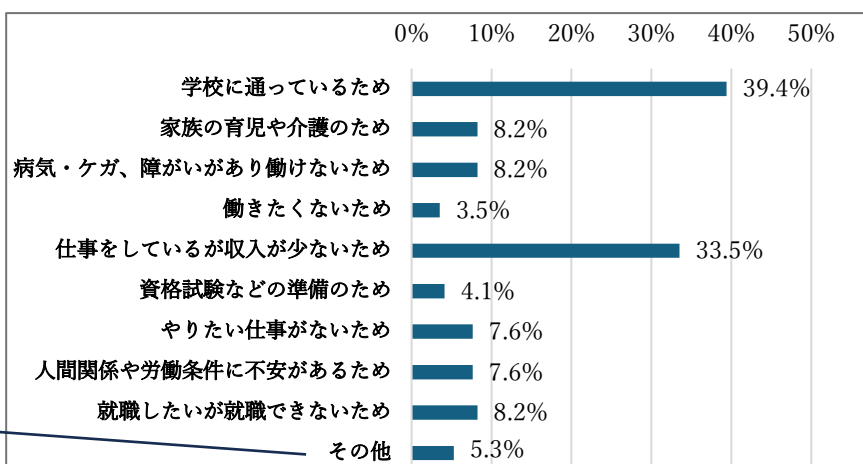
問5で「2 していない」と答えた170人について

問6 経済的に自立していない理由は何ですか。(複数回答)

n = 170

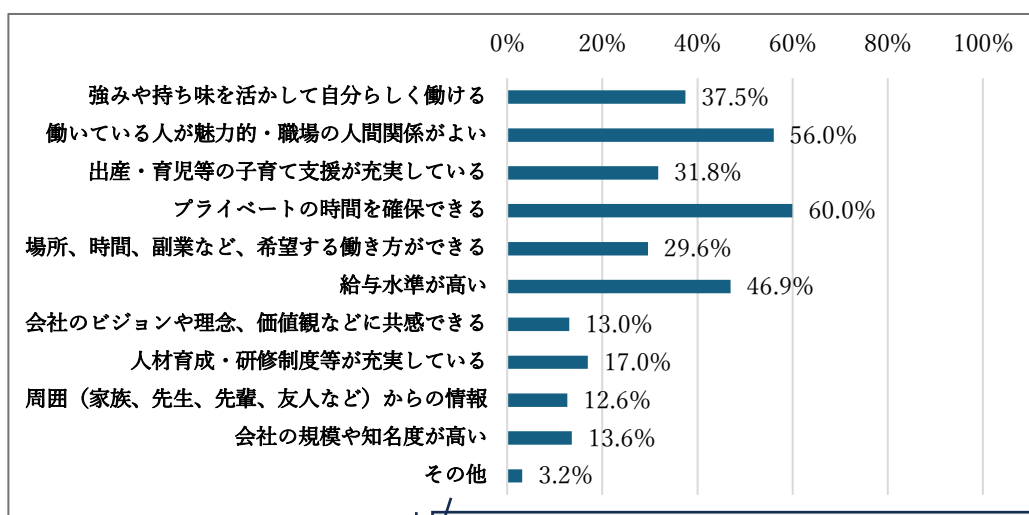
- 「学校に通っているため」が39.4%と最も高く、次いで「仕事をしているが収入が少ないため」が33.5%となっています。

- ・実家での生活のため
- ・社員への移行期間
- ・両親と同居し、家計にお金を入れているが自立とは言い難い
- ・福祉作業所利用
- ・プライバシーのため答えたくない



問7 就職先を選ぶうえで重視したい点(重視した点)は何ですか。(複数回答)

n = 506



- 「プライベートの時間を確保できる」が60.0%と最も高く、次いで「働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい」が56.0%となっており、給与水準(46.9%)より、ワーク・ライフ・バランスや職場環境を重視する傾向が高いことがうかがえます。

- ・ストレスが少ない
- ・学歴差を感じさせない
- ・意見や改善を自分なりに伝えたら、きちんと聞いてくれるか
- ・自分の病気を理解して仕事をさせてくれる
- ・地元の貢献のため
- ・福利厚生がよい
- ・子どもの風邪や行事等で休みやすいか
- ・生活介護があるところ
- ・人間と無理に関わらず、わずらわしさがいないところ

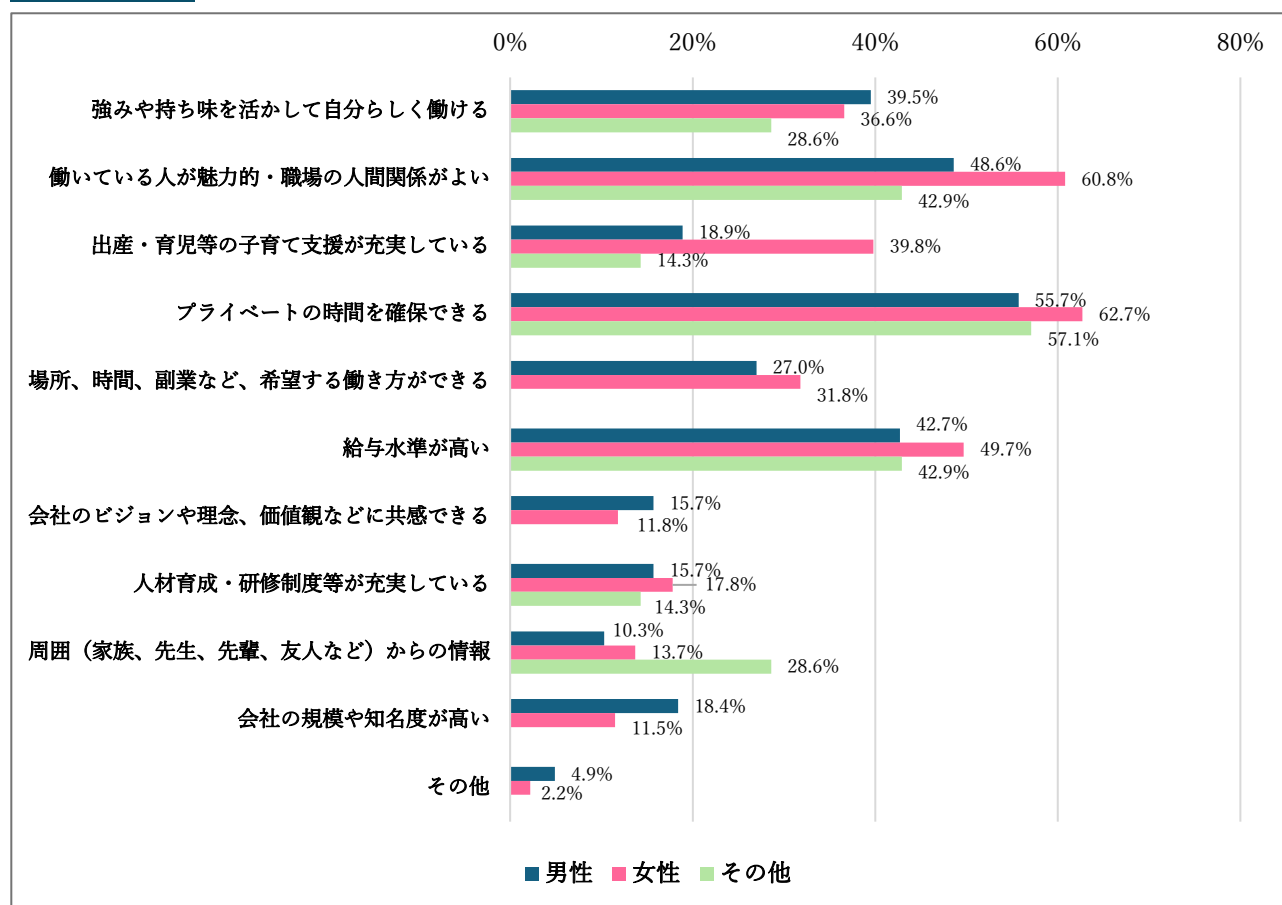
令和6年度新潟県 若者意識調査との比較

- 県の調査でも同様に、「プライベートの時間を確保できる」が55.9%と最も高く、次いで「働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい」が50.9%となっています。
- 一方で、県の調査では「自分らしく働ける・強みや持ち味を生かせる」が50.7%であるのに対して、本調査では同様の選択肢が37.5%であり低い傾向にあります。

年齢別集計

	調査数	強みや持ち味を活かして自分らしく働ける	働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい	出産・育児等の子育て支援が充実している	プライベート時間を確保できる	場所、時間、副業など希望する働き方ができる	給与水準が高い	会社のビジョンや理念、価値観などに共感できる	人材育成、研修制度等が充実している	周囲（家族、先生、先輩、友人など）からの情報	会社の規模や知名度が高い	その他
全体数(n)	506	190	284	161	304	150	238	66	86	64	70	16
19～22 歳	単位 (%)	25.8	29.6	24.2	23.7	26.0	24.4	31.8	30.2	29.7	25.7	25.0
23～26 歳		36.3	29.2	25.5	34.5	30.0	30.3	31.8	24.4	32.8	24.3	31.3
27～29 歳		32.1	37.3	44.1	37.2	41.3	41.2	28.8	22.1	34.4	47.1	31.3
その他		5.8	3.9	6.2	4.6	2.7	4.2	7.6	5.8	3.1	2.9	12.5

男女別集計

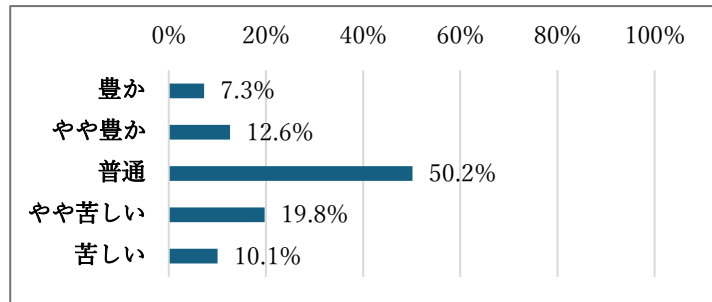


- 男女別でみると、「プライベートの時間を確保できる」が男性 55.7%、女性 62.7%と男女ともに最も高く、次いで、「働いている人が魅力的・職場の人間関係がよい」が男性 48.6%、女性 60.8%となっており、男女でほぼ同様の傾向にあります。
- 「出産・育児等の子育て支援が充実している」については、男性の 18.9%に対し、女性 39.8%と開きがあり、子育てに対する支援(子育てと仕事との両立)については、男性よりも女性のニーズが高いことがうかがえます。

問8 あなたは、現在の経済的な暮らし向きをどのように感じますか。

n = 506

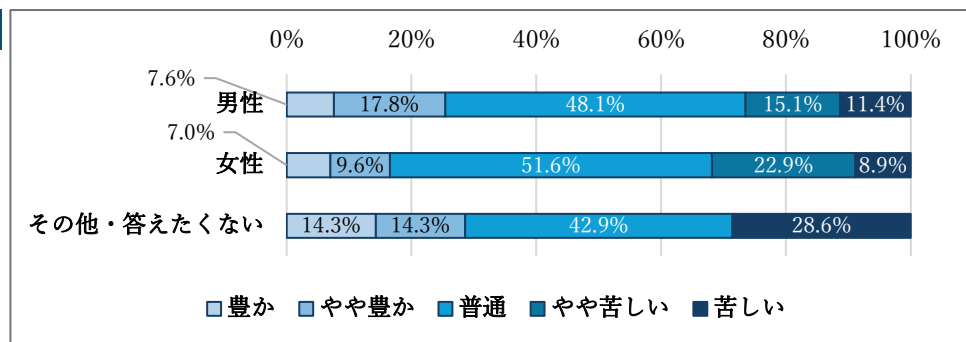
- 「普通」が 50.2%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 19.8%、「やや豊か」が 12.6%となっています。
- 年齢でみると、23～26 歳の年代で「やや苦しい」、「苦しい」の回答が多くとなっています。



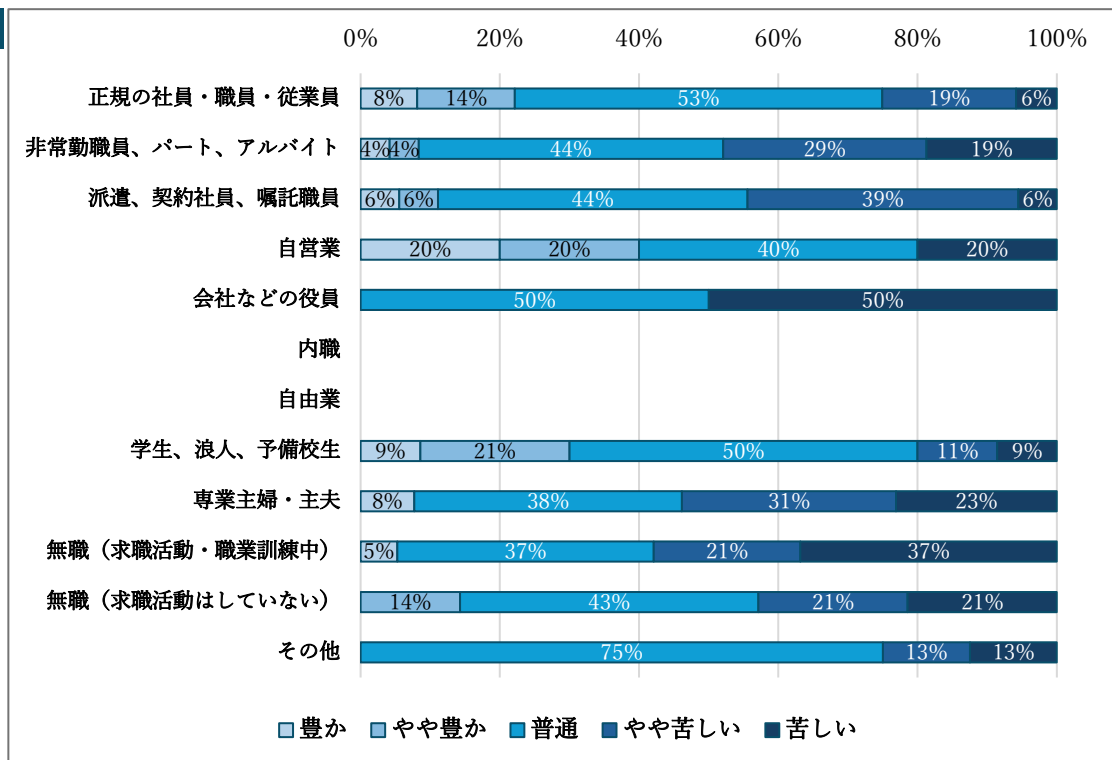
年齢別集計

	調査数	豊か	やや豊か	普通	やや苦しい	苦しい
全体数(n)	506	37	64	254	100	51
19～22 歳	単位(%)	35.1	31.3	24.4	22.0	29.4
23～26 歳		29.7	28.1	28.7	41.0	35.3
27～29 歳		35.1	34.4	41.7	36.0	31.4
その他		—	6.3	5.1	1.0	3.9

男女別集計



職業別集計

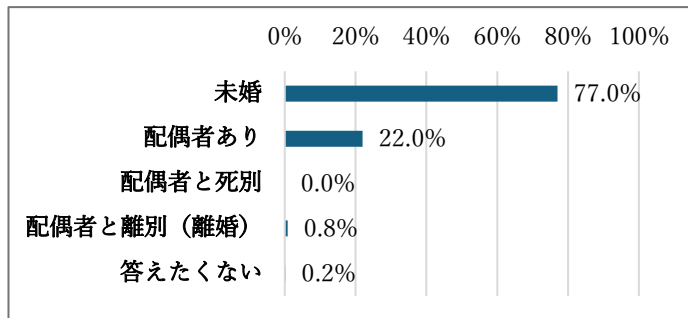


3. 結婚・子どもを持つことについて

問9 あなたの現在の婚姻状況を教えてください。

n = 505

- 「未婚」が77.0%(389人)と最も高く、次いで「配偶者あり」が22.0%となっています。

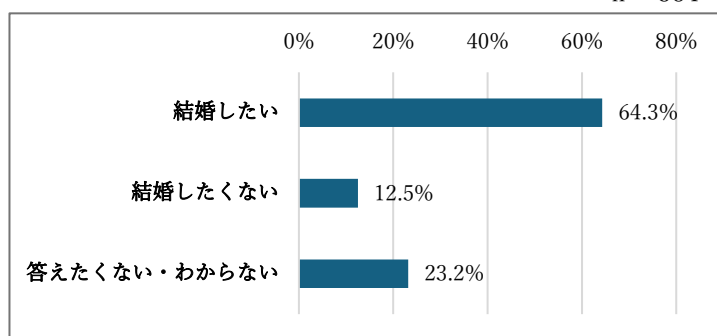


問9で「未婚」と答えた389人について

問10 自分の一生を考えたとき、結婚への考えはどちらですか。

n = 384

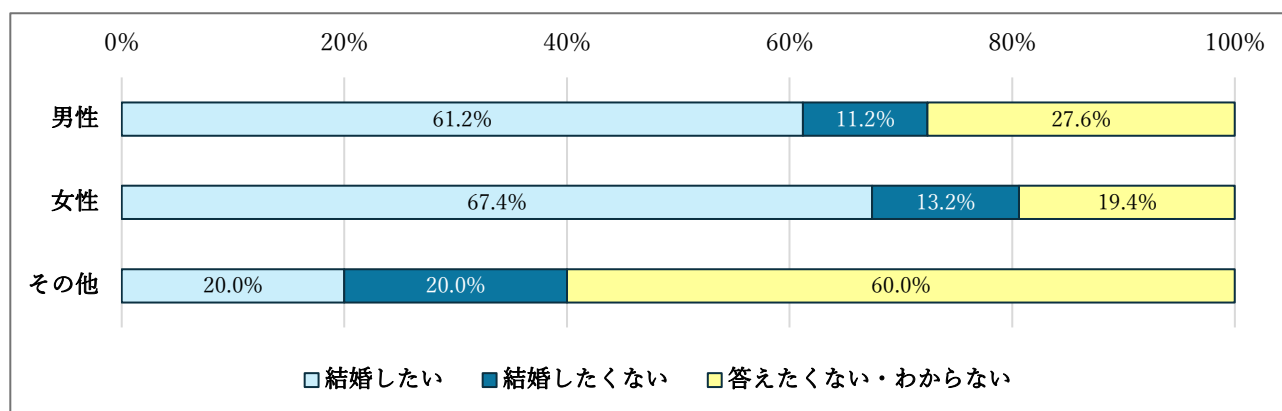
- 「結婚したい」が64.3%と最も高く、次いで「答えたくない・わからない」が23.2%となっています。
- 男女別でみると、「結婚したい」が男性61.2%、女性67.4%であり、女性のほうが若干結婚願望が高いことがうかがえます。



年齢別集計

	調査数	結婚したい	結婚したくない	答えたくない・わからない
全体数(n)	384	247	48	89
19～22歳	単位(%)	34.8	22.9	33.7
23～26歳		32.4	50.0	38.2
27～29歳		30.4	22.9	25.8
その他		2.4	4.2	2.2

男女別集計



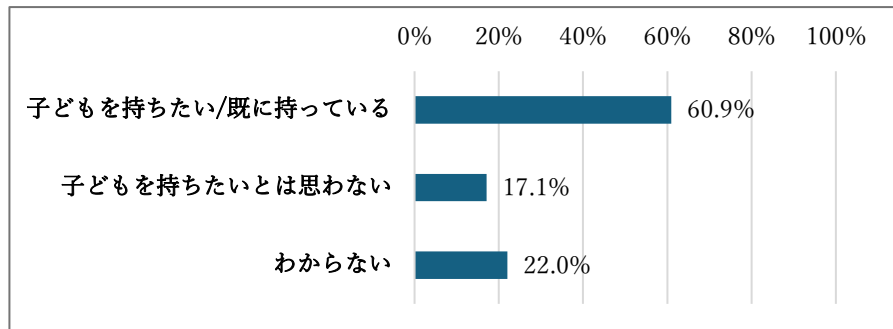
令和6年度新潟県 若者意識調査との比較

- 県の調査では、「いずれ結婚するつもり」が74.4%であるのに対して、本調査では同様の選択肢が64.3%であり、県全体と比較すると低めの傾向にあります。

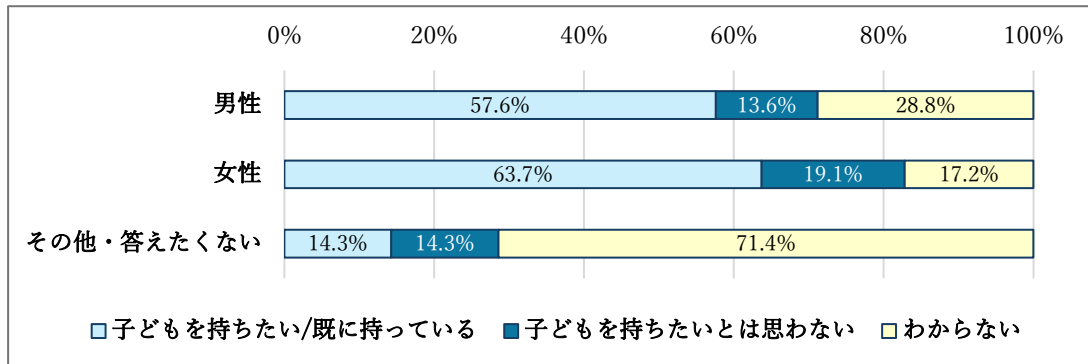
問 11 あなたが子どもを持つことについて、どのように思いますか。

n = 504

- 「子どもを持ちたい/既に持っている」が 60.9%と最も高く、次いで「わからない」が 22.0%、「子どもを持ちたいとは思わない」が 17.1%(86 人)となっています。



男女別集計

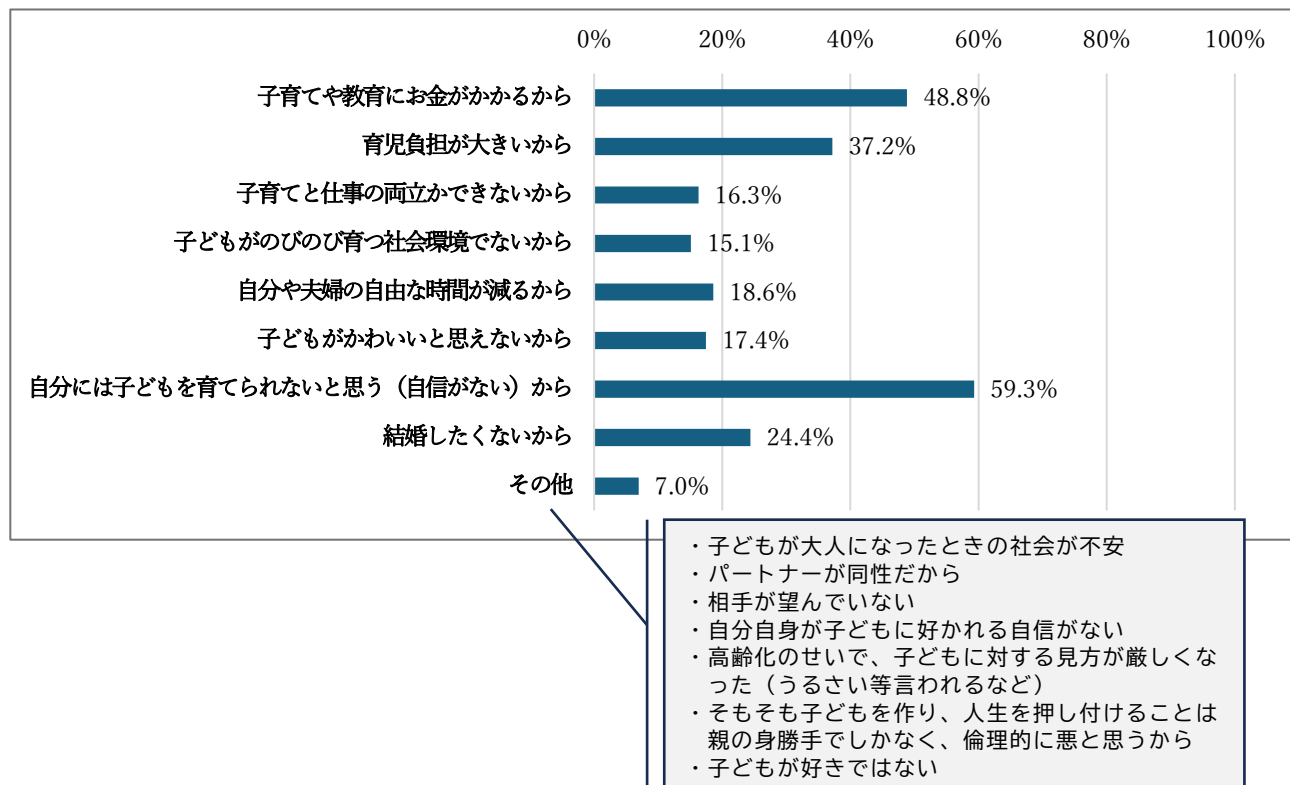


- 男女別でみると、「子どもを持ちたい/既に持っている」が男性 57.6%に対し、女性は 63.7%であり、女性のほうが高い傾向にあります。

問 11 で「2 子どもを持ちたいとは思わない」と答えた86人について

問 12 その理由は何ですか。(3つまで回答)

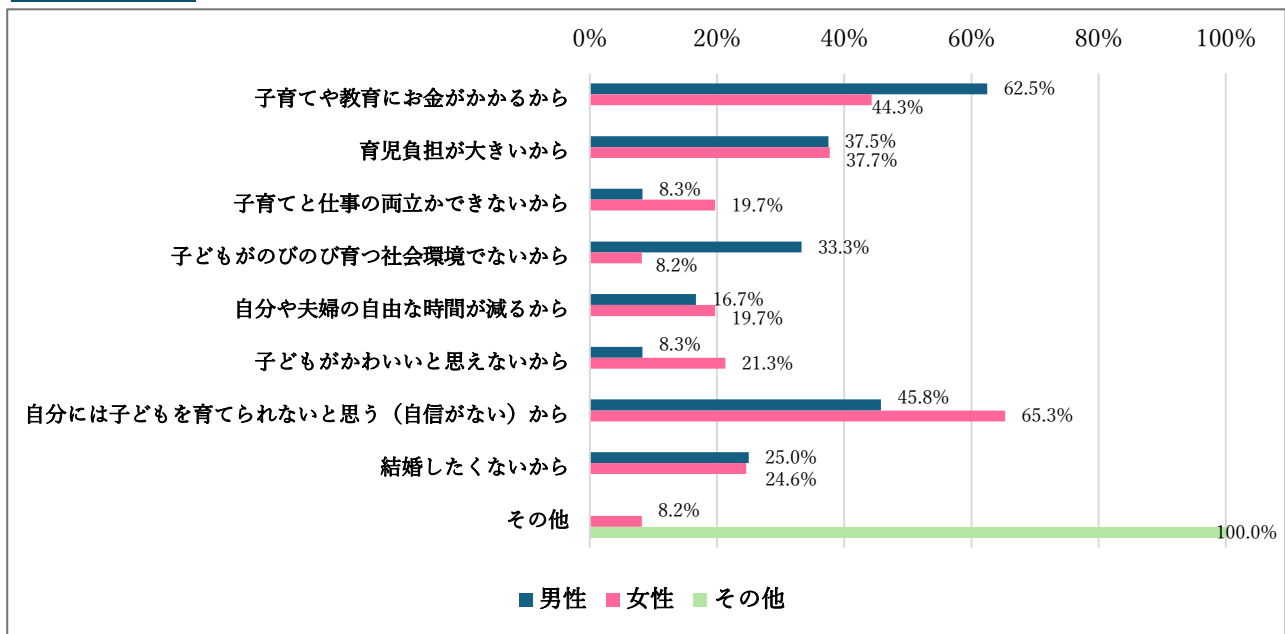
n = 86



年齢別集計

	調査数	子育てや教育にお金がかかるから	育児負担が大きいから	子育てと仕事の両立ができないから	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	自分や夫婦の自由な時間が減るから	子どもがかわいいと思えないから	自分には子どもを育てられないと思うから	結婚したくないから	その他
全体数(n)	86	42	32	14	13	16	15	51	21	6
19～22 歳	単位 (%)	19.0	15.6	—	15.4	18.8	33.3	19.6	28.6	16.7
23～26 歳		33.3	34.4	64.3	46.2	56.3	33.3	37.3	47.6	66.7
27～29 歳		40.5	34.4	14.3	38.5	18.8	33.3	37.3	19.0	16.7
その他		7.1	15.6	21.4	—	6.3	—	5.9	4.8	—

男女別集計



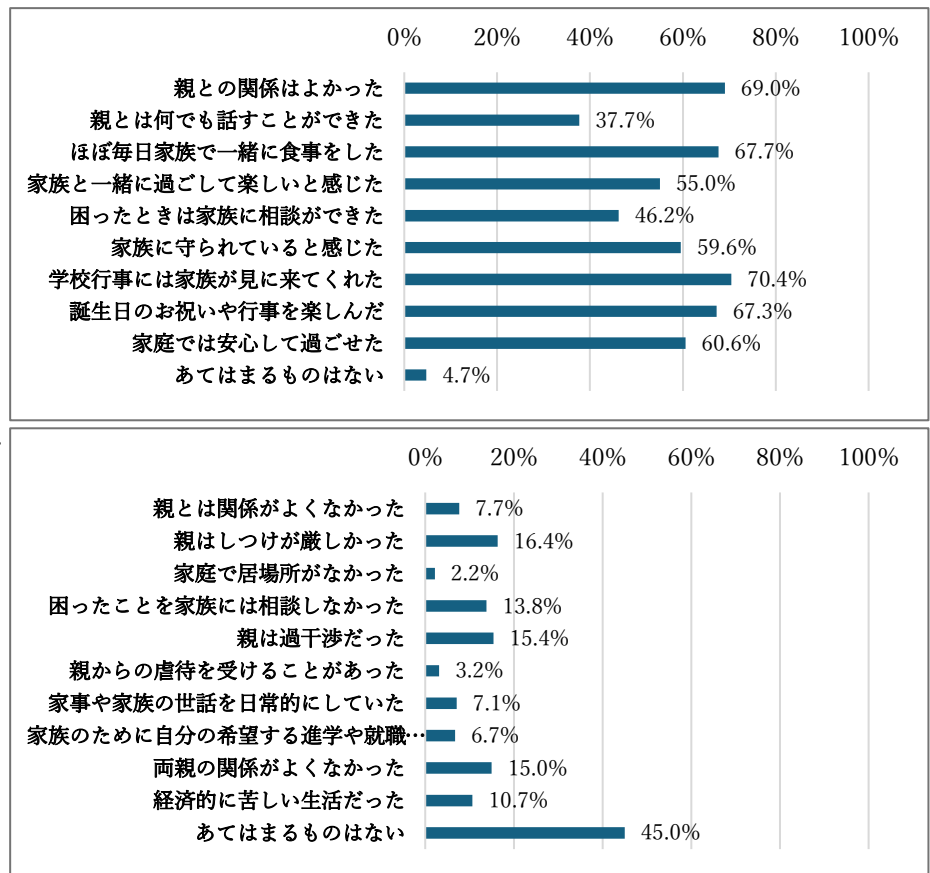
- 「自分には子どもを育てられないと思うから」が 59.3%と最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかるから」が 48.8%、「育児負担が大きいから」が 37.2%となっています。
- 男女別でみると、男性は「子育てや教育にお金がかかるから」が 62.5%で最も多いのに対して、女性は「自分には子どもを育てられないと思う(自信がない)から」が最も多く、65.3%となっています。
- 「子育てと仕事の両立ができないから」は男性が 8.3%であるのに対し、女性は 19.7%、「子どもがのびのび育つ社会環境でないから」は男性が 33.3%であるのに対し、女性は 8.2%、「子どもがかわいいと思えないから」は、男性が 8.3%であるのに対し、女性は 21.3%となっており、男女間の回答で開きがあります。

4. 子どもの頃のことについて

問 13 子どもの頃の家庭生活で、あてはまるものはありますか。(複数回答)

n = 507

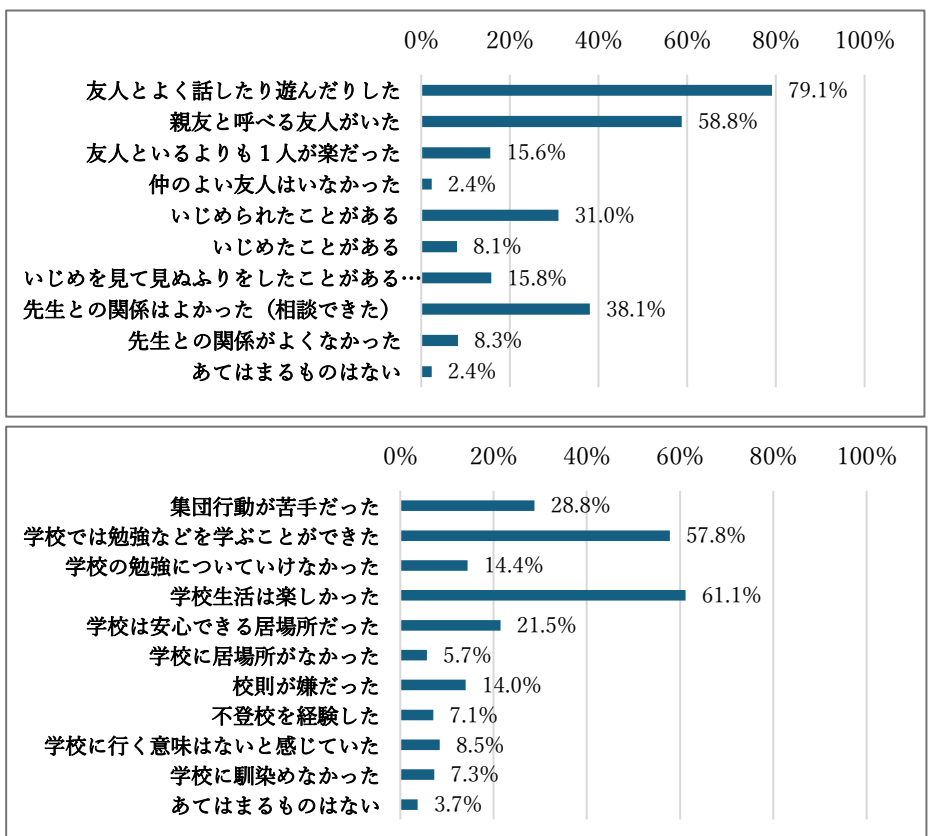
- 「親との関係はよかった」が69.0%であるのに対し、「親とは何でも話すことができた」は37.7%、「困ったときは家族に相談ができた」は46.2%と低い傾向にあります。
- 「家事や家族の世話を日常的にしていた」は7.1%となっており、ヤングケアラーの可能性がうかがえます。



問 14 子どもの頃の学校生活で、あてはまるものはありますか。(複数回答)

n = 507

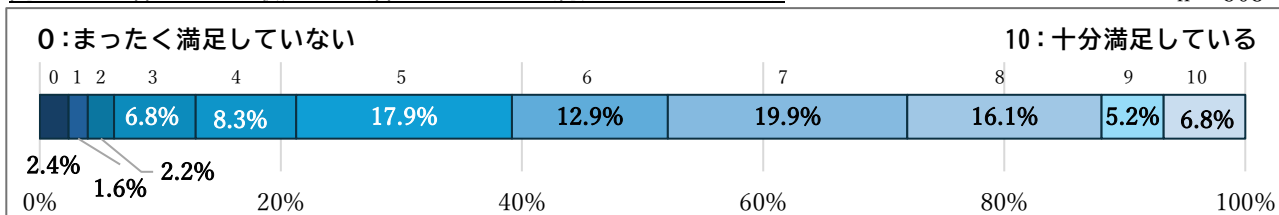
- 「友人とよく話したり遊んだりした」が79.1%、「学校生活は楽しかった」が61.1%と、肯定的な回答が高い一方、「学校は安心できる居場所だった」は21.5%と低い傾向にあります。



5. 現在の生活について

問 15 全体として、最近の生活にどれくらい満足していますか。

n = 503



- 「7」が19.9%と最も高く、次いで「5」が17.9%、「8」が16.1%となっています。
- 評点に回答率を乗じて100%で除し平均評点を算出すると6.1になります。

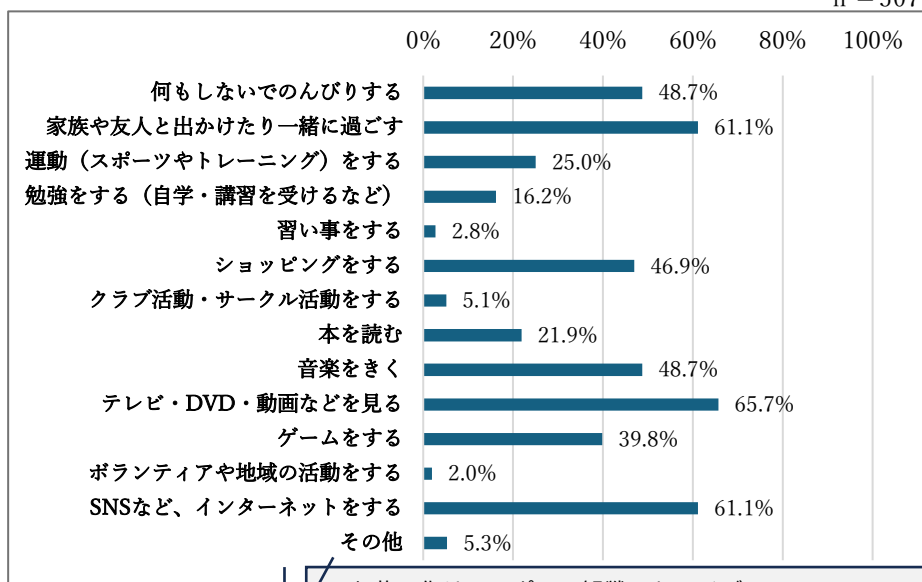
令和6年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

- 子どもアンケートでは、「10」が23.4%と最も高く、次いで「8」が20.7%、「7」が16.0%となっています。平均評点は7.3です。

問 16 あなたは自由な時間をどのように過ごしていますか。(複数回答) ※仕事や学校、家事など以外の過ごし方

n = 507

- 「テレビ・DVD・動画などを見る」が65.7%と最も高く、次いで「家族や友人と出かけたり一緒に過ごす」と「SNSなど、インターネットをする」がいずれも61.1%となっています。

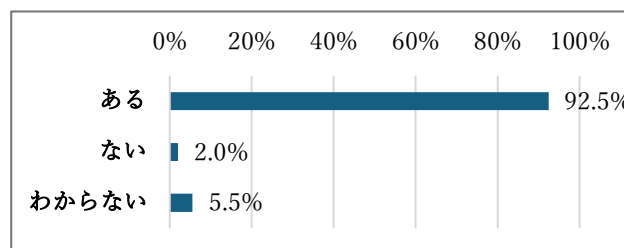


・お菓子作り・スポーツ観戦・ドライブ
 ・推し活・競馬・散歩・模様替えや片付け
 ・自宅で趣味の絵を描く・手芸・創作活動
 ・温泉めぐり・ラジオを聴く・ツーリング・バイクいじり
 ・哲学・数学・化学・芸術・歴史
 ・自由な時間はほとんどない

問 17 あなたは、安心して過ごせる場所がありますか。

n = 505

- 「ある」が92.5%(467人)と最も高く、次いで「わからない」が5.5%となっています。



令和6年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

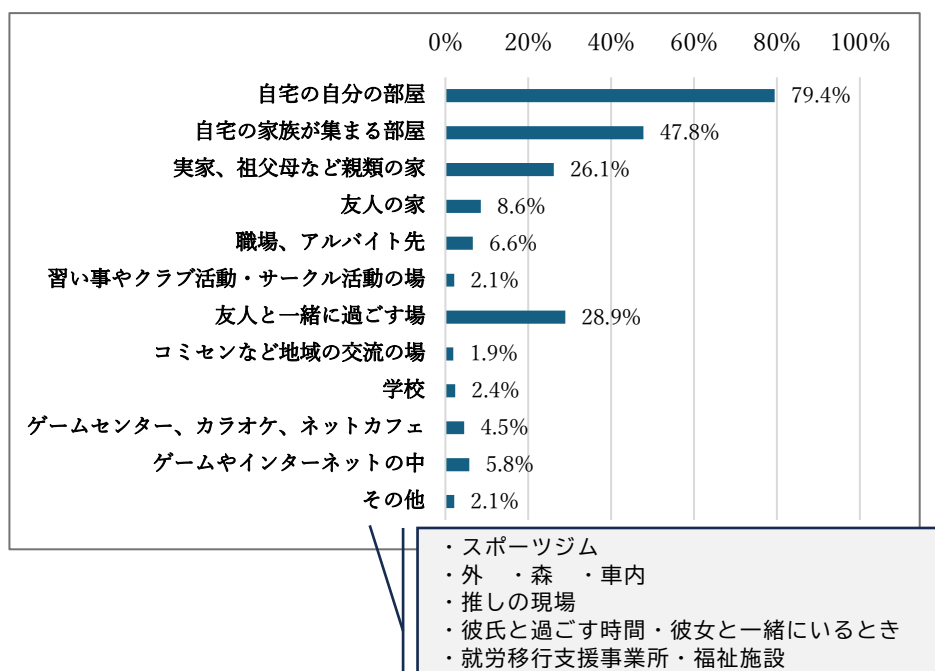
- 子どもアンケートでは、「ある」が86.5%と最も高く、次いで「わからない」が10.9%となっています。

問 17 で「ある」と答えた467人について

問 18 安心して過ごせる場所はどこですか。(複数回答)

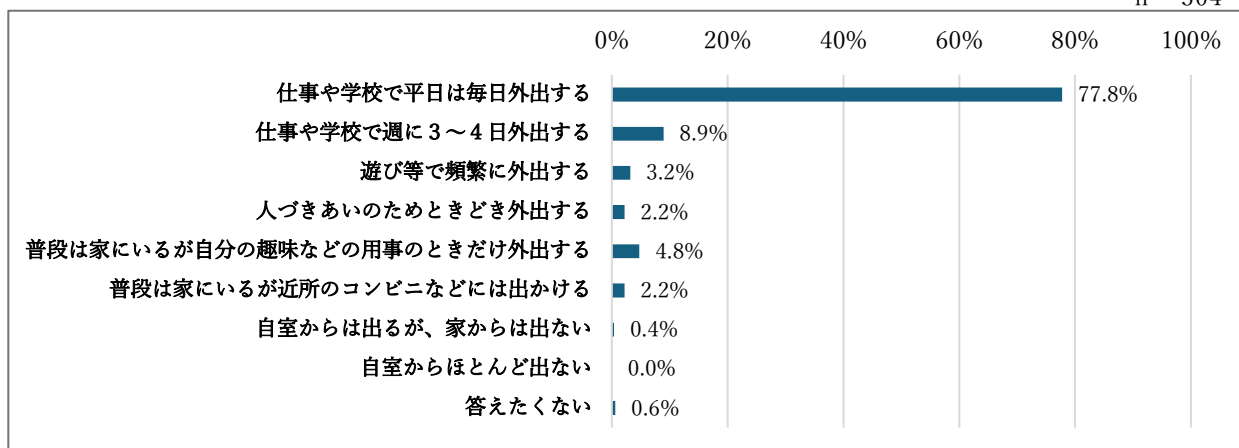
n = 467

- 「自宅の自分の部屋」が79.4%と最も高く、次いで「自宅の家族が集まる部屋」が47.8%となっており、自宅を安心して過ごせる場と感じている若者が多いことがうかがえます。



問 19 あなたは普段どのくらい外出しますか。

n = 504



- 「仕事や学校で平日は毎日外出する」が77.8%と最も高く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が8.9%となっています。

令和6年度新潟県 若者意識調査との比較

- 県の調査では、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が最も高く72.6%、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が9.2%となっています。

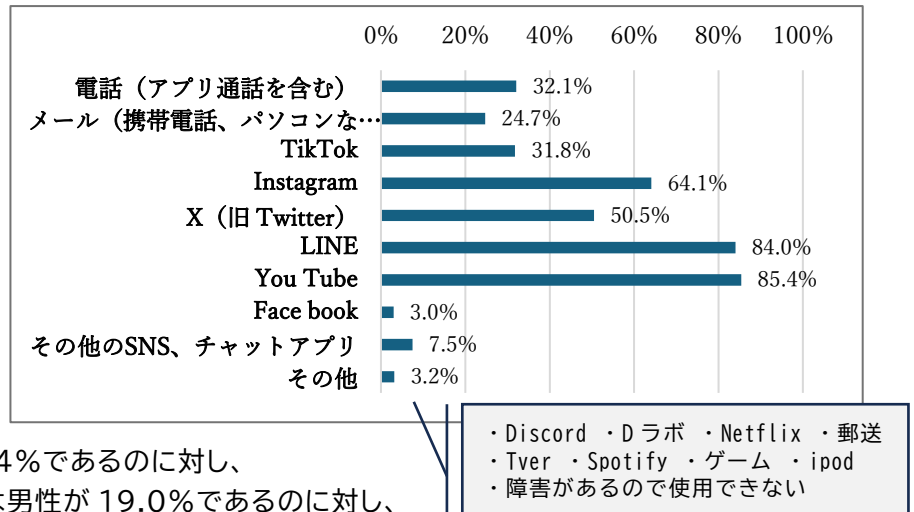
令和4年度こども家庭庁(内閣府) こども・若者の意識と生活に関する調査との比較

- 国の調査では、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が最も高く69.3%、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が12.1%となっています。

問 20 次のうち、あなたがよく利用しているものは何ですか。(複数回答)

n = 503

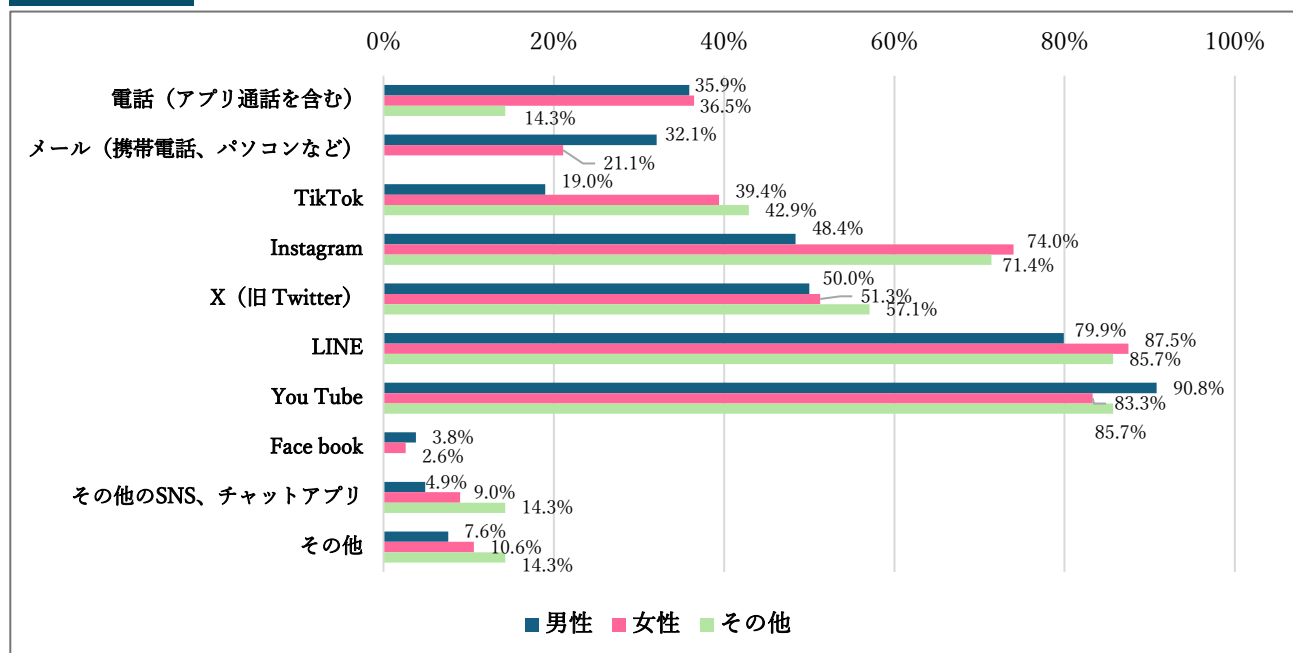
- 「YouTube」が 85.4%と最も高く、次いで「LINE」84.0%、「Instagram」64.1%となっています。
- 年齢でみると、「電話」や「メール」は、年齢が上がるにつれて、高くなっています。
- 男女別でみると、「Instagram」は男性が 48.4%であるのに対し、女性は 74.0%、「TikTok」は男性が 19.0%であるのに対し、女性は 39.4%と開きがあり、女性のほうが利用率が高いようです。



年齢別集計

	調査数	電話(アプリ通話含む)	メール(携帯電話、パソコンなど)	TikTok	Instagram	X (旧 Twitter)	LINE	You Tube	Face book	その他のSNS、チャットアプリ	その他
全体数(n)	503	181	125	161	325	256	426	433	15	38	48
19～22 歳	単位 (%)	24.3	19.2	39.1	27.1	24.2	24.4	26.1		42.1	41.7
23～26 歳		29.8	28.0	29.2	32.0	35.9	32.9	30.9	26.7	31.6	27.1
27～29 歳		43.1	47.2	28.6	37.2	35.9	39.0	38.8	53.3	23.7	29.2
その他		2.8	5.6	3.1	3.7	3.9	3.8	4.2	20.0	2.6	2.1

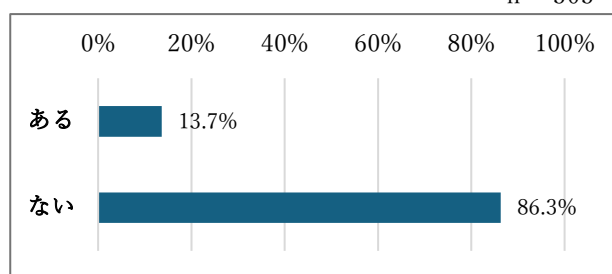
男女別集計



問 21 インターネットや SNS でのトラブルの経験はありますか。

n = 505

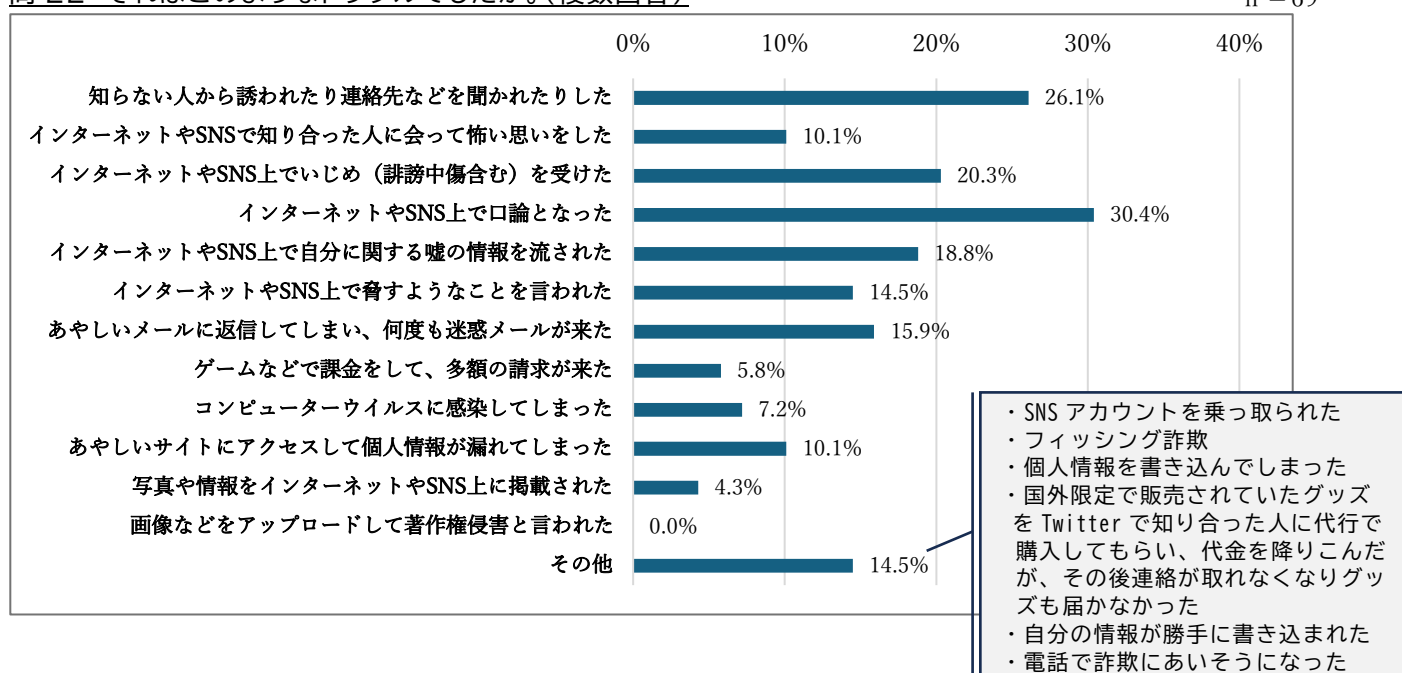
- 「ない」が 86.3%、「ある」が 13.7%(69 人)となっています。



問 21 で「ある」と答えた69人について

問 22 それはどのようなトラブルでしたか。(複数回答)

n = 69



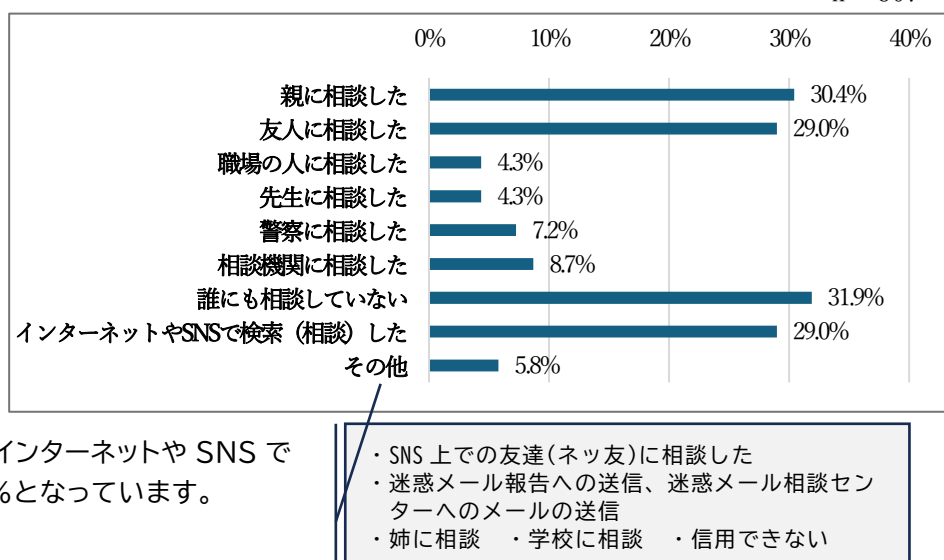
- 「インターネットや SNS 上で口論となった」が 30.4%と最も高く、次いで「知らない人から誘われたり連絡先などを聞かれたりした」が 26.1%、「インターネットや SNS 上でいじめ(誹謗中傷含む)を受けた」が 20.3%となっています。

問 23 トラブルがあったときにどのように対応しましたか。(複数回答)

n = 507

- 「誰にも相談していない」が 31.9%と最も高く、また「その他」では「信用できない」との意見もあることから、インターネットや SNS でのトラブルの対応、相談することの難しさがうかがえます。

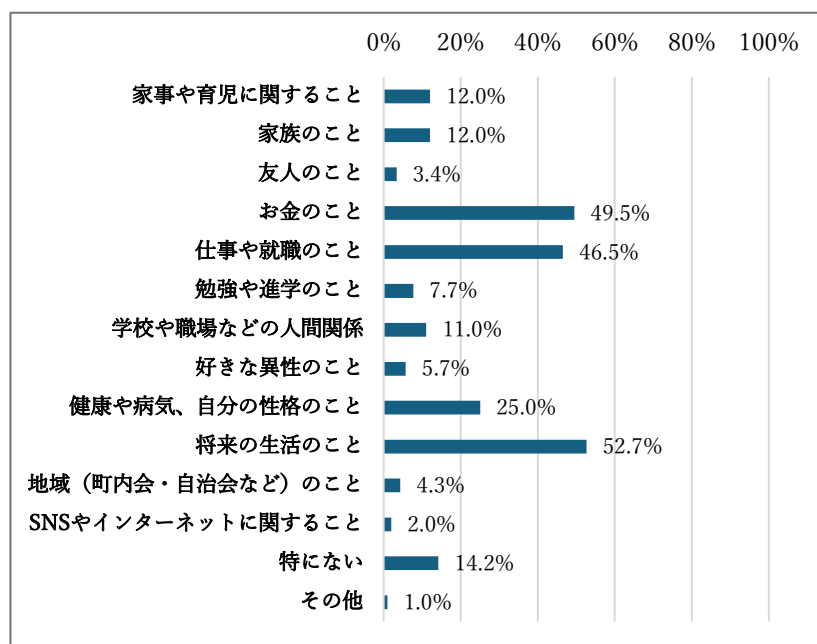
- 対応した場合には、「親に相談した」が最も高く 30.4%、次いで「友人に相談した」と「インターネットや SNS で検索した」がいずれも 29.0%となっています。



問 24 次の中で、困っていることや悩んでいることはありますか。(複数回答)

n = 507

- 「将来の生活のこと」が 52.7% と最も高く、次いで「お金のこと」が 49.5%、「仕事や就職のこと」が 46.5%となっています。

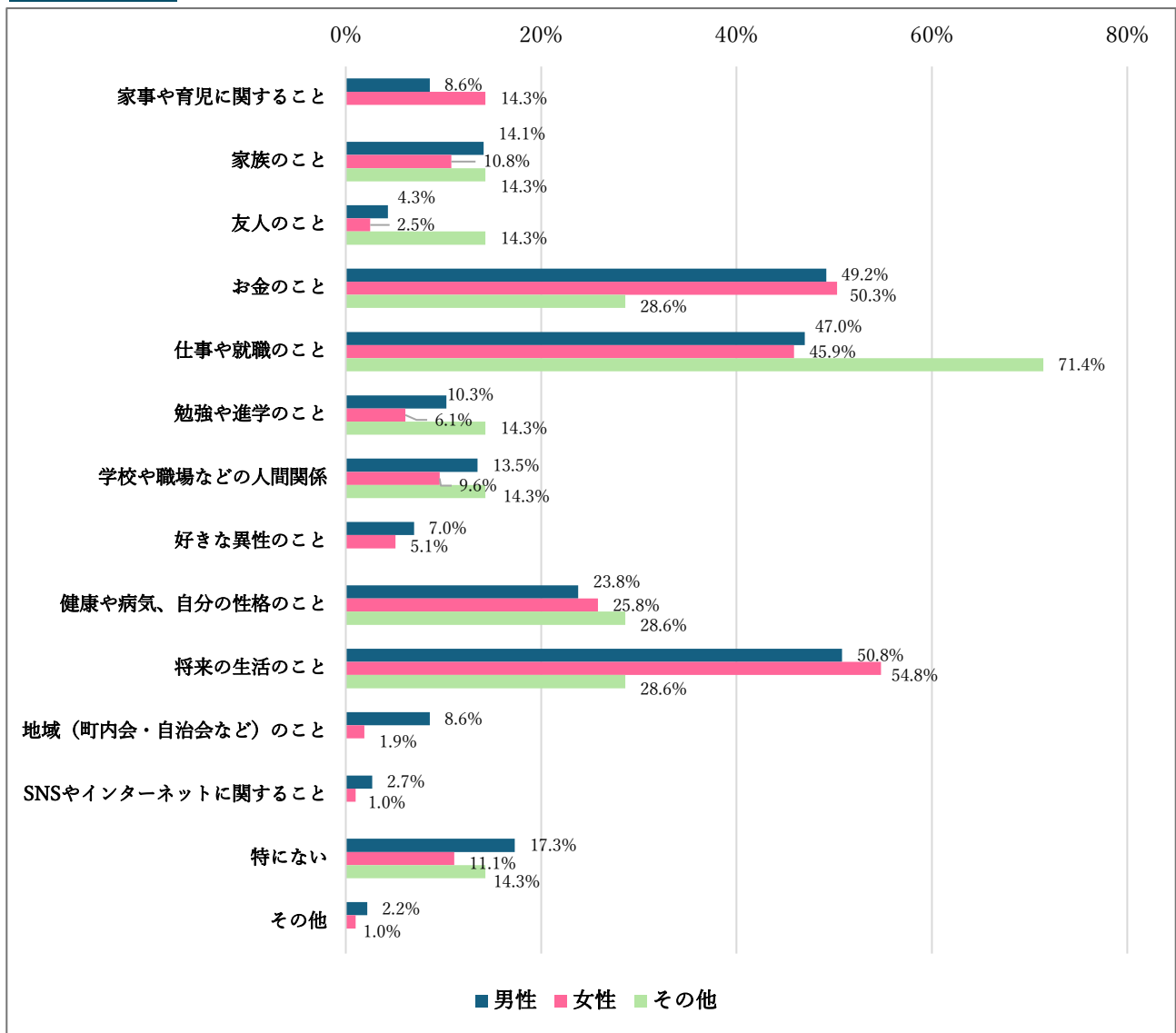


年齢別集計

	調査数	家事や育児に関すること	家族のこと	友人のこと	お金のこと	仕事や就職のこと	勉強や進学のこと	学校や職場などの人間関係	好きな異性のこと	健康や病気、自分の性格のこと	将来の生活のこと	地域(町内会や自治会など)のこと	SNSやインターネットに関すること	特にない	その他
全体数(n)	506	61	61	17	251	236	39	56	29	127	268	22	8	68	7
19～22 歳	単位 (%)	8.2	16.4	29.4	20.7	27.5	64.1	19.6	34.5	25.2	22.8	9.1	25.0	29.4	14.3
23～26 歳		23.0	32.8	29.4	33.9	35.2	12.8	44.6	41.4	30.7	33.2	31.8	12.5	23.5	42.9
27～29 歳		59.0	47.5	29.4	41.0	33.9	20.5	32.1	24.1	41.7	40.3	50.0	62.5	42.6	28.6
その他		9.8	3.3	11.8	4.4	3.4	2.6	3.6	—	2.4	3.7	9.1	—	4.4	14.3

- 年齢でみると、「家事や育児に関すること」、「家族のこと」、「地域(町内会や自治会など)のこと」などは、年齢が上がるにつれて、高くなっています。
- 「学校や職場などの人間関係」、「好きな異性のこと」は、23～26歳が最も高くなっています。
- 男女別でみると、「家事や育児に関すること」は男性が 8.6%であるのに対し、女性は 14.3%であり、女性が高くなっています。
- その一方、「勉強や進学のこと」は男性が 10.3%であるのに対し、女性は 6.1%、「学校や職場などの人間関係」は男性が 13.5%であるのに対し、女性 9.6%であり、男性が高くなっています。

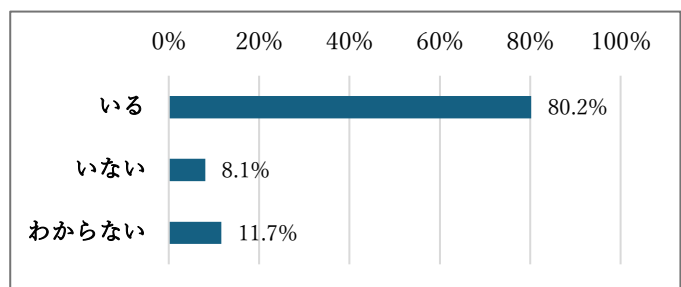
男女別集計



問 25 あなたは、困りごとや悩みごとを相談できる人がいますか。

n = 506

- 「いる」が 80.2% (406 人) と最も高く、次いで「わからない」が 11.7%、「いない」が 8.1% (41 人) となっています。



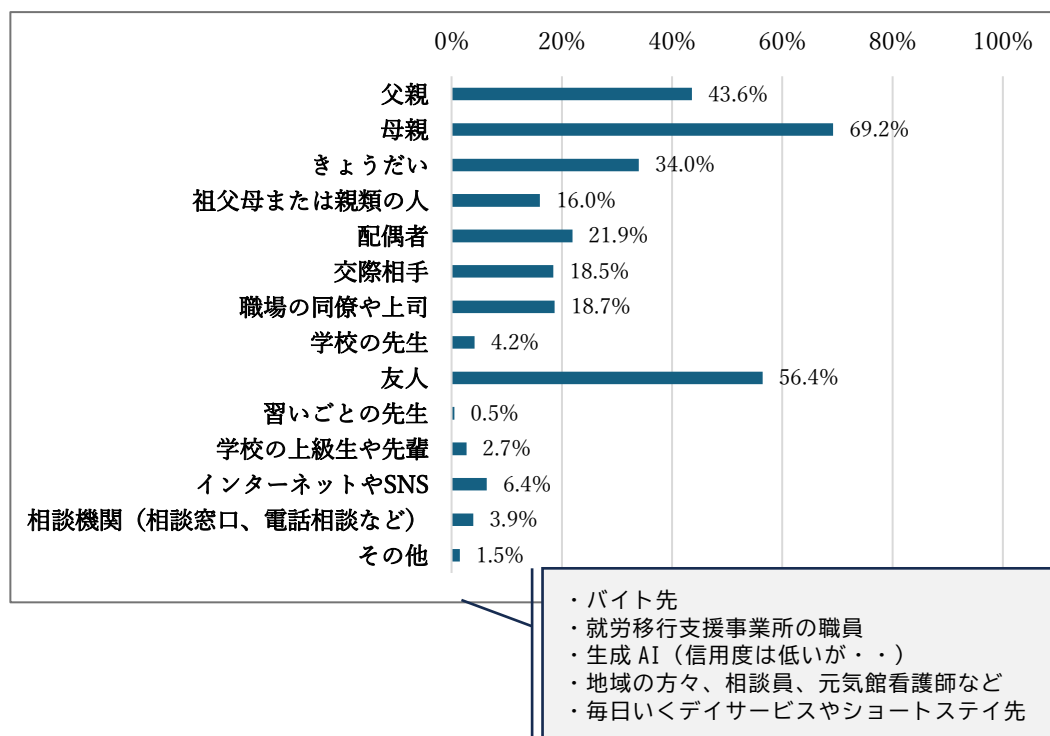
令和 6 年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

- 子どもアンケートでは、「いる」が 83.1% と最も高く、次いで「わからない」が 13.2% となっています。

問 25 で「いる」を選択した406人について

問 26 あなたが相談できると思う人はだれですか。(複数回答)

n = 406

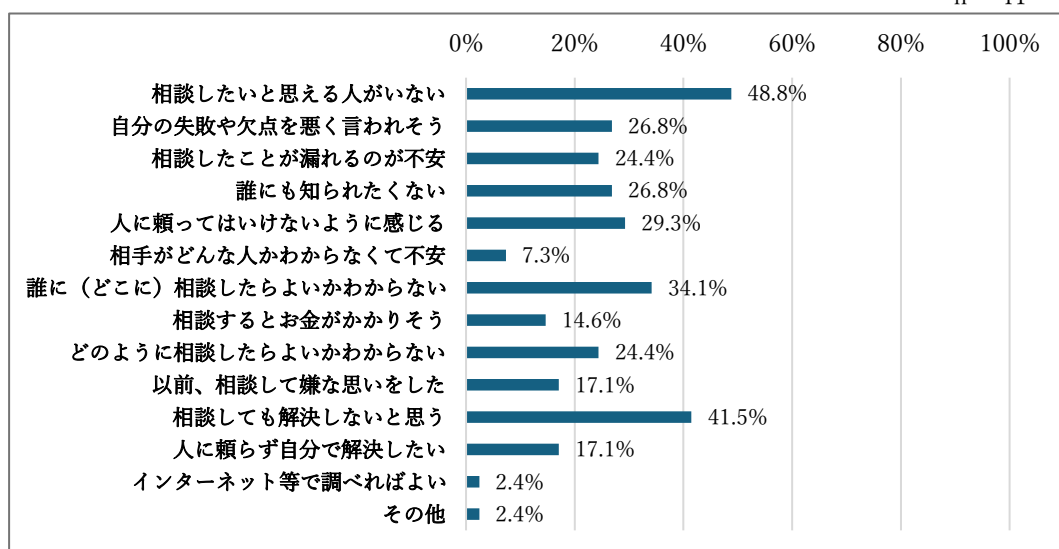


➤ 「母親」が 69.2%と最も高く、次いで「友人」56.4%、「父親」43.6%となっています。

問 25 で「いない」を選択した41人について

問 27 相談できると思う人がいないと考える理由は何ですか。(複数回答)

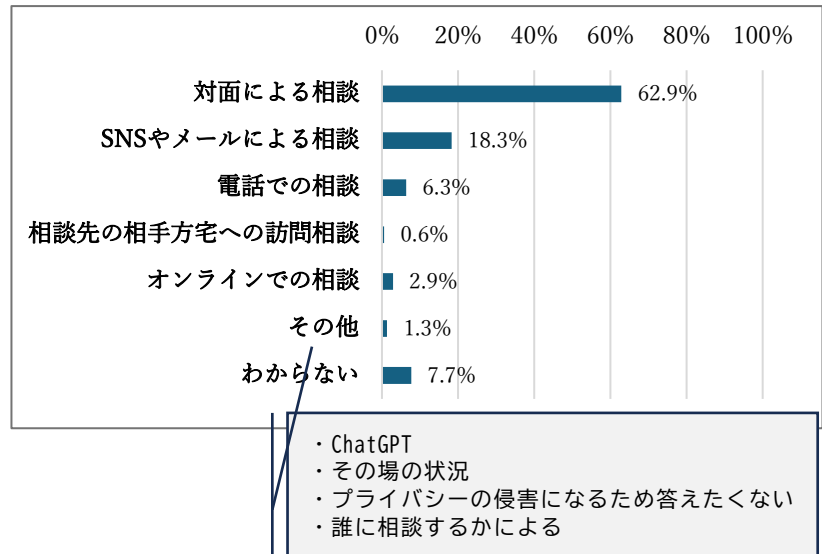
n = 41



➤ 「相談したいと思える人がいない」が 48.8%と最も高く、次いで「相談しても解決しないと思う」が 41.5%、「誰に（どこに）相談したらよいかわからない」が 34.1%となっています。

問 28 相談するとしたら、最も相談しやすい方法は何ですか。

n = 506

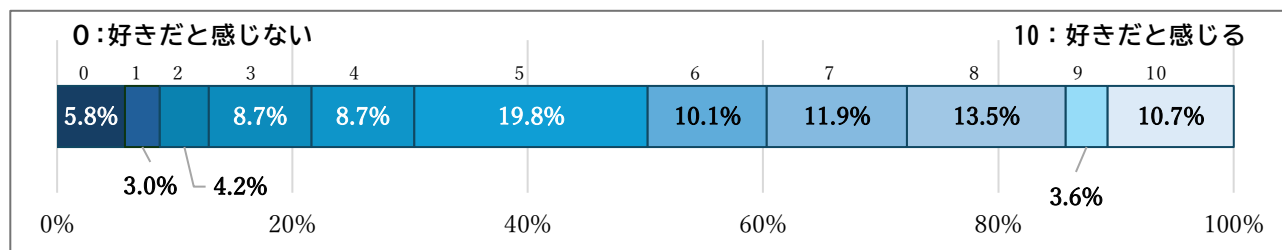


- 「対面による相談」が 62.9%と最も高く、次いで「SNS やメールによる相談」が 18.3%となっています。

6. 回答者の気持ち・考えについて

問 29 全体として、あなたは自分のことが好きだと感じますか。

n = 504



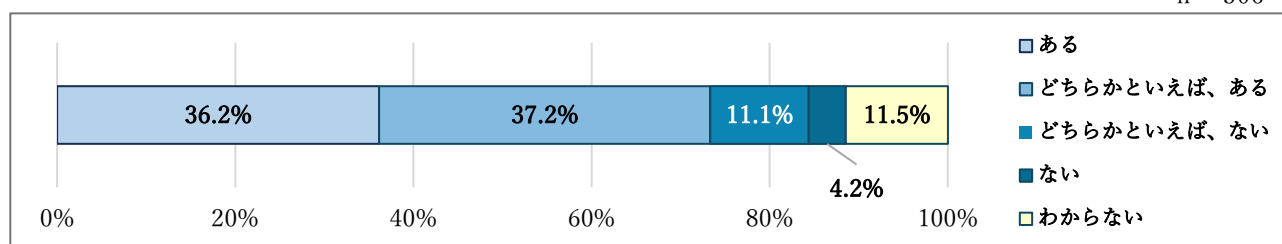
- 「5」の19.8%が最も高く、次いで「8」の13.5%、「7」の11.9%となっています。
- 評価に回答率を乗じて100%で除し平均評価を算出すると5.6になります。

令和6年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

- 子どもアンケートでは、「5」が22.5%と最も高く、次いで「10」が20.8%、「8」が11.8%となっています。平均評価は6.4です。

問 30 自分には自分らしさというものがあると思いますか。

n = 506



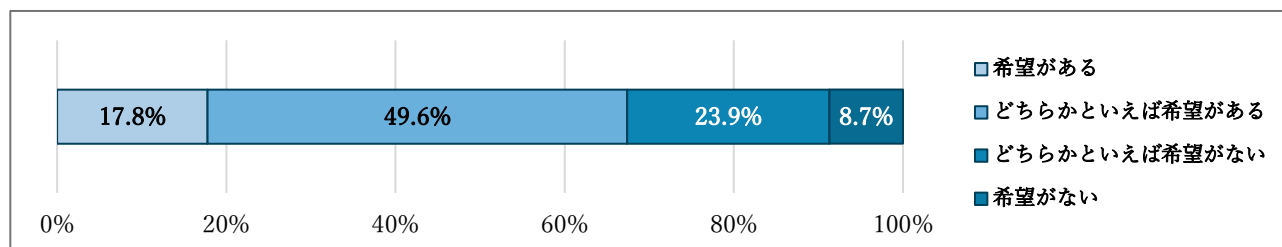
- 「どちらかといえば、ある」の37.2%が最も高く、次いで「ある」が36.2%となっています。合計すると「ある」の回答は、73.4%を占めます。

令和6年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

- 子どもアンケートでは、「ある」が47.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば、ある」が31.5%です。合計すると「ある」の回答は78.7%を占めます。

問 31 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。

n = 506



- 「どちらかといえば希望がある」の49.6%が最も高く、次いで「どちらかといえば希望がない」が23.9%となっています。

令和 6 年度新潟県 若者意識調査との比較

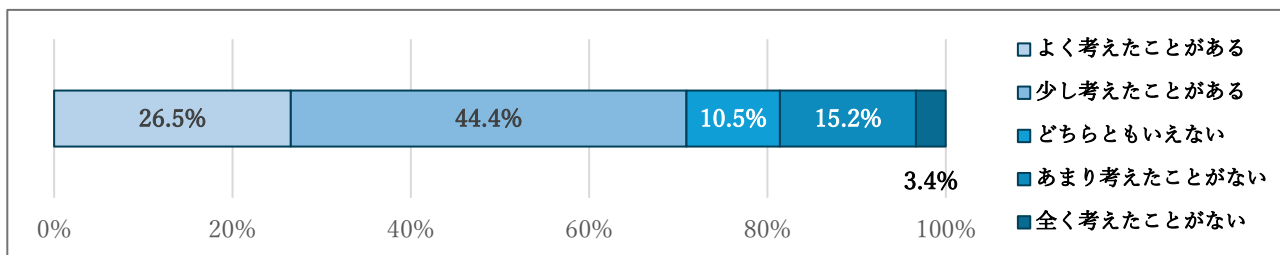
- 県の調査では、「どちらかといえば希望がある」が 37.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば希望がない」が 23.0%となっています。

令和 4 年度子ども家庭庁(内閣府) 子ども・若者の意識と生活に関する調査との比較

- 国の調査では、「どちらかといえば希望がある」が 42.4%と最も高く、次いで「希望がある」が 24.1%となっています。

問 32 自分の人生設計(ライフプラン)を考えたことがありますか。

n = 505

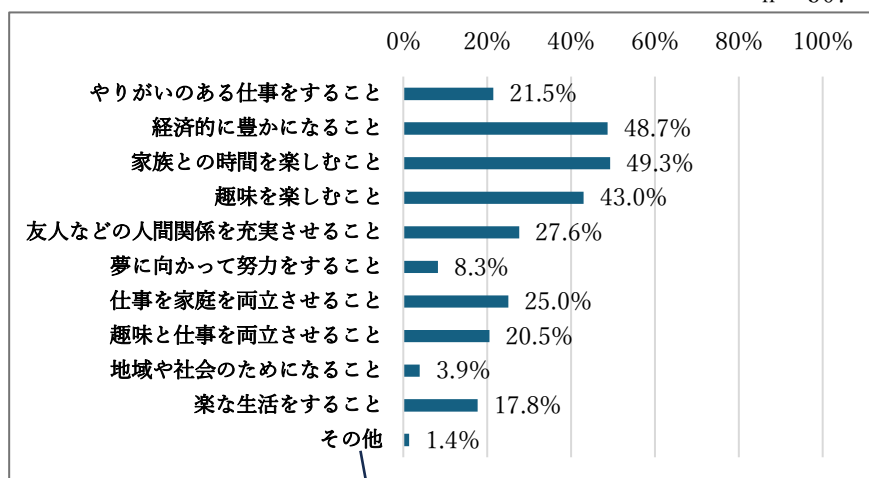


- 「少し考えたことがある」の 44.4%が最も高く、次いで「よく考えたことがある」が 26.5%、「あまり考えたことがない」が 15.2%となっています。

問 33 あなたは、生きていくうえで、何を重視しますか。(3つまで回答)

n = 507

- 「家族との時間を楽しむ」の 49.3%が最も高く、次いで「経済的に豊かになる」が 48.7%、「趣味を楽しむ」が 43.0%となっています。

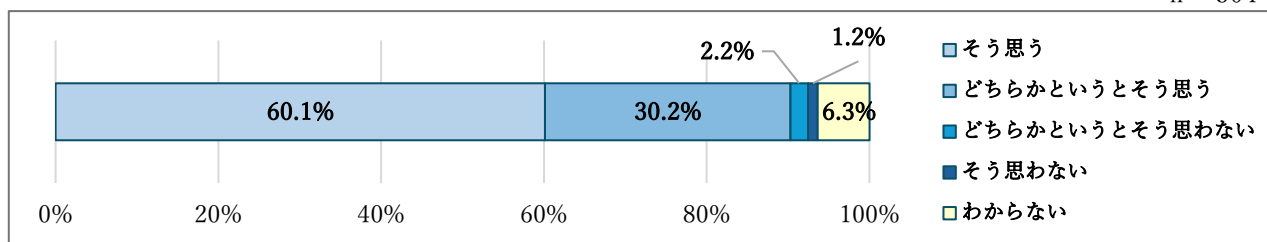


- ・人の役に立てること
- ・目的達成、精神的に豊かな生活の実現
- ・自分の考え方や信念を脅かされないこと
- ・健康な身体を生活している間は維持する
- ・食事等を楽しむ
- ・障害者なので全介助
- ・早めに死ぬること

問 34 子どもや若者について、次のうち、あなたの認識に近いものはどれですか。

1 子どもは権利の主体だと思う。

n = 504



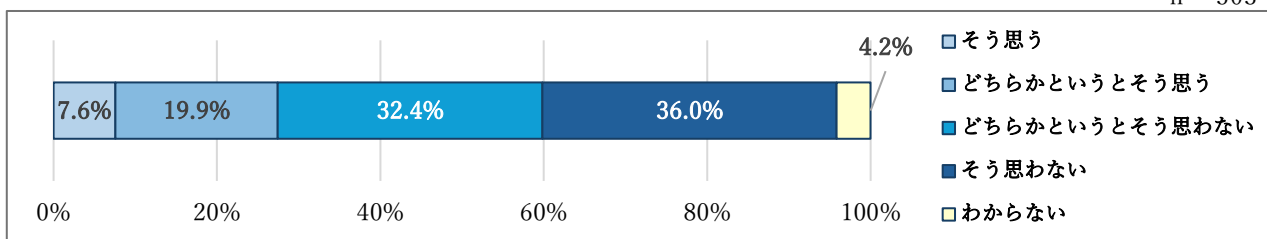
- 「そう思う」の 60.1%が最も高く、次いで「どちらかというと思う」が 30.2%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると 90.3%、「そう思わない」の回答を合計すると 3.4%です。

令和 5 年度子ども家庭庁 子ども政策の推進に関する意識調査との比較

- 国の調査では、「そう思う」の回答は 54.4%、「そう思わない」の回答は 23.4%です。

2 子どもや若者の遊びや体験の場が身近に十分あると思う。

n = 503



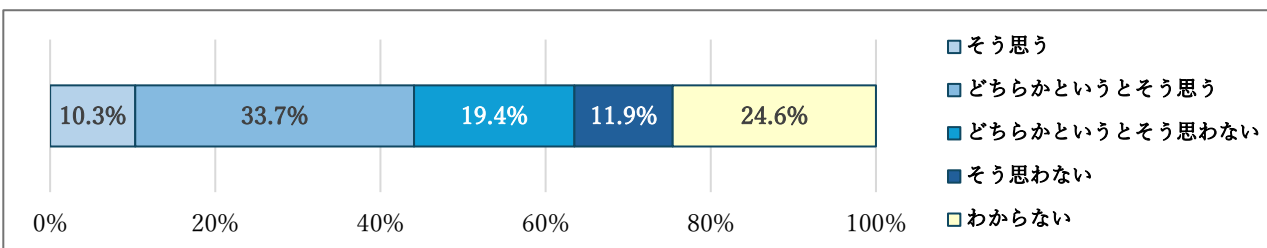
- 「そう思わない」の 36.0%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」が 32.4%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると 27.5%、「そう思わない」の回答を合計すると 68.4%です。

令和 5 年度子ども家庭庁 子ども政策の推進に関する意識調査との比較

- 国の調査では、「そう思う」の回答は 40.4%、「そう思わない」の回答は 41.7%です。

3 学校でのインクルージョンが推進されていると思う。

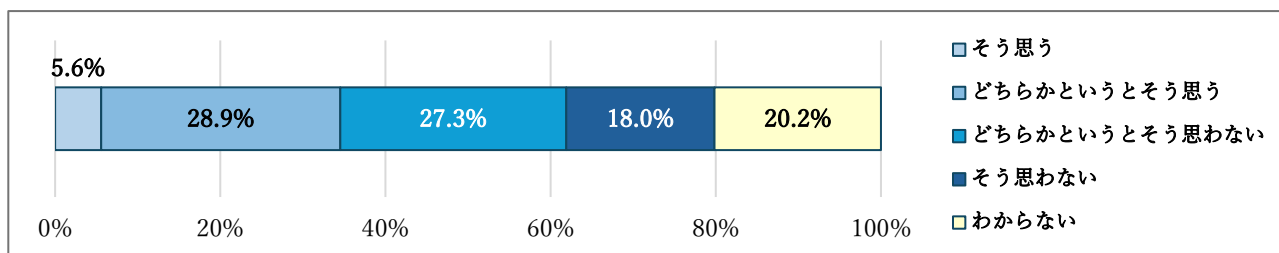
n = 504



- 「どちらかというと思う」の 33.7%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」が 19.4%となっています。「そう思う」の回答を合計すると 44.0%、「そう思わない」の回答を合計すると 31.3%です。

4 障がいや発達特性があっても地域で暮らしやすいと思う。

n = 501



- 「どちらかというと思う」の 28.9%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」が 27.3%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると 34.5%、「そう思わない」の回答を合計すると 45.3%です。

令和 6 年度新潟県 若者意識調査との比較

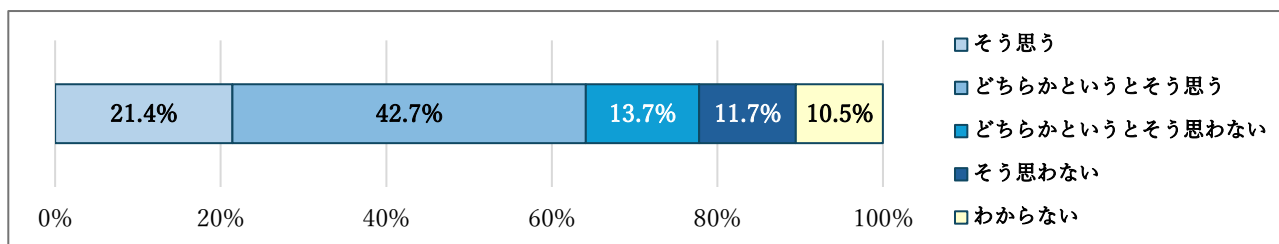
- 県の調査では、「そう思う」の回答は 29.5%、「そう思わない」の回答は 47.5%です。

令和 5 年度子ども家庭庁 子ども政策の推進に関する意識調査との比較

- 国の調査では、「そう思う」の回答は 27.2%、「そう思わない」の回答は 47.5%です。

5 学校は、安心して過ごせる大切な居場所の1つだと思う。

n = 504



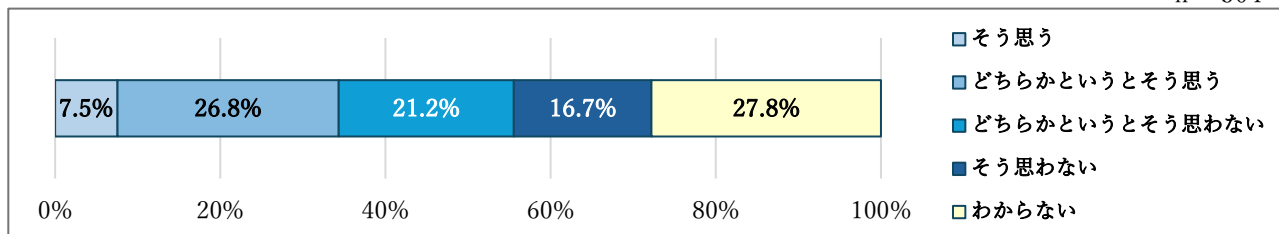
- 「どちらかというと思う」の 42.7%が最も高く、次いで「そう思う」が 21.4%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると 64.1%、「そう思わない」の回答を合計すると 25.4%です。

令和 5 年度子ども家庭庁 子ども政策の推進に関する意識調査との比較

- 国の調査では、「そう思う」の回答は 54.4%、「そう思わない」の回答は 30.0%です。

6 こころのケアへの情報や支援が十分に整っていると思う。

n = 504



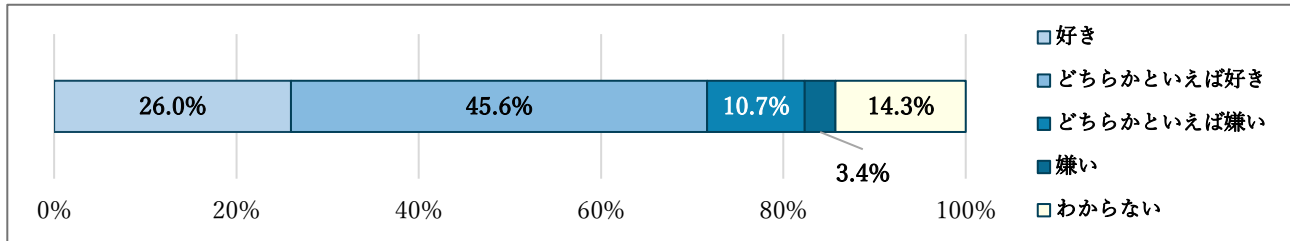
- 「どちらかというと思う」の 26.8%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」が 21.2%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると 34.3%、「そう思わない」の回答を合計すると 37.9%です。

令和 5 年度子ども家庭庁 子ども政策の推進に関する意識調査との比較

- 国の調査では、「そう思う」の回答は 43.1%、「そう思わない」の回答は 37.8%です。

問 35 あなたは、柏崎市が好きですか。

n = 504



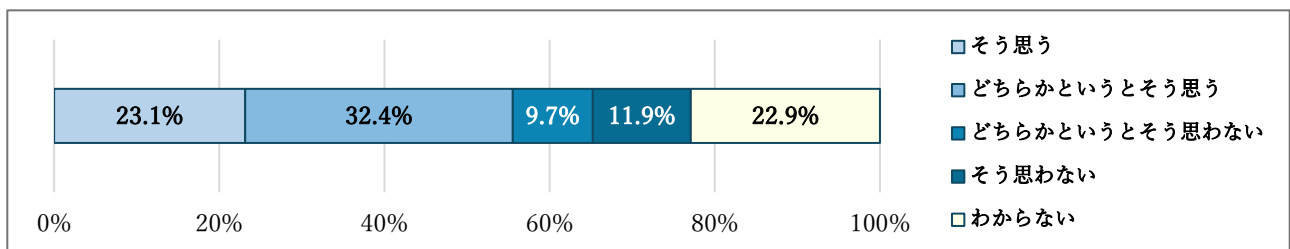
- 「どちらかといえば好き」の45.6%が最も高く、次いで「好き」が26.0%となっています。
- 「好き」の回答を合計すると71.6%、「嫌い」の回答を合計すると14.1%です。

令和6年度 子どもアンケート(第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う)との比較

- 子どもアンケートでは、「好き」の回答は80.9%、「嫌い」の回答は8.0%です。

問 36 国・県・市の取組に、自分の意見を反映させたいと思いますか。

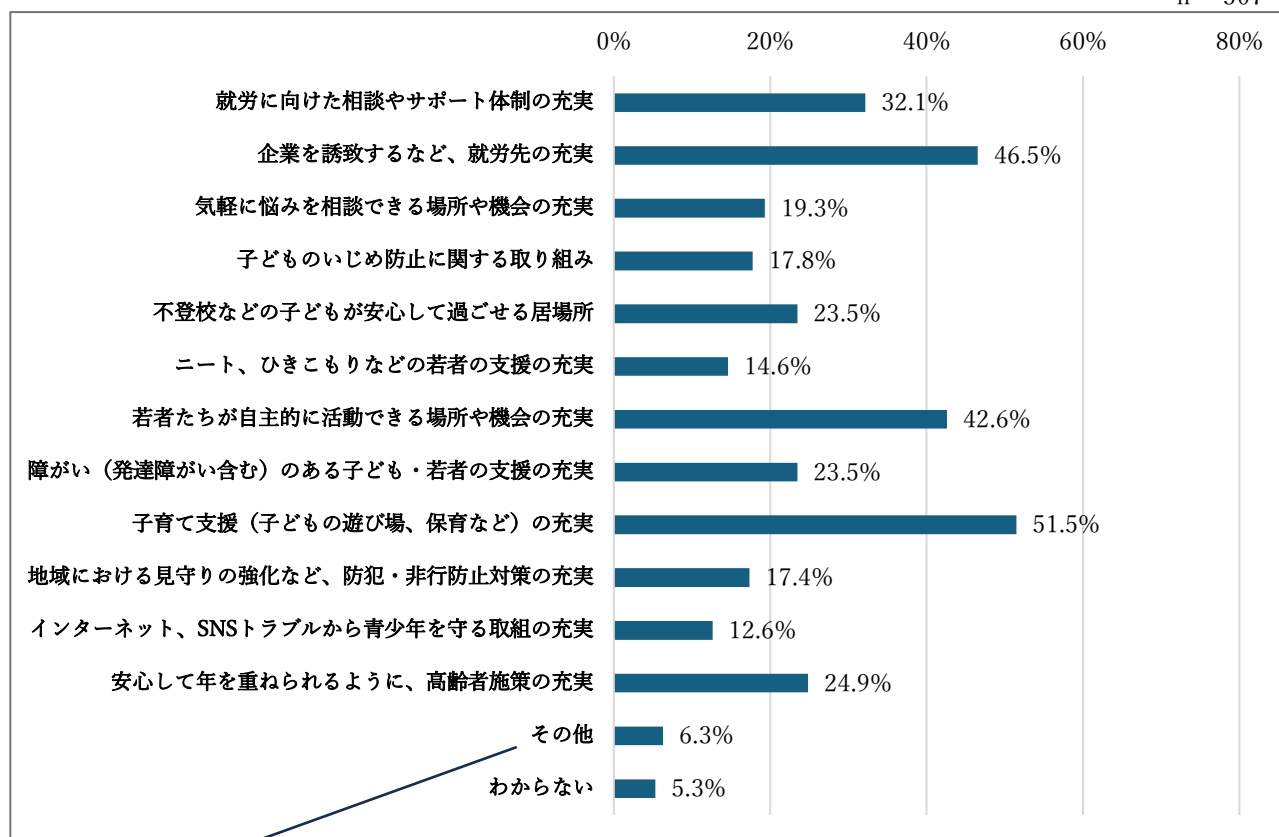
n = 506



- 「どちらかというと思う」の32.4%が最も高く、次いで「そう思う」が23.1%となっています。
- 「そう思う」の回答を合計すると55.5%、「そう思わない」の回答を合計すると21.6%です。

問 37 柏崎市が特に取り組むべきことは何だと思いますか。(複数回答)

n = 507

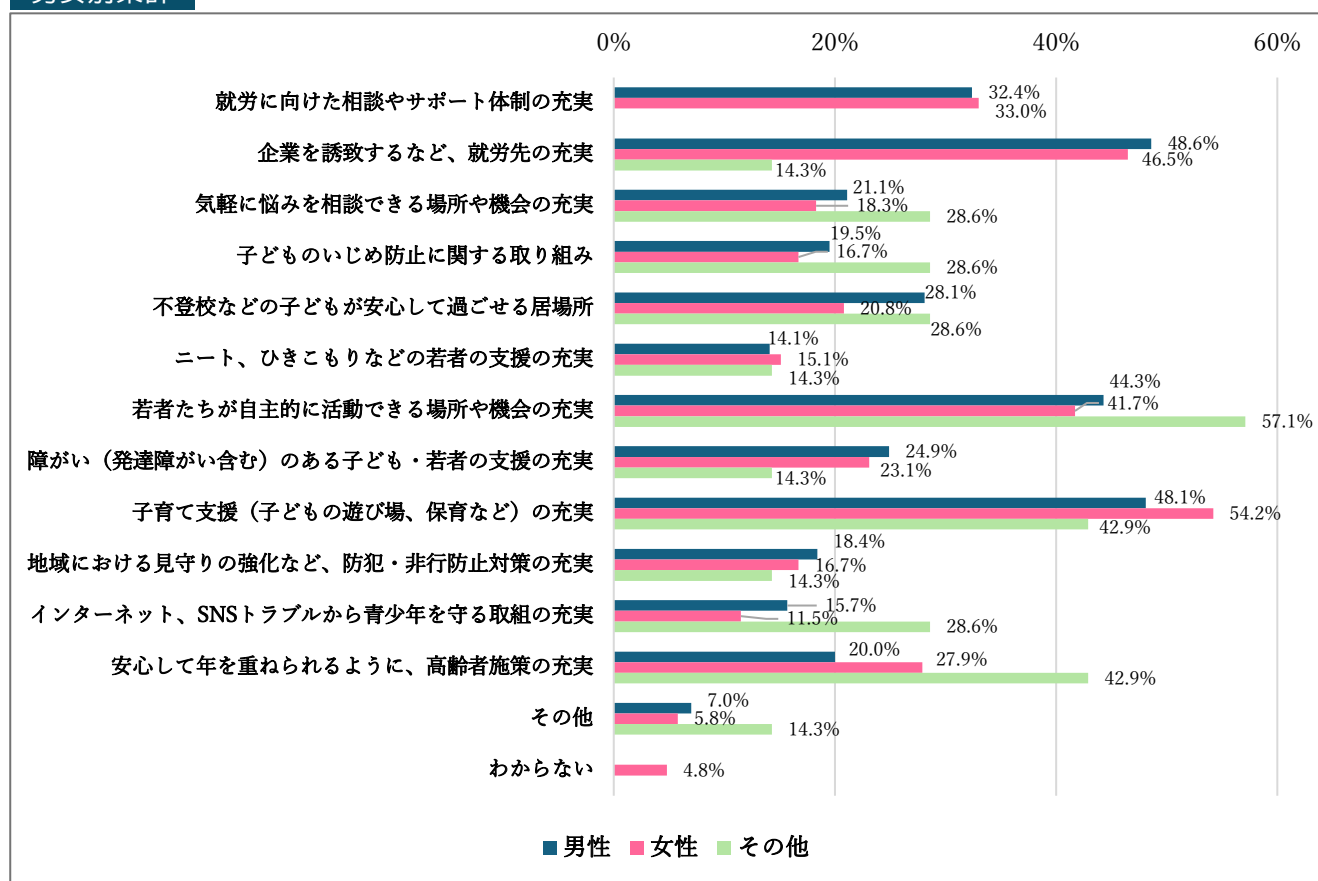


- ・お店が少なすぎる、潰れてばかり。 ・そもそも娯楽が無さ過ぎる。
- ・ネットカフェや映画館など若者が遊べる場所を増やしてほしい。
- ・医学部生や研修医に奨学金を貸与して、柏崎で医師として働いてもらい医師を確保する。
- ・医療機関の充実 ・医療費無料化になると嬉しいです。
- ・教職員の業務量の改善、業務内容の検討(小学校しかわからないですが、19時半には仕事が終わりにきらず、毎週土曜日まで出勤する職員がかなりたくさんいます)。
- ・原発の安全性を高めること ・交通インフラの整備 ・公共交通機関（便の数）拡充
- ・郊外の子は図書館に行けないので、家庭環境が悪いと意欲があっても学習ができない。
- ・子育て支援より、まず結婚支援を打ち出したら良い。住居斡旋など若い人が定住する施策など
- ・若者が行ける場所を増やす。コストコや映画館、遊園地、喫茶店、サイゼリヤなど。柏崎はなんにも無いという声が多すぎる。遊び場を作る必要がある
- ・生活には不便はないが、余暇を楽しむ場所が少なすぎる。土地はあるのだから大型ショッピングモールやアウトレtparkなどの誘致をして、人が集まる街にして欲しい。
- ・地域全体の賃金向上に向けた支援の拡充 ・道路、歩道の保全
- ・柏崎市民が嫌い、悪い人を放っておかず、警察は捕まえて欲しい。警察にメールで相談しても意味ない。迷惑メールとか、身に覚えのない電話がかかってくる不安から、知っている電話番号以外から電話が来ると心配である。身近な人によるものではないかと思って、人間不信になる。
- ・遊ぶ場所がなさすぎる。友人とご飯を食べに行こうと思っても行ける場所がない。
- ・東京方面に行きやすい交通手段の増加を求めたい。
- ・安心して生活ができる環境が大切だと思う。安心して子育て、育児ができる体制を整備していかないとこれから先が不安。金銭面でもサポートしてもらえるシステムがあると良い。
- ・老若男女、生活に苦しむ人、障がいの有無に関係なくみんな平等に向き合ってほしい。
- ・子ども・若者が育っても大人になり出て行ってしまう。大学進学で戻ってこない人がほとんど。若者が戻ってきたいと思う遊び場、企業の誘致を早急にしないと人口減少に歯止めがきかなくなる。
- ・昔と比べると遊ぶ場所や公園、お店等が減ったと感じる。高齢化が進む中、車を手放す方も増えると思う。電車やバス、タクシーが身近にあればよいと思う。特に冬の期間が心配。家の雪下ろし等手伝ってくれるボランティアがあればよい（既にあったらすみません）。
- ・できるなら全部をして頂きたいです。「高齢者施策の充実」はもう十分なのでは？
- ・楽しいイベントを企画してほしい。モールのような所があるといいと思います。
- ・障害を持つ子供・若者の親（高齢介助者）の心身の安定がとれる場所・医療的には病気予防・ワクチンの費用助成（年齢関係なく）。例えばコロナ、インフル、帯状疱疹など 65 才以上からは納得がいかないです。障害児・者を介助毎日同居でしている人のワクチン費用はせめて高齢者対応と同じにしてほしいと思います。

年齢別集計

	調査数	就労に向けた相談やサポート体制の充実	企業を誘致するなど、就労先の充実	気軽に悩みを相談できる場所や機会の充実	子どものいじめ防止に関する取り組み	不登校などの子どもが安心して過ごせる居場所、多様な学びの場の充実	ニート、ひきこもりなどの若者の支援の充実	若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実	障がい（発達障がい含む）のある子ども・若者の支援の充実	子育て支援（子どもの遊び場、保育など）の充実	地域における見守りの強化など、防犯・非行防止対策の充実	インターネット、SNSなどのトラブルから青少年を守る取組の充実	安心して年を重ねられるように、高齢者施策の充実	その他	わからない
全体数(n)	504	163	236	98	90	119	74	216	119	261	87	67	127	32	15
19～22 歳	単位 (%)	26.4	27.1	21.4	33.3	34.5	29.7	28.2	28.6	23.8	29.9	35.8	26.0	18.8	20.0
23～26 歳		35.6	29.7	34.7	25.6	23.5	31.1	31.5	32.8	30.3	32.2	22.4	30.7	37.5	33.3
27～29 歳		35.0	38.6	37.8	37.8	36.1	33.8	35.6	32.8	41.8	35.6	37.3	39.4	37.5	46.7
その他		3.1	4.7	6.1	3.3	5.9	5.4	4.6	5.9	4.2	2.3	4.5	3.1	6.3	—

男女別集計



- 「子育て支援（子どもの遊び場、保育など）の充実」が 51.5%と最も高く、次いで「企業を誘致するなど、就労先の充実」が 46.5%、「若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実」が 42.6%となっています。
- 年齢でみると、「子育て支援（子どもの遊び場、保育など）の充実」と回答した割合は、年齢が上がるにつれて高くなっています。
- 男女の回答割合に、大きな差はないようです。

7. 柏崎市に求めること・期待すること

問38 柏崎市に求めること・期待することなど(自由記載)

「子どもの遊び場」に関する記載

- ・赤ちゃんが土日に遊べる広場が少ない。公園の遊具は3歳以上がほとんどで、それ以下の赤ちゃんの遊具をもう少し増やして欲しい（1箇所でもいいので）。
- ・休日に複数の親子が無料で過ごせる場所がもう1箇所くらいほしい。キッズマジックはとてもありがたいが、感染症が不安でなかなか利用できない。
- ・キッズマジックは広くはなりましたが、遊具が小さく幼児向けだと思います。思い切ってフォンジェ全体を子どもの遊び場にするとよいのではないのでしょうか。柏崎はすべてが中途半端な印象です。
- ・キッズマジックが新しくなるととても良かったと思います。休日の混雑状況など改善策を考えて欲しいです。
- ・雨天時冬期間の子どもの遊び場が少ない。キッズマジックだけでは不十分。キッズマジックは設備的に幼児向け、キャパも小さい。
- ・高齢化が進み老人ホーム等多くなってきていて、子供が遊べるような場所や安心して子供を預けられる場所が少ないと思います。
- ・子どもが安全に、楽しく遊べる施設が少なすぎる。
- ・子どもの遊び場の整備をお願いします。
- ・子どもや若者の遊び場が圧倒的に少ないと感じます。
- ・子供時代に、お店や遊び場・遊具のラインナップがしっかりある公園がどんどん減っていったので「遊びに行くといえばまずは長岡に行く」が前提となってしまった上に、子供だけで電車やバスを使って遠出することは保護者から止められることが多かったので休日に友人とどこかへお出掛けするといったことができなかった、遊ぶといえばゲームになってしまった、という印象があります。イベントなどの限られた期間の娯楽ではなく、子供達が行動できる範囲内に楽しいと思える遊び空間やお店が常にあるととても嬉しかったのに、と今でも強く思っています。
- ・子供が遊べる室内遊び施設をもっと増やしてほしい。公園に遊具を置いてほしい。子供が楽しめる場所が全然ないと思うので作ってほしい。
- ・子供が遊びやすいよう、公園など増やして欲しい。家の周りで親がついて見ているのに、危ないからと警察を呼ばれたので遊び場がないと思う。
- ・公園でボールが使えないのはいかがでしょうか。子どもの遊びに制限をかけ過ぎると思います。
- ・冬にボール（サッカー・野球・テニス）などができる場所がほしい。
- ・公園がもっとほしいです。
- ・駅前公園にももう少し遊具を入れて欲しいです。
- ・子どもや若者の遊び場の充実を図って欲しいです。例えば、公園などの友人と遊ぶ際に行ける場所が増えて欲しいです。
- ・子供達が楽しめ、体験できるイベント等を増やして欲しいです。
- ・子どもが遊べる場所がほしい。
- ・子どもの遊び場（室内）がもう1件くらい出来たら嬉しいです。
- ・このようなアンケートの取組、とても感謝いたします。柏崎は自然がたくさんあり、決して悪いところではないと思います。言うのは簡単かと思いますが、もっと海や山を売りにし、子供たちが遊べる施設がもう少しあると、少子化も改善されるかな、と思います。県外、市外からも人が移住したいと思われる様な柏崎を期待します。
- ・公園が充実すれば、外で遊ぶ機会が増えて、子どもや大人にとっても良いと思います。
- ・子どもたちが安心して遊べる場所を増やしてほしい。
- ・外で遊べる施設・公園の充実化
- ・こどもの遊ぶ場所が少ない。
- ・室内での遊び場が増えれば、運動不足の小中学生が減ると思う。

- ・遊び場が欲しいです！若者が少ないのもっと子どもが過ごしやすい街づくりをして少子高齢化を防いでいくべきだと思います！
- ・遊具等が充実した公園はいくつかあるが、人が多い日が多く子供をめいっぱい遊ばせることが出来ない時がある。
- ・発達障害の子を育てていますが待つことができず癇癪を起こしやすいです。平日に空いているだろうとキッズマジック行った際少し待たされることがありました。子が待つことができればいいのですが難しくパニックになってしまいました。そこで手帳持ちならスムーズに入れたり、スマホ等で混雑状況がわかったりすると嬉しいなと思いました。

「学校」に関する記載

- ・どの学校も子供の数が減って来ているため、掃除が大変そう。トイレ掃除は業者委託にするなど工夫をしてほしい。
- ・学校の冷暖房整備。夏は暑いし、冬はとても寒い。市役所の人は冬に薄着だと思ったが、学校の子どもは冬に屋内でも上着を着て過ごしていた。
- ・子どもたちが学ぶ場所は安全で安心した場所にしてほしい。気温に左右されて勉強に集中できないこともあると思う。
- ・学校教育の充実（教員数を増やす等）
- ・専門学校、大学等の学校を増やしてほしい。

「交流/活動の場」に関する記載

- ・若者が無料で集まれる場所を増やしてほしい。
- ・関東から柏崎市に来たが都内のように若者が集まるような店などが無さすぎる。これではみんな上京してしまうのがわかる。高齢者向けのような街になっていると感じるので新潟市のような人が集まる施設を作って欲しい。
- ・柏崎で交流を深める目的でも、公共交通機関を盛んに整備し、柏崎市内で運動などを通じて交流の場を作るべき。
- ・人口が減少すれば市民の生活を高い水準で維持することが難しいため、若者が集う場所を充実させ、ずっと住みたいと感じさせる必要があると考える。
- ・高校卒業や就職で市外へ出ていく人がいる一方、大学を終えてリターンしてくる人や市外から転入してくる人もいると思います。そのような柏崎にいる若者がつながることができる（もしくは集うことができる）場があっても良いと思います。
- ・若者が無料で集まれる場所を増やしてほしい。
- ・若者たちが活動できる場をふやしてほしい。
- ・若者が活発に意見交換できる居場所があるとよい。
- ・自然は豊かであるし、街の人も優しいと思うが、多くの人と触れ合うことや、人混み等に慣れることもひとつの社会経験であると思うので、安心して過ごすことはもちろんであるが、もう少し人が集まるような工夫をして欲しい。
- ・出会いの場が必要。

「子育て支援/出産支援」に関する記載

- ・教育費はこのままお金をかけてほしい。
- ・もっと子育て支援が充実して安心して子どもを育てられる環境が整ってほしいです。
- ・今の時代、子育ての支援が必要な世帯が多いし、年齢も若くなっている。
- ・子育て支援が充実しているのであれば、そのことを高校生、大学生などの学生にも広めてほしい。
- ・仕事をしながら子育てができるような環境をもっと整えてほしい。
- ・子どもを持つ家庭への支援や補助が少なすぎる。改善に期待する。
- ・子どもの将来まで考えて、安心して子育てしていきたいと思いますが、金銭的に余裕がありません。
- ・子育て支援を今よりもさらに手厚くサポートし柏崎市に住みたいと思える人がもっと増えることを願っている。
- ・子育て支援を充実させて、住みたいと思わせることが必要だと思います。少子高齢化が進んで学校の統合ばかりなので、金銭面や子育てしながら働きやすい環境などにもっと目を向けてほしいです。
- ・子育て世帯にゴミ袋が給付されているが 14L タイプでは小さすぎるため使用できず溜まっていく一方だ。個数が現状より少なくなったとしても 25L タイプを給付して頂いた方がより多くの世帯で余ることなく使用しやすいのではないかなと思う。
- ・子供がいる家庭に送られるゴミ袋 S サイズ、小さすぎて使わないので M にして欲しい。もらえるだけありがたいけど、おむつのゴミは沢山出るの。
- ・子供を産んだり、育てたりすることに関する支援は近くの市に比べれば頑張っていると思います。私は今年第二子を出産するのですが、第一子を育てている中で、受けられる支援お金の面など特に、気づいて申請しなければ貰えないもの、知っている人だけ得することなど多いと感じます。難しい言葉で説明されることも多いです。もっともっと世の中、楽に簡単にわかりやすくなるといいなと願っています。あとは産科などの医療の充実を期待します。個人病院では産めず、大きい病院も他の地域では産科がなくなるのでは？というニュースが出るなど、近くで産めなくなるのかと不安になります。贅沢かもしれませんが、医療センターも古いので新しくなると、なおいいな！と思います。最近は、病院食も（産科は？）美味しいところが増え、選ぶ基準になっているので充実するといいなと思います！柏崎市の話ではないかもしれませんが！期待しています！！
- ・柏崎市で子育てがしたいと思えるような子育て制度とその周知が必要。
- ・子育て支援の充実が必要だと思います。
- ・子育て支援を充実させて、子育てに強い町＝柏崎市と、みんなが思えるような町にしてもらいたいです。
- ・子育て支援や出生率向上に向けた活動はやめて欲しい。それらは支持できない（生むだけ生んでまともに育てられず育児放棄や虐待が増え、苦しむ子どもが増えてしまうから）（また、国全体も衰退しており、焼け石に水にしか思えず、その点でも無意味に思うのもあるから）。
- ・子育てをする上で金銭的な支援がもっと増えたら嬉しいです。
- ・子どもの病院費用を 0 円にしてほしい。特に小さい子どもはよく風邪を引くので、毎回お金がかかるときつい人もいると思う。実際に 0 円の県もあるので柏崎市もそうして欲しい。
- ・一人親の家庭だと、子どもが熱を出すとその分仕事に行けず（病児保育はあるが子どもは熱を出すとママがいいと言い出すから預けるのはかわいそう）、会社の人から冷たい目で見られて働きづらくなり、仕事を辞める人もいると思うので、一人親向けの企業があると安心して働けるのではないかと思います（すでにあつたらすみません）。
- ・高齢者には、オムツ券があるのに子育て世帯には配布されていない。スターチケットがあるとはいえ、子育てには優しくないと感じる。ゴミ袋も「小サイズ」だけでなく「中サイズ」も欲しい。（オムツだけで袋を満タンにすることはないため、他のゴミと一緒に入れると中サイズが好ましい。）現状、4 人暮らしでゴミを出すのは「中（M）サイズ」の袋を使用している。妊婦検診（初期）の検診も全額助成が必要。安定期過ぎてからでは遅い。柏崎保育園の玄関と駐車場の距離が長いため、路面上の整備。駐車場がアクアパークと一緒に？のため、送迎の親が車を停めるスペースがない時がある。最低限 5～7 台くらい保育園専用スペースを確保した方がよい。子供達の安全につながると思う（保育園は直接関係ないと思うが、柏崎市立といっている以上、改善していただきたい）。
- ・子育てしやすいように、経済的支援をしてほしい。

- ・子育てしやすい環境、状況になれば、子どもを安心して産んで育てられると思います。共働きが当たり前のこと時代に有給が足りず、子育てと仕事の両立が本当に難しいです。有給（子育て世帯）を市で少し負担していただけるととても助かります。
 - ・自分は住民票が柏崎にあるだけで、県外の大学に進学しているが、卒業しても柏崎に戻りたいとはあまり思っていない。柏崎はもっと子育てしやすい街づくりに力を入れるべきだと思う。そうでなければ帰りたいとは思わない。
 - ・子育て支援のサポートを手厚くする（←少子化対策）
 - ・今後、安心して柏崎で子供を育てたいけるよう、支援（経済や物資など）サポートを充実させてほしい。産みたい・育てたいとなっても育てたいける環境がまだうすく感じる。その点を踏まえて子供をきちんと育てたいけるのか不安。
 - ・子育てするのにお金が足りなすぎる。もっと給付金を増やしてほしい。
 - ・保育所（未満児）の受け入れ拡大。
 - ・子どもを産む人が増えるように、出産できる病院が増えたらいいなと思います。
 - ・病児保育は、親が仕事の時しか預けられない。子供が体調不良を起こすと、基本的に親にも感染するため、仕事じゃなくても病児保育で預かってもらい、親も少し安静に療養したい。
 - ・他県からの移住者ですが、柏崎市は子育て支援に力を入れていて素晴らしいと思います。
 - ・出産をするためには、長岡まで計画入院などをしなければならないと、先輩から聞いた。子供がほしいと思っても、出産できる環境ではないかと思う。そもそも夫婦ともに両親が他県で、保育園に入園できるか。
 - ・産科が少ない。不妊治療がしづらい。
 - ・子育て支援を充実させてほしいと考えています。
 - ・妊娠(不妊治療)・出産・子育て支援を充実させてほしい。
 - ・柏崎市で結婚し、子どもを産み育てたいと思えるような施策を展開してほしい。
 - ・若い方たちが、「柏崎にすみたい」と思ってもらえる地域作りをよろしくお願いします。子育て世代の大変さをもっと理解して頂きたいです。
- (※再掲)・若年層が柏崎市で生活することを選択したくなるような学習、子育て支援、就業サポート（職場待遇改善）が必要だと感じます。

「仕事/就労」に関する記載

- ・人手不足の状況に対して正社員の求人が少ないと感じます。人が市外へ流出することを防ぐためにも雇用の場を増やしてもらいたいです。
- ・この度は若者をターゲットにしたアンケートありがとうございます。期待することですが、若者の就職・転職のきっかけとなる手厚いサポートを期待したいです。柏崎市の企業さんと連携をした企業説明会などを期待したいです。
- ・若者が働きやすい職場が増えることを期待しています。
- ・高校で、柏崎にある就職先の紹介や職業体験の機会（またはチラシなどでの周知）がもう少し欲しいと感じた。学生時代は地域のことで目がいかなかったのが最初から柏崎には就職先がないと諦めている友人が多く、高校の友人はほとんどが進学先の新潟市や関東でそのまま就職している。進学後にまた柏崎に戻ってきたいと思ってもらうためには就職や子育てなど若者に対する支援が充実していることを特に学生に広めてほしいと個人的には感じている。
- ・雇用の場を創出するために、シャッター街といった空き店舗や空き家を利用し、県外企業を誘致するなど、柏崎に住む魅力をより増やすことが大切だと思います。
- ・女性が、子どもがいることを理由に企業から採用してもらえず、仕事につけない実態について、検討願いたい。
- ・企業、就労先の選択が沢山あることが重要。
- ・休日が充分にとれない以上、家庭はもてません。市がどうにかできることではないと思いますが…。
- ・自分は大学を卒業して柏崎に帰ってきましたが、高校卒業を機に柏崎から離れる人も多く、大学卒業後に戻る

人が僅かなことは、少し悲しい。言うことは簡単ですが、大卒や若い人材を惹きつける IT 等の企業の誘致、地域の企業の給料等待遇の改善を通して U・I ターンの促進を目指すべきかと思います。それが結果的に若者人口の維持だけでなく、市の持続的な発展につながり、より過ごしやすい柏崎になると思います。

- ・現代は、少子高齢化に進展しているので、高校を卒業する若者達が柏崎市で就職できるよう就職先が充実すると良いと思います。
 - ・誰もが安心して働けるようにしてほしい。
 - ・行政は、子ども・若者が安心して育ち、過ごせる柏崎市にしたいという事の基本的な事を全く認識していないというも強く思っている。なぜ子どもが柏崎を出ていくのか、なぜ子供を産みたくないのか、こんな事がどうして分からないのか。どんなに良い子に育っても、どんなに子育てが充実していても、柏崎にしようと思わない。答えは簡単だ！！勤めようとする会社がない、大企業と言われる企業が全て撤退。この事の要因を考えないでこんなアンケートを行っても無意味！！勤めたいと思う企業、遊びたい場所、好きな買い物ができる。この充実こそが柏崎に求める全てと言っても過言ではない。なぜ大企業（魅力ある企業）が撤退したのか、もう一度皆で考えてほしい。
 - ・もっと柏崎市に若者が残るように、大学卒業後に戻ってきてもらえるように、工場などだけではなく若者にも人気のありそうな会社も作ってほしい。色々なお仕事があることをもっと SNS などを使ってアピールしてほしい。
 - ・柏崎独自の企業説明会をするなど、もっと柏崎にいる若者が、転職などで就職できる企業などを知れる機会が欲しい。大々的に広告を行ってもらわないと分からない。
 - ・就職先を充実させて欲しい。
 - ・柏崎に若者を増やしたいなら仕事を探しやすくすることです。私自身地元は神奈川で I ターン就職です。妻の実家が柏崎なので柏崎に住んでいます。その際に仕事探しにとっても苦労しました。そして柏崎では条件のいい就職先は見つからず長岡まで働きにでております。
 - ・柏崎は給料が安い。やりがいがない。頑張ってもお金が安いならモチベーションも上がらない。
 - ・働く場所が少なく、給与も少ないため、柏崎から出て行ってしまう人が多いので、働く場所が増えてほしい。
 - ・子どもに関わる職員の人員増及び賃金増。
- (※再掲) ・子育てしながら働きやすい環境などにもっと目を向けてほしいです。
- (※再掲) ・関東圏と同様の利便性（交通、遊び場、就職先の充実など）がほしいです。
- (※再掲) ・若年層が柏崎市で生活することを選択したくなるような学習、子育て支援、就業サポート（職場待遇改善）が必要だと感じます。

「商業施設/娯楽施設（若者の遊び）」に関する記載

- ・若い世代や子育て世帯が休日に出かける場所が限られているので、シネコンやショッピングモールなどを誘致していただけたら嬉しいです。
- ・大型の商業施設を増やしてほしい。
- ・日帰り温泉施設がほしい。
- ・老若男女問わずに楽しめる映画館付きのショッピングモールがほしい。
- ・アウトドア系ショップがあるとよい。
- ・お店やサロンの割引、クーポンを増やして欲しい。
- ・リバーサイド千秋やイオンモールのような複合施設、温泉施設などあれば年齢問わず人が寄り、すごしやすい。楽しめる場が増えると思います
- ・キッズマジックを新しくしたので、大勢の家族が集まるフォンジェ、その周辺をもっと有効活用して家族連れ（特に 1~3 歳の子供がいる）が遊んだり食べたりできるといいです。市外、県外から柏崎に遊びにきてくれた時、私たちはどこを案内したらいいかわかりません。今は友達を呼びたいとは思えません。
- ・柏崎から転居した友人（長岡在住）が、「キッズマジックに行っても他に行くところがないから行けない」と言っていました。
- ・店（飲食、遊ぶところ、買い物など）を増やしてほしい。
- ・映画観や美術館が欲しいです。

- ・ 学生が遊べるようなショッピングモールが欲しい。
- ・ 学生が遊べる場所を提供してほしい。
- ・ 休みの日に遊びに行くお店がなく、結局長岡や新潟まで行くことになっている(衣食住の服すらともに買う場所がない)。
- ・ 娯楽施設が少なすぎると思います。周りの友人達も口を揃えて言っていますし、それが原因で離れていった友人も多いです。普通に暮らす分には不便なことはありませんが、やはり娯楽施設は増やしてほしいと思います。
- ・ 公園は充実しているが、それ以外の商業施設などが少ないと感じる。若者がもっと柏崎で楽しめる場所があるとほかの市町村まで行かなくてもいいのと思う。
- ・ 今後の柏崎市には、人口流失や過疎化を防ぐために政策を講じる必要があると思います。コストコや IKEA など大型ショッピングモールを誘致し、市内だけでなく市外からも買い物客を呼び寄せる・柏崎に訪れる魅力を作る必要がある。
- ・ 若者の遊び場の整備をお願いします。
- ・ 子どもも大人もの遊べる大型商業施設を増やして欲しいです。柏崎にはあまりないので市外(長岡、上越、新潟)に出向いているのが現状です。
- ・ 大きいショッピングモールと海の近くに遊べる場所があるとよい。
- ・ 本町あたりにスーパーを作って欲しいです。
- ・ 若者が遊べるような施設を作って欲しいです。
- ・ 便利なショッピングモール、ジャスコみたいな所が欲しい。
- ・ 子ども・若者に限らず、多くの人が遊べる場所(テーマパーク等)を作ってほしいです。
- ・ 特筆すべきものが無いし、遊べる場所が少ないように感じます。若者の流失が激しいように感じるので対策すべきだと思います。
- ・ 野外で遊べる場所、大型のショッピングモール、複合型施設の誘致が必要。
- ・ 店が少ない。潰れていくだけで、長岡市との差が広がっている。買い物する場所も少ないし、8号沿いしか店がない。
- ・ 買い物をする時、市外へ行く人が多く、柏崎市でお金を使う人が減っている。ショッピングエリア内の店舗の充実と柏崎市にどのようなお店があったら良いのか市民の声を聞いて、他の市からも訪れて貰える町づくりが必要。
- ・ 商業施設や娯楽の充実。
- ・ 映画館、ショッピングモールを作って欲しい。
- ・ 欲しい物(文具)を購入するために市内のお店を3件まわったが、結局なくてネットで買うことになりました。ささいなことですが、そういった事があると柏崎では用が足せなくて、最初から長岡や新潟へ行ってしまい悪循環だと思ってしまいます。
- ・ ショッピング等、楽しめる店、商業施設が少ないため、長岡市、新潟市に外出することが多い。柏崎市にも同様の施設が欲しい。
- ・ 柏崎市は他の市に比べ娯楽施設が少なく、駅の近くがあまり賑やかではありません。土地などの問題もありますが映画館や大型スーパー、マンションなどが今の柏崎市には必要だと感じました。
- ・ 柏崎市街地に、とは言わないが長岡市に行くよりも近い距離にある程度のものが揃っているショッピングモールがあると生活がかなり充実すると思う。子連れでの買い物で複数のお店に行く場合チャイルドシートへの乗せ降ろし→抱っこ紐着脱(orベビーカー乗せ降ろし)の繰り返しで苦労しています。そのため、一日に複数の用事を済ますことができない日も多く1箇所に100均や薬局、スーパー、ファミレス、衣料品などが揃えられる場所があるといいなと常日頃思っています。
- ・ 柏崎市内で、若者が集う場所(遊び場)ってあるのでしょうか…？
- ・ 子ども、若者が遊べる施設が少なすぎる。キッズマジックを拡大したことは良いと思うが、フォンジェ内の施設が何もない為、とてもつまらない。フードコートやアカチャンホンポ、ゲームセンター等を入れると良いと思う。学校が密接している地区なのに、フォンジェ内にお年寄りがたむろして、朝イチで野菜を売っている状況を変えて欲しい。若者と子供の区域にして欲しい。駅前の廃れた商店街を全て変えて、柏崎を活気のある街にしてほしい。(全て屋台飲み屋にするとか…。)このつまらない柏崎を変えないと未来はないと思う。あり

えないくらいの改革を絶対してください！！

- ・長岡はリバーサイド千秋、上越はイオンモール、間の柏崎には何も無くデカイショッピングモールが存在しないから、買い物は隣市まで車で行くので柏崎にも欲しい！
 - ・フォンジェの周辺にあった、マクドナルドや中にあった書店とかスーパーを復活させてほしい。
 - ・大型の商業施設がほしい、上京しても帰ってきたくなくなるような町づくりをしてほしい。
 - ・商業施設の充実、やる気のあるお店への支援(やる気のない既存商店街は淘汰されて当然と考える)。
 - ・商業施設を誘致し、若者が集まりやすい街になってほしい。
 - ・若者、特に大学生が大学以外に気軽に行けるような場所が少なく、柏崎市以外のところへ行ってしまうている。
 - ・若者にとっては遊び場が少ないのでラウンドワンやショッピングモールなど柏崎にできれば嬉しいと思います。
 - ・道の駅建設の実現。
 - ・市内に友達とあそべる場所が少ない。
 - ・子供向けには、キッズマジックや元気館など、楽しく過ごせる場所がありますが、若者（高校～20代）には遊ぶ場所がない（少ない）。
 - ・飲食店を増やしてほしいです。
 - ・家族や友人が柏崎に遊びに来たいと言ってくれているのに、行く場所がありません。関東圏と同様の利便性（交通、遊び場、就職先の充実など）がほしいです。せめて長岡や上越と同じくらい街にぎわってほしいな切に願います。
 - ・薬局が多いのでイオンや映画館、リバセンのような店がほしい。
 - ・コメダ珈琲、マツモトキヨシもあった方が良くと思う。
 - ・ショッピングモールを作って、若者を含め多くの人がショッピングを楽しめる場所を作って欲しい。
 - ・柏崎の自然を生かした遊歩道など景観を楽しめる場所がもっとあると嬉しい。
 - ・若者が安心して集まれる場所（ショッピングモールや飲食店）がほしい。現在遊びや買い物の際にはほとんど出かけているので大変。Iターン移住者にとって利用しやすい施設を期待している。
 - ・駅前を中心に市街地がさびれている。企業誘致などを積極的に行い、一生住める街作りをしてほしい。
 - ・ショッピングを楽しめない。服屋さんが全くなって、結局、市外に行くことが多い。
 - ・活気がある街になってほしい。柏崎から引っ越す若者が多いため、都会に出た後も戻りたくなるようになってほしい。観光地、ショッピングセンター等作ると魅力的になると思う。
 - ・昔に比べ若者が遊びに行くような施設が減っていて柏崎の施設で遊ぶ若者が少なくなった様な気がします。
 - ・もっと観光スポットや若者が遊べる場所を増やしてほしい。柏崎で遊べる場所やショッピングできるところを増やしてほしい。駅前のシャッター街を活性化させてほしい。
 - ・柏崎市にイオンなどの誰もが通えるショッピングモールを作ってほしい。
 - ・隣接する市町村に比べ、柏崎市は若者の遊ぶ場所とショッピングセンターが少ないと感じます。
 - ・若者が過ごしやすい環境や様々な人が楽しめる大型商業施設作りなどをしてほしいです。
 - ・若者が集まれる場所が少ないと思うので遊び場や飲食店を増やして欲しいです。
 - ・若者が遊べる場所をもっと増やして欲しい。その為、若者が柏崎市を離れる要因の1つだと思う。
 - ・カフェや映画館など、交流やリフレッシュの場を増やすことで、若者の暮らしに活気を与えられると思う。
 - ・道の駅の件は非常に残念でした。フィッシャーズが閉まっているのも残念です。
 - ・道の駅や商業施設の充実。
 - ・何よりも柏崎の周りの市(長岡市をはじめとして上越市も十日町市も小千谷市も南魚沼市も)には全てイオンがあるのに柏崎にはないことが納得いかないです。ブルボンに関しても駅前に社屋があるわけなのでカフェが駅などにあるならば知名度も上がるし盛り上がりそうだと思います。この通り是非よろしくお願いします。
- (※再掲)・勤めたいと思う企業、遊びたい場所、好きな買い物ができる。この充実こそが柏崎に求める全てと言っても過言ではない。

観光/イベント

- ・ 柏崎市は海の街なのでもっと、イベントや観光に力を入れて、お金を動かして街を活性化させてほしいです。
- ・ 海のまちなので海をもっと活用して（イベント施設を使ってあつまれる場所にしてほしい。
- ・ たる仁和賀をもっと盛り上げてほしい。
- ・ イベントを増やしてほしい。
- ・ 若者や子供が楽しめるような施設やイベントをたくさん作って欲しいです！
- ・ 人が少ないので町おこしのようなことをして経済を回してほしい。例えば、南魚沼のまじ井みたいなのを柏崎でもしたらいいと思う。

「お金/経済的支援」に関する記載

- ・ アパートの家賃補助
- ・ 給与の手取りが少なくほとんど貯金できない(ローンを組んでも返済できない)為、車や家を買う余裕が無いので経済的な支援を検討して欲しいです。
- ・ 減税
- ・ 何かを充実させるというよりも、ここに住んでいたらお金がかからないよね、と思いたい。「税金少なくて助かるよね」「子供産んでもお金使わないね」「無料でこんなことしてくれるんだね」と思える事をしてほしい。何かを与えるために税金を使わないで、市民の手元のお金が減らないようにして、人生の安心感を得るために税金を使ってほしい。
- ・ 若者への経済的支援を期待する。
- ・ 経済面でとても助けられています(助成金等)。他市から来ましたが、来てよかったと思います。いつもありがとうございます。
- ・ 原発やブルボンなど大手の会社があり、税収がうるおっているにもかかわらず、市民に還元されておらず、住民税や電気代、水道代、ガス代などが高すぎる。給料は安いまま上がらない。
- ・ 若者は物価高や給与が安い事もあり、子どもを授かって、今の状況では育てられないと思う。地域商品券とかあれば、少しは生活が楽になると思う。

住宅関係

- ・ 安価で質の高い住宅の整備が重要である。
- ・ 支払い易い家賃の住宅を増やして欲しい。
- ・ 柏崎は一人暮らしをするには家賃の相場が高く単身用のアパートが少ないため、そのうち一人暮らしするとしたら柏崎からは出ていくと思います。妙に安い怪しいアパートを選べば住めるとは思いますが、女の一人暮らしでは危険すぎるため現実的では無いです。単身者用のアパートがもう少し増えたらいいのと考えています。

「情報発信」に関する記載

- ・ おすすめのレストランやサロン、新しいお店などを SNS やホームページで発信して欲しい。
- ・ 観光地のアピールが必要。
- ・ SNS で話題になるような観光スポットなどを発信する。
- ・ 高齢者や、小さい子供への支援は様々あると思うが、20 代くらいへの支援が少ないと感じる。奨学金の支援もやっているが、やっているという情報が出回っていないように感じる。こういう支援をやっていますということを分かりやすく伝えるべきだと思う。
- ・ 若い世代が自分で調べ、他の自治体と比較できるよう、わかりやすい情報発信をしてほしい。
(※再掲) ・ 子育て支援が充実しているのであれば、そのことを高校生、大学生などの学生にも広めてほしい。
(※再掲) ・ 柏崎市で子育てがしたいと思えるような子育て制度とその周知が必要。

「交通インフラ」に関する記載

- ・公共交通機関の充実。
 - ・休日にバスが1本もないのでどこにも行けません。
 - ・見通しの良い道路を作って欲しい。夜間の運転のしやすさを充実して欲しい。
 - ・市街地の郊外に住んでいる子どもが移動手段で非常に不便しています。財政的に厳しいかと思いますが、電車やバスの本数を増やしてほしいです。
 - ・新規にお店（給料の少ない）を建設するのは、現実的ではないので、若い人が出掛けやすいような、交通機関の補助などがあるとありがたい。
 - ・通勤に使っていたバスがなくなった為、歩きか自転車で通わなければならない。あいくるさえ使えない。
 - ・夜のタクシーを増やしてほしい。
 - ・新幹線の最寄りが長岡・上越妙高と少し遠いので、1本で東京へ行けるようにしてほしい。
 - ・交通機関も充実しておらず、車がないと何もできないという現状がある。
 - ・交通の利便性やWi-Fi環境など、移動や仕事をしやすいインフラの整備も重要視すべきである。
 - ・公共交通機関を充実させて欲しい。
 - ・バス・電車の時間を増やして欲しい
- （※再掲）・柏崎で交流を深める目的でも、公共交通機関を盛んに整備し、柏崎市内で運動などを通じて交流の場を作るべき。
- （※再掲）・関東圏と同様の利便性（交通、遊び場、就職先の充実など）がほしいです。

「障がい支援等」に関する記載

- ・（母親から）重度身体障害者（車いす生活の人対象）の入所施設を柏崎市として新しく1つ、近い将来作ってもらえたら本当にありがたい。1人1人の障害や特性は異なりますが、現在の新潟病院・長岡療育園が我が子の場合には選択肢なのですが、現時点では、満床、足りない、待ちの状態だと思います。できれば柏崎に入所させたい。
- ・障がい者の働く場所（会社）を多くしてもらいたい。
- ・障がい者雇用の充実化。
- ・障害者雇用をもっと推進して欲しい。ハローワークのインターネットサービスにて障害者雇用枠で検索するとたった数件しか出て来ない。通勤しての就職が人によっては不可能なのでそのあたりをどうか改善して欲しい。
- ・小中学校で、発達支援教室に通っていました。学校での授業のサポートはありましたが、医療機関との連携がなく残念でした。
- ・私は障がい者なのですが、人と関わる点で困って生きづらくなってしまうことがあるので、困っている人同士が集まれるコミュニティをもうけてほしいです。
- ・身体的、精神的に支援が必要な方たちに向けての市民のみなさまの視線や対応等、良くない目を向けてくるとも見受けられます。環境が良くなっても市民全体、ひとりひとりが受け入れ方を改善していかないと何も変わらないと思っています。

「原子力発電」に関する記載

- ・ 原発に頼らずとも持続的な収入源があるといい。
- ・ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働。
- ・ 原発稼働に関する決定に、市民の意見をもっと取り入れてほしい。
- ・ 原発に関しては、柏崎市に限らず日本全体で管理・運用ができる資質はないと思うので廃止の方向へ進んでほしい。
- ・ 刈羽原発の永久停止、有事の際の被害が想定される範囲内住居者への手当等。
- ・ 就職とともに新潟県へ移住し結婚しました。まず思うところは、原子力発電所の安全性についてです。再稼働したとして、事故が起きたときに守ってもらえるのでしょうか。また事故が起きないようなチェック体制が整っているのでしょうか。正直、私は原発が再稼働したら県外へ移住しようと考えています。本当に安全が確保されるのか、有事の際の対策は万全か今一度検討していただきたいです。

「治安/犯罪/道徳」に関する記載

- ・ 柏崎市に住んで1か月しかたっていないのであまり求めることなどは思い浮かばないが交通安全のため、みまわりをなるべくしてほしいです。
- ・ 柏崎市では、特殊詐欺被害が多発している為各家庭が騙されない様に意識を高めて欲しい。子ども・若者が誰にでも親切に出来る関係を作って欲しい。
- ・ 道路にゴミが落ちていない、みなが交通ルールを守る、地域活動を企画して住民のつながりをつくる、空き家をなくす、街灯を増やす。
- ・ 通報しやすい環境を整えてほしい。総合体育館の利用料金を支払う際、身分証明書等で、高校生か、中学生かをわかるように提示してほしい。公共の場で人の嫌味を言うと、周囲にいる人が不愉快であるなど、道徳をしっかりとしてほしい。柏崎市民に対してだけでも人間不信、恐怖心をなくしたい。私が住む家に対して嫌がらせをしないでほしい。
- ・ 年々、整備された公園が増え小さな子ども達が遊びやすい環境が構築されていると感じます。ありがとうございます。ですが、明るい街灯が少なく、暗くなってくると危ないと思う場面もあります。一気に増やすことは出来ないと思いますので、通学路など子どもの通行が多い箇所を中心に改善していくのはどうでしょうか？
- ・ ポイ捨てゴミ・タバコがある、誰かが嫌がる行為が形を変えて状態化するのをみて、安心して暮らせると思うだろうか。柏崎市で生まれ育ったなら、学校に通っていた頃には厳しく指導されていたと思うが、大人になって日本全国的な報道ニュースでも流れそうな真似をしているのだろうか。夜、うるさいバイクは走っているし。（※再掲）・見守り体制などが充実することを願っています。

「その他：感想/要望」記載

- ・とにかく男尊女卑な体制があればしっかり改善して欲しい。しかし子育て世帯ばかりを甘やかせばいいわけではなく、女性が単身でも安心して暮らせる社会を目指して欲しい。
- ・金銭的支援は感じていますが環境が悪いから離れる人が多い。若者が生きやすい環境を作って欲しい。
- ・虫が出てくるので虫が嫌がる対策をして欲しい。森林伐採や壁の作成など。
- ・かしわざきの食育5箇条の歌が早口で子どもに伝わらないと思うので、改善してほしい。
- ・除雪をしっかりやってもらいたい。
- ・新発田市がももクロを招致したように、人を呼び込み、地域でお金を使ってもらえるような取組があると、若者が地元のよさを再確認する機会になるのではないかな。
- ・行政のみならず民間の力を借りて、幅広い視点で施策立案、実行して欲しい。
- ・考える事、思う事は、正直誰でも出来る事だと思う。市の代表として市民に選ばれた方々には、行動で示してもらいたい。正直国も同様に当選するまでは、綺麗事を並べ当選してからは、税金が…など言い訳が多い。そんな事は当選前の下準備時点でいくらでも考えられた事。昔の日本は、税率が少ないのに普通に国民は、生活できた。税率が8.10%と上がっているこの時代で何故少子高齢化、物価の高騰、ガソリンの補助の値下げ等が起きるのがよく分からない。そんな国自体に不安を抱えているのは、自分だけではないと思います。それを踏まえて、柏崎市ではこれを行っています！と自信を持って言える行動・施策を頑張ってもらいたい。市に人が増えれば必然的に経済も良い方へ進んで行きます。それに伴うリスクもあると思いますが、リスクを恐れずに強気の姿勢で何事も取り組んでももらいたいと期待しています。よろしくお願いします！
- ・老人ばかり増えていき、このままではまずいと危機感を感じています。柏崎が好きなのに、このままでは結婚して子供ができた時には柏崎では不安で他の市に行きそうです。若者に優しい街づくりを期待しています。
- ・イベントの開催→県外からの集客、商業施設の有地→空地・空きテナントの増加、商店街の活性化→シャッター街増加、空き家問題→景観の改善、高齢者のためのスーパー（薬局以外）
- ・柏崎市に住みたいと思えるような柏崎ならではの魅力がほしい。
- ・安心して長く住んでいたいと思える町づくり。
- ・「子ども、若者が安心して育ち過ごす」という事は、その親を支えるための仕事を市がしてほしい。高齢者も、若者も、は無理だと分かった方がいい。正直、高齢者にはもう少しガマンして頂く必要がある。これからの世代に重点を置くべきだと思う。
- ・病院への支援だけでなく、医師への支援・看護師など医療専門職への支援を拡充してほしい
- ・柏崎市に住む一人一人を大事にしてほしい。
- ・柏崎市が教育面でも経済面でもさらに発展することを期待します。施設を改善し、地域社会が社会でより活発になるように組織化します。
- ・町内の海岸掃除などボランティアでやっている所を市が進んでやってほしい
- ・私は幼い頃から家族とうまくいかず、学校でも上手く居場所を作れませんでした。その中でも、ある方からカウンセリングをしてもらったり、居場所として学びの場に参加することで、自分に自信を持ち、自分を少し好きになることができました。家庭に、学校に居場所がない、自分なんて…と思っている人はたくさんいると思います。そんな子たちにぜひ、自分を少しでも好きになって欲しいと思います。今も相談することが多く、日々学び続けています。もし可能であれば、その方の力を使いながら、子どもたちに明るい未来があるということ伝えてほしいなと思います。
- ・子どもがいる家庭ばかりの支援ではなく、若者への支援も増やしてほしい。
- ・老若男女過ごしやすい環境を整えてほしいと思います。インフラやレジャー施設、見守り体制などが充実することを願っています。
- ・フォンジェ内のコツコツ貯金体操はさっさと別の場所にすべき。
- ・西山に子どもが勉強できるスペースや塾を作してほしい。
- ・私は保育の仕事をしています。柏崎、のんびりと子供と歩ける場所が少ないと思います。昔は交通公園、野外ステージがあったと聞いています。今は柏崎全体がなにか動きがバラバラという感じ。スジを通した柏崎がほしいです。皆で楽しめる、これぞ柏崎！！という場所（旧市役所のアト地）を。
- ・友人は揃って県外の大学に進学し、その後ほとんどの人が関東で就職し柏崎に帰ってくる見込みがありません。

冬は風が強く、雪も降るこの街は、関東と比べると住みやすさという面では劣ってしまうのは仕方ないと思いますが、お店ができては閉店し、外国人はその店舗を廃品回収の拠点にしてしまうような街は若者が住みたいと思える街では無く、離れてしまうのも納得がいきます。若者が戻ってきたくなくなるような、居場所を提供してほしいです。これからの企業の誘致に期待します。

- ・市自体が最新の技術に対して他県の水準よりも先進的な知見を持ち、今後の動きや発展にも活かせるようになってほしい。
- ・私は県外や市外で生活をしていた時期もありましたが、柏崎へ帰ってきました。仲間内で今現在柏崎にいるのは片手で数えるくらいしかいません。もっと柏崎へ帰ってきたいと思える街になったらいいと期待しています。
- ・次回以降、二次元バーコードの背景色を白にしてください。黒っぽい色だと端末やアプリの種類によっては読み取りにくく、簡単に読み取れない事で回答率が下がると思われます。
- ・若い世代が暮らしやすい環境。同級生とかは半数くらいが進学を機に県外に行ったままなので若い世代がまた戻ってきたいと思うような支援があって欲しい。
- ・若者としては自分達への支援もそうですが、将来の自分達が支援を受けられるかも見ています。目先にとらわれて高齢者支援をおざなりにすることの無いようにお願いいたします。
- ・地域にある小中高大が、連携したこども支援の体制作り。
- ・地方都市のモデルケース
- ・小さな子でも一人でいける場所に安全な学習場所が必要。万が一の避難所にもなるような。
- ・いつも市民の暮らしを支えてくださり、ありがとうございます。子育て支援や公共施設の整備など、日々の生活の中で市の取り組みを実感する場面が多く、安心して暮らせる環境に感謝しています。特にこれからの地域を担う若い世代や子どもたちへの支援について、今後さらに力を入れていただけたら嬉しいです。教育、仕事、子育てなど、将来に希望が持てるような取り組みが広がっていくことを期待しています。限られた体制のなかでのご対応、本当にお疲れさまです。今後も市民と一緒に、よりよいまちづくりを進めていただければと思います。
- ・まず、そういった子供や若者に対する考えを持ち、こういったアンケートを実際に行っている点は大きな一歩であり、素晴らしい取り組みかと思います。
- ・そもそも若者が少ない。進学等で出て行ったきり帰ってこない。生活する分には不自由はないし、住み良い環境だと思うが、魅力がないから出て行ってしまふのだと思う。今の中学生、高校生からも、将来柏崎に住みたいと思わないという声がよく聞く。子どもが安心して育つ環境が作れても、子どもや若者がいなくては意味ないのでは？と思ってしまいます。日本全体の少子化が進んでいるので、どこの自治体も同じかもしれませんが。
- ・柏崎市に住みたいと思わせる魅力を作ること・住むメリットを作ること・それを発信することが今、必要だと思います。
- ・こどもの時代館跡地らへんに太陽光を敷設するべく調査に入るらしい。1年数カ月前の再整備計画では「遊びと学び、楽しみを創出するエリア」とか謳っていたと思うのだけど。いろいろ頓挫しているのもわかるけど、結論それ？電源立地地域で補助金もらえるから、それを活用すべくコンサルが絵を描き、太陽光敷設してってあまりにも市民にとってプラスのない流れ。売電して、利益はまちづくりにという話はいつ実行されるのかな？そんなに電源立地の補助金をまた使って（多分）、太陽光発電設備を作るべく調査をしなきゃいけないのか、意味不明なのだけど…コンサル以外誰が得するの？で、1年ちょい前の道の駅「風の丘米山」再整備基本設計中間報告とはなんだったの？誰か責任取らないのかな？夢がないシムシティだったらつまらんまちだよ。
- ・Kashiwazaki is the best place
- ・高校入試の倍率も定員割れが多くなっており競争心が育たず、大学進学や就職してから周りとの差に苦しむ人が増えるのではないかな。このような暮らしにくさから若者の人口流出が進んでいくと思う。私は就職で市外から来た人間だが、ずっと柏崎にいる人は時間感覚がのんびりしているように感じている。
- ・結婚を機に柏崎市に来て楽しく過ごしているが、将来出産、育児を考えると不便さを感じてしまう。普段の買い物をはじめ、子どもの進学先や交通の便など、選択肢の多い場所への移住を考えている。
- ・行政に期待することはない。期待できるほどの成果があれば生活はもっと豊かだと思う。
- ・子どもに関する支援は本当に充実していると思います。公的施設も綺麗で充実しており、市役所の職員も柔軟に対応してくださるので、住みやすいです。この部分は今の状態を維持してくださると嬉しいです。

- ・市外や、県外へ流れる若者に休暇の帰省などのタイミングで「ここでも良いかな」という安心感を与えることができる場所になれば、若者は帰ってくるのではないかと思います。
- ・柏崎の消防職員が全国的に給与がたかいのはなぜ？
- ・若者が県外などに進学・就職をする選択もあると思います。柏崎市がもっと魅力的な町になって、残りたいと思えるようになると良いです。
- ・結婚を機に県外から移住してきた者です。移住者支援が都内在住や勤務者に限られていて残念でした。
- ・柏崎市は自然が多く魅力的な市だと思います。ただ、若年層が柏崎市にとどまらない、移住が少なくどこも働き手がない印象を受けます。そのため、商業施設の運営が難しく、また従業員 1 人あたりの業務量が増えるといった状況があると思います。若年層が柏崎市で生活することを選択したくなるような学習、子育て支援、就業サポート（職場待遇改善）が必要だと感じます。
- ・大好きなこの町をそのままに。
- ・駅を降りて隣接するところに葬式をするところを置くのは観光に来た人からしてどう感じるだろう。
- ・卓上でしか考えることが出来ないのなら今のままでいいと思います。無駄金だけ使わんようにお願いします。
- ・柏崎の LINE で公園の遊具損傷を通報しました。直していただきありがとうございました。子供も安全に遊んでいます。と担当した人に伝えて欲しいです。

柏崎市 こども・若者ヒアリング調査

報 告 書

令和7(2025)年10月

柏崎市子ども未来部 子どもの発達支援課

目 次

学生ヒアリング	3
1. 概要	3
2. テーマ	3
3. 結果	4
4. ヒアリング実施後: アンケート結果(概要)	7
5. まとめ	8
6. その他(当日の雰囲気等)	9

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング① 不登校の状態にあるこどもへのヒアリング	13
1. 概要	13
2. テーマ	14
3. 結果	14
4. まとめ	16
5. その他(当日の雰囲気等)	17

困難な課題を有するこども・若者ヒアリング② ひきこもりの状態にある若者へのヒアリング	18
1. 概要	18
2. テーマ	19
3. 結果(アンケート結果含む)	19
4. まとめ	23

学生ヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、令和 7 年 5 月に実施した「柏崎市 若者の意識に関するアンケート調査」の結果をより深めること、また、テーマに応じた若者の現状・考え(ニーズ)を具体化することを目的とする。

(2) 対 象 者

柏崎市内2大学(新潟工科大学、新潟産業大学)に在籍する学生

(3) 回答人数

30 名

(4) 日 時

新潟工科大学: 令和 7(2025)年 6 月 18 日(水) 16:20~17:50

新潟産業大学: 令和 7(2025)年 7 月 11 日(金) 15:00~16:20

(5) ヒアリング方法

2つのグループに分け、KJ 法の要素を取り入れて意見出し(ブレスト)をする。

※ グループ分けは、「柏崎市にずっと住みたい派」・「柏崎市にずっと住むのはちょっと・・派」の2つ。
ヒアリング当日、学生が選択する。

2. テーマ

柏崎市について	柏崎市にずっと住みたい派	* 柏崎市のいいところ * 柏崎市はこうなるともっとよい
	柏崎市にずっと住むのはちょっと・・派	* 柏崎市の残念なところ * 柏崎市はこうなったらよいのに
仕事について		* 仕事を選ぶときに重視するところ * 就職活動(将来)で大変なこと・不安なこと
恋愛・結婚観/子育てのイメージ		* 恋愛・結婚のイメージ * 子育てのイメージ

3. 結 果

テーマ①『柏崎市について』	
柏崎市のいいところ	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か。海がある。空気がおいしい。米がおいしい。海鮮がおいしい。 ・柏崎市の人は優しい、温かい。柏崎市役所が新しい。 ・水道水が冷たい。 ・海での花火大会がよい。障害物が少ないため、遠くからでもよく見える。 ・松雲山荘のライトアップがよい。 ・市民が楽しめるイベント(えんま市、風の陣、どん GARA、クラフトビール展など)がある。 ・ブルボン(大企業)がある。スポーツ用の施設が多い。水球が強い。 ・市内に2つの大学がある。
柏崎市の残念なところ	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・お店や遊ぶところなど、娯楽がない。日常生活は困らないが、「あったら良い」がない。何もない印象。 ・商店街や駅周辺に活気がなく、機能していない。お店のジャンルが偏っている(ラーメン屋が多い)。 ・医者が少ない。医療機関の選択肢がなく、常に混んでいる。 ・素敵なイベントや資源があっても、市外への告知が控えめ。広報力が弱い。 ・車で移動が主となるため目的地にしか行かず、人との交流が少ない。人と交わる場がない。 ・公共交通インフラが脆弱。車がないと日常生活が送れない。 ・市内に2大学あるが、大学間の交流はない。若者が定着しない。人手不足。 ・海があるが汚い。海辺を裸足で歩けない。花火大会以外で海を活かせていない。
柏崎市はこうなるともつとよい / 柏崎市はこうなったらよいのに	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS での発信強化。イベントの告知の促進、WEB サイトを活用して市外・県外の人に向けて発信する。 ・海や公園の規制(例:公園でのボール遊び禁止、海での花火禁止等)を緩め、自然を活かせる遊びができるようにする。⇒身近な場でのこども・若者の遊びの幅が広がる。せっかくの海を有効活用する手立て。 ・お金をかけずに、長時間いられる場や若者同士が遊ぶ場・交流する場を設置して、娯楽を充実させる。 ・スポーツ施設を有効活用し、スポーツを通じた交流(スポーツ大会等)を増やす。 ・自然を活かし、広い土地や雪などを活用するイベントを多く開催する。 ・カーシェア・自転車レンタル等の気軽なレンタル制度を創設する。市民が、車がなくても生活できるように、公共交通インフラを強化する(あいくるの強化等)。 ・市内のみで使えるポイント制度等を充実させて商店街に活気を出す。 ⇒学生は、「お得なものは使わないともったいない」と思い活用する。商店街全域でイベントを開催することで、若者の関わりを増やし、地域との繋がりを強化する。それにより、若者の定着を図る。 ・有名企業を誘致。「柏崎市で働きたい」と思える魅力(職場)をつくる。
【 総括 】	
<ul style="list-style-type: none"> * 学生のイベントへの期待(ニーズ)の高さがうかがえた。既存のイベントの周知拡大で市外の人を呼び込むこと、新たなイベント(交流目的)を開催することへの期待や意見が多く上がった。 * 柏崎に愛着がある学生もいる一方、こども・若者の遊ぶ場・交流の場の少なさから魅力を見出せない状況がある。多くの若者が市外流出することにより、愛着があった若者も定住しないという悪循環が生じている。 * 豊かな自然を十分に活かしきれていない・海をもっと魅力的にするべきとの意見が多かった。 * 交通インフラの脆弱さへの意見が多く、あいくるについては浸透していない(若者のニーズに合致しない)。車を持つ学生も多いが、車がないと生活できないことへの不満・不安の声が多く上がった。 	

テーマ②『仕事について』

仕事を選ぶときに重視するところ

主な意見

- ・やりがい。自分のやりたい(楽しめる)仕事内容か。学んだことを活かせるか。
- ・自分の時間(プライベート)を確保できるか(残業が多くない、有給が取りやすい等)。
- ・待遇(給与)面。
- ・職場の人間関係・雰囲気がいかがい。
- マイナビ等の情報、先輩やインターンの情報等を自分で確認する。
- 若者の離職率の高い職場は避ける。
- 職場の飲み会も歓迎だが、年代の近い人がいないと困る。
- ・就職後も学ぶことができるか・資格取得などへの支援があるか等、スキルアップできるかどうか。
- ・勤務場所(通いやすさ・駅からの近さ等)。

就職活動(将来)で大変なこと・不安なこと

主な意見

- ・仕事をしている自分が想像できない。仕事を続けていけるのか・仕事(社会)についていけるか不安。
- ・就職できるか・希望の就職先が見つかるか不安。就職活動の細かいノウハウがわからず不安。学歴フィルターはあるのか?! 就職活動は本当に終わるのか?!
- ・大学3年時のガイダンスやインターンで示されたとおりに就職活動をすれば就職できると思う。
- ・仕事は未知のことなので、漠然と怖い。
- ・企業の情報をどのように集めればよいのか、企業をどのように判断すればよいのかわからない。
- ・自分がどの仕事に向いているのか、就きたい職業に適しているのかわからない。
- ・働いても、税金が多く取られそう。親の援助なく、すべての生活費を自分の収入で賄えるのか不安。
- ・老後は年金がもらえなさそうなので不安。
- ・AIの発展により職を失うのではないかと不安。

【総括】

- * やりがいを求める学生が多い。給与等の待遇面に関する意見と並び、「仕事を楽しめるか」、「働き続けられるか」等の意見を真っ先に取り上げる学生が多かった。
- * やりがい・待遇等に次いで人間関係についての意見も多く聞かれた。
- * 就職先を検討する手立てとしては、マイナビ等の情報を重視する傾向が強い。若者の求人については、インターネット関連の情報掲載が非常に重要(有効)であり、欠くことのできない要素となっている。
- * やりがいを求める一方、ワーク・ライフ・バランス(自分時間の確保)についても、多くの意見が上がった。時間外労働や長距離出勤への抵抗感が大きい。
- * 学生(大学に所属している間)は、就職支援が整っているため、「職に就く」ことに対する不安は強くない印象であるが、その一方、卒業後(就職できなかった場合や転職等)については、現時点で想像し難い様子がうかがえた。また、「自分に適した仕事(企業)であるか」、卒業後の変化を想像し難く、「自分が仕事を続けていけるのか」を気にする学生が多かった。

テーマ③『恋愛・結婚観/子育てのイメージ』

恋愛・結婚観

主な意見

- ・結婚すると制限が増え、自由がなくなる(人生の墓場)。婚活は末期。そもそも興味が無い。
- ・結果として(自然な流れで)結婚するのはよいが「結婚したい」とまでは思わない。
- ・今は結婚しなくてもよいが、年をとったときに結婚したくなるかも。老後の寂しさを埋める。
- ・パートナーがいたほうが楽しいかも。幸せになれるかも。苦しいことも分かち合える。孤独死しない。
- ・1人では行きづらい場所(お洒落な場所など)にも一緒に行くことができる。
- ・価値観の相違がありそう。相手に合わせて生活するのが大変そう・疲れそう。
- ・自分のことで手一杯で相手のことまで考えられない。面倒くさい。
- ・結婚するだけであればお金の心配はあまりない(一馬力から二馬力に)。
- ・家事分担ができるメリットもあるが、女性の家事負担が大きくなるのではないかと不安もある。
- ・若者の交流の場がないため、出会いがない。出会いの場とすれば友人の紹介かマッチングアプリだが、市内に若い人がいないため、アプリに登録してもマッチングしない。アプリは怖い。
- ・まちコン(トピコン)があるとよい。ガチガチな「婚活目的」となると参加しづらいが、気軽な交流目的で開催されれば参加したい。
- ・そもそも自然な流れがわからない。恋愛の経験が乏しく、漫画の知識しかない。

子育てのイメージ

主な意見

- ・こどもから目が離せない。自分の時間がなくなる。子育ては大変そう。
- ・男性の育休取得がもっと進んでほしいが、育休制度が確立されても、結局男性は取得しづらそう。
- ・お金がかかる。大学卒業までを考えると、夫婦で賄えると思えない。経済的支援を充実させてほしい。
- ・教育の仕方がわからない。自分が親にもらったようにこどもにできないと思う。
- ・医療費を無料にしてほしい。他の市で医療費無料の制度があれば転居を考えたい。
- ・病院の数が少ない、選択肢がない。
- ・子育てと仕事の両立ができなそう。体調不良時に不安がある。もっと病児保育が充実して欲しい。
- ・こどもを遊ばせながら親同士が交流できる場がほしい。博物館や図書館を大きく造り変えて、こどもや若者が遊び、長く居られ、交流しながら学べる場所になるとよい。
- ・今は「こどもがほしい」とまでは思わないが、年をとった後にこどもがほしくなるかも。でも高齢になってからでは遅いという不安もある。高齢出産となった場合の支援があると安心できる。
- ・こどもの成長を楽しみに、幸せが増える。こどもに癒されそう。親に孫を見せてあげたい。
- ・自分が子育てをすること自体がイメージできない。

【総括】

- * 結婚・子育てどちらも、「自分の時間(自由)がなくなる」ことへの不安・抵抗感が強い。
- * 「結婚しなくてよい」と言う学生も、「結婚というかたちには拘っていない」と言い、結果的に結婚に至ることには肯定的な姿勢が見られた。また、「今は結婚願望はないが、高齢になった時に同じ気持ちかはわからない」との意見もあり、無意識化では「結婚したほうがよいかも」という想いもあるような発言がうかがえた。
- * 若者の交流の場が少ないとの意見(ニーズ)と比例して、「出会いの場がない」との意見が多かった。婚活目的の出会いではなく気軽な交流を求める意見が多く、人工的な婚活プロセスではなく、自然な流れを求める学生が多い。
- * 子育てについては、お金への不安の声が圧倒的に多かった。自分と同じように、こどもの大学進学までを考える学生も多く、教育費用に関する不安が強い。こどもを持つことの抵抗に繋がっている。
- * 恋愛・結婚・子育てすべてにおいて、具体的にイメージできないとの声も多く挙がった。特に恋愛経験が少ない学生はその傾向が強く、漫画等のイメージをそのまま抱いているよう。

4. ヒアリング実施後：アンケート結果(概要)

(1)年齢

年 齢	人 数
18 歳	6 名
19 歳	7 名
20 歳	5 名
21 歳	9 名
22 歳	2 名
25 歳	1 名
計	30 名

(2)性別

性 別	人 数
男性	21 名
女性	9 名
計	30 名

(3)ヒアリングについて

感 想	人 数
参加してよかった	29 名
参加しなければよかった	0 名
どちらでもない	1 名
計	30 名

(4)県・市の施策への自分の意見反映について

感 想	人 数
反映させたいと思う	22 名
反映させたいとは思わない	2 名
どちらでもない	6 名
計	30 名

(5)将来への不安

感 想	人 数
不安に思う	19 名
どちらかといえば不安	8 名
不安ではない	3 名
計	30 名

(6)柏崎市を子どもや若者が「住み続けたい」と思えるまちにするための意見・要望など(自由記載)

意見・要望など(抜粋)

- ・柏崎市の商店街や個人経営の店に入ったときに、とてつもない魅力を感じたことがあるが、その店に入るまで、その店の存在すら知らなかった。そのような店をもっと PR してほしい。
- ・商業施設を増やす・活性化する必要がある。柏崎市で普段の暮らしが完結できるまちにしてほしい。
- ・バッチングセンターのような身体を動かす施設や映画館など、こども・若者の遊び場を充実させる。
- ・市全体に、もっと活気のある雰囲気があるとよい。駅周辺が賑わっていないと寂れた雰囲気を受ける。
- ・こども・若者主体のまちづくり、こども・若者を受け入れる雰囲気をまち全体で持つ。
- ・仕事などを増やし、人が柏崎市に移住できるようにする。人を増やす政策を考えて欲しい。
- ・若者が流出しないようなまちにする。
- ・子育て支援の充実が必要。
- ・柏崎市らしさと繋がりを大切にしていけるべきだと思う。
- ・柏崎市の取り組みが、対外的にもっと広く知られる必要がある。広報などの発信にもっと力を入れるべき。
- ・柏崎市の魅力を知る機会がない。魅力があるのであれば、積極的に発信する。
- ・建物の立地や種類でイメージが変わると思う。若者向けの施設や店舗というものはどうしても関東圏や都市部に集中してしまうが、このまちならではの、の雰囲気を作り出せるとよい。
- ・車がなくても生活できるまちにする必要がある。「あいくる」の現在の運用では不十分。バス、電車の本数を増やすなど、移動しやすくして欲しい。

5. まとめ

(1) 柏崎市について

柏崎市の魅力について

「自然」と「海」が意見の大半を占めていた。また、イベントに関する意見も多く、若い年代のイベントニーズの高さがうかがえた。柏崎市の「夏の時期のイベント」を高く評価する意見が聞かれた一方で、冬のイベントのインパクトの弱さや他者交流ができるイベントを求める等の意見が挙がった。

柏崎市の改善点について

WEB サイトやSNS等の発信の弱さに関する意見が多く挙がっていた。本ヒアリングの参加者は、柏崎市以外からの出身学生が大部分を占めていたため、柏崎市についてよく知らない学生が多かったことも広報やPR不足に対する意見が挙げられた一因と考えられるが、若い年代の情報収集手段はSNS等が大部分を占めていること、他のPRでは浸透しにくいことも推察された。

また、他の調査と同様に、「子どもや若者の遊ぶ場(娯楽)がない」との意見は圧倒的に多く、ほぼすべての参加者から聞かれた。今はどこに住んでいても、SNS等を通じて他自治体の情報が入るため、他と比較することで、「柏崎市には何もない」との意識がより高まっているようだった。娯楽がないことが、若者の市外流出に繋がるとの意見も多く聞かれた。

その他、学生についてはすぐに車を持ってない場合もあるが、柏崎市での生活は車がないと成り立たないとの意見から、公共交通インフラの脆弱さについての意見も多く挙がった。

(2) 仕事について

仕事選びで重視する点について

「やりがい」に関する意見が真っ先に上がり、「自分のやりたい仕事に就きたい」、「学んだことを活かせるか」等の声が多く聞かれた。特に、やりたいことが定まっている学生にとっては、この「やりがい」をととても重要視している様子がうかがえた。

次いで、福利厚生に関する意見が多く、残業時間の多さ＝ブラック企業と捉え、プライベート時間を確保したいという意見が多かった。特に学生時は、時間を自由に使えることもあり、この生活が一変することへの不安の声が聞かれた。

就職活動・将来への不安、大変さについて

学生は、大学内で就職活動のサポートを受けられるため、「やりたい仕事に就けるか」という不安は抱えつつも、何かしらの仕事には就けるだろう、という様子で、就職できるかという不安は大きくないようだった。

企業を選ぶ際には、マイナビ等の WEB サイトやインターネットの情報を基に選択している学生が多く、若者の求人インターネット情報は欠くことができない媒体となっている。その他、学生ならではのインターンでの経験や先輩からの口コミも重要な情報源となっている様子。その一方で、インターネット等に情報が無い企業についてはどのように探してよいかわからず、柏崎市にどのような企業があるのか「わからない」・「知りたい」との意見も多く聞かれた。

(3) 恋愛・結婚観、子育てのイメージについて

恋愛・結婚観

「恋愛して⇒結婚して⇒こどもを持つ」という概念には縛られたくないという様子うかがえた。自然な結果として結婚に至ること自体は否定せず、「結婚願望がない」と言う学生も、絶対に結婚したくないというよりは、「結婚することを目指してはいない/目指したくない」という様子であった。

また、漫画やテレビ等から受けるイメージも大きく、「～～そう」という漠然としたイメージを抱く言葉が多く聞かれた。学生の年代での経験の少なさも、漠然とした不安やマイナスイメージに繋がっているように見受けられた。

「出会い」に関しては、市内で若者が交流する場が少ないこと、婚活という言葉に強い抵抗感があること等により、「異性と出会う機会がない」との意見が多かった。婚活のみを目的としない・気軽な交流の場を求める意見が聞かれた。

子育てのイメージ

子育てについては、「大変そう」「お金がかかりそう」というイメージが強い。本ヒアリングの対象が社会に出る前の学生であることもあり、自分が「親になる」イメージが抱きにくいようだった。その一方で、「高齢になってからこどもが欲しくなるかもしれない」という発言も聞かれ、こどもを持つことについては年齢的な制約があることから、気持ちが変わった場合を想定して漠然と不安に感じている学生もいた。高齢出産となった場合の支援、不妊治療に対するサポートも、今後はより求められると推察される。

6. そ の 他（当日の雰囲気等）

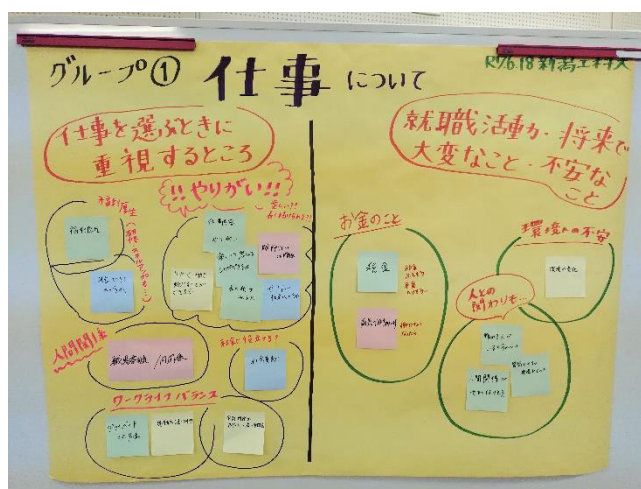
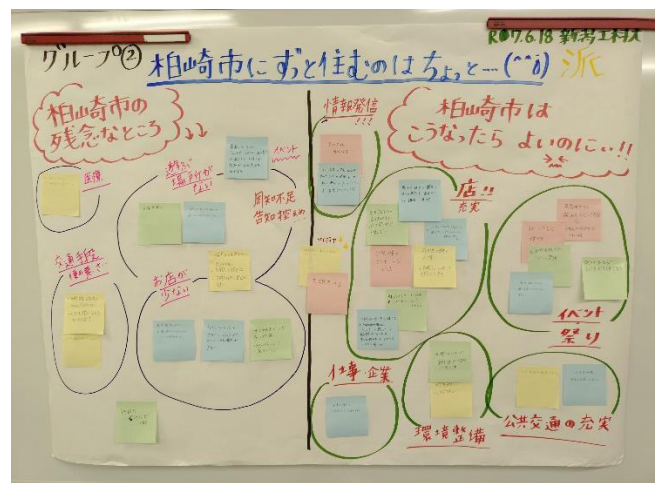
2025.6.18 新潟工科大学

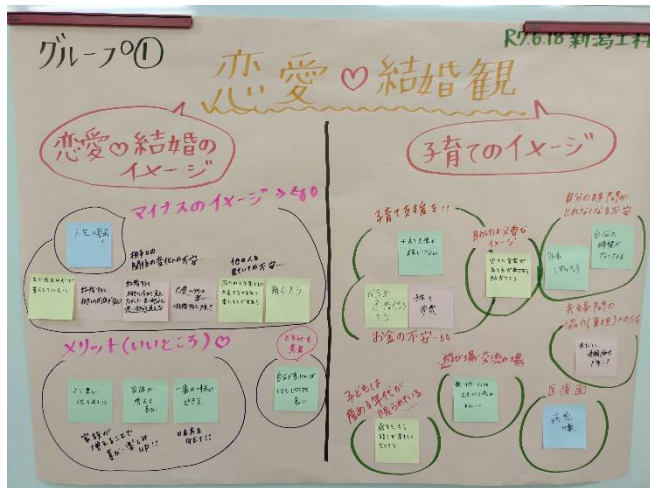
ヒアリングの様子





グループワークの記録



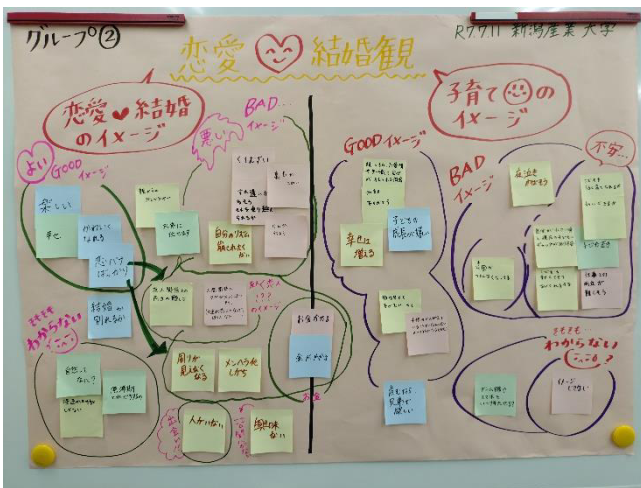
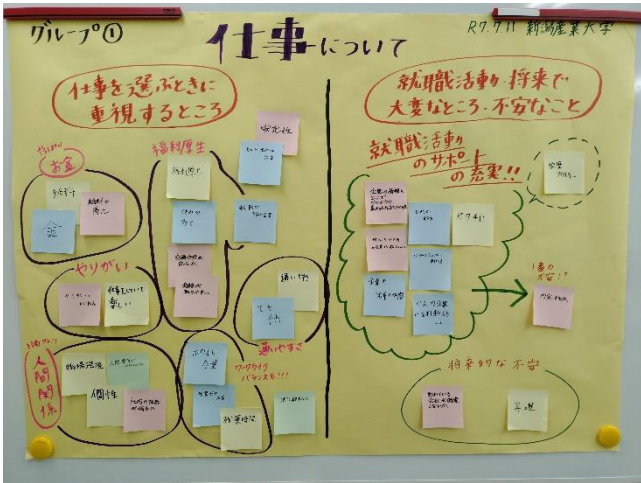


2025.7.11 新潟産業大学

ヒアリングの様子



グループワークの記録



不登校の状態にあるこどもへのヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、対象者の実態把握・課題抽出を主目的とはせず、学校に苦手さを感じているこどもの率直な想いや意見を把握し、当該計画の施策に反映させることを目的とする。

(2) 対 象 者

柏崎市適応指導教室「ふれあいルーム」通級児童・生徒
一般社団法人 CLAST(フリースクール)利用生徒

(3) 回答人数

計 9 名 (ヒアリングが可能であり、協力同意のあった児童・生徒)

(4) 日 時

- 第 1 回 令和 7(2025)年 5 月 19 日(月) 10:45~11:15
:ふれあいルーム通級生(中 2 女子、中 3 女子、中 3 男子)
- 第 2 回 令和 7(2025)年 6 月 11 日(水) 10:45~11:05
:ふれあいルーム通級生(小 5 男子)
- 第 3 回 令和 7(2025)年 6 月 18 日(水) 11:00~11:15
:ふれあいルーム通級生(中 3 男子)
- 第 4 回 令和 7(2025)年 8 月 6 日(水) 13:00~13:50
:CLAST 利用生徒(中 2 女子、中 3 男子・女子、高 1 女子 他)

(5) ヒアリング方法

① イベント方式:第 1 回

… 参加した生徒が自分の意見を出しやすくなるよう、イベント方式とした。

(内容)「計画担当者が子どもの気持ちをどれだけ理解しているか」を試すゲーム

- サイコロを振って、5 つのテーマのうち出た目のお題に対し、クリップボードに意見を書く。
- 計画担当者は、通級生の気持ちを予想して回答を書く。
- 一斉にクリップボードを見せ合う。
- 1 つ合っていたら 1 ポイント。3 セット行って、計画担当者が 5 ポイント以上であれば合格。

② 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング):第 2~4 回

… 指導員等の同席のもと、計画担当者による個別の聴き取り(ヒアリング)を実施した。

③ 集団での聴き取り方式(グループヒアリング):第 4 回

… CLAST 担当者同席のもと、聴き取り(ヒアリング)を実施した。

2. テーマ

キーワード	テーマ	補 足
柏崎市	<u>柏崎市のよいところ</u>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 柏崎市のこんなところが好き！ ➤ 柏崎市のおすすめスポット ➤ なければ「ない」でも OK
相談	<u>困ったときはこんな人に相談したい</u>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ どんな性格？(優しい、まじめなど) ➤ 自分とどんな関係にある人？ (家族、友だち、先生など)
居場所	<u>安心して過ごせる場所</u>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ どんな場所？ (静かな場所、にぎやかな場所など) ➤ 特定の場所？ (自分の部屋、トイレ、〇〇公園など)
余暇	<u>至福の時間</u>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ どんなことをしているときが楽しい？
学校生活	<u>理想の学校</u>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ こどもが「行きたくなる」学校とは？ ➤ こうなるとよいなあ～..願望で OK ➤ なければ「ない」でも OK

3. 結 果

テーマ	具体的な意見/発言など	総括
<u>柏崎市のよいところ</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・海が近い、海水浴ができる。 ・アクアパークやアカデミーがありプールが充実している。 ・松雲山荘がきれい。 ・えんま市の雰囲気がいい。 ・おいしい飲食店がある。 ・駅前公園は広くて大勢の友だちとも一緒に遊べてよい。 ・アクアパーク、陸上競技場、ソフィアセンターなどが集合しているため、近くに住んでいる場合は利用しやすい。 ・フォンジェにスーパーがなくなり、高齢者にとって不便と感じるが、あいくるを活用できるのならよいと思う。 ・あいくるは希望の日時に予約がとれない・予定時間に来ないこともあったので、もっと活用しやすくなるとよい。 ・何もなし。 ・アピタのような大きなお店やショッピングモールが欲しい。 ・映画館やミスタードーナツがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 対象者の年齢からすると他市の情報は少なく、他と比較するような意見はあまり聞かれなかった。 * 柏崎市について考えることが初めてな様子で、戸惑っていた印象。一生懸命に考え絞り出したという様子だった。わかりやすい(目にとまりやすい)事柄を上げている印象。 * ふれあいルーム通級時にあいくるを利用する生徒については、あいくるを身近に感じている。

<p><u>困ったときは、こんな人に相談したい</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲のよい友だち ・自分の性格に似た人 ・お母さん ・家の人には相談できない。 ・ふれあいルームの指導員 ・CLAST の職員 ・こどもの気持ちがわかってくれる人、自分の話をわかってくれそうと思うと話しやすい。 ・先生に相談することは、考えたことないかも…。友だち感覚のフレンドリーさがあると相談しやすい。 ・真面目な人は無理。正論を言う人には話せない。わかってはいてもいろいろ無理だから悩んでいる。 ・口が軽く、すぐに人に言うような人には相談できない。 ・ゲームで知り合った人やネット上の知り合いは、実際に会わないからこそ安心して相談できる。 ・優しすぎる人は嫌、でも優しくされないのも嫌。距離感がすごく大事。そして優しさだけでなく雑さもあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 一緒にいる時間が長く、信頼できる身近な存在を相談先として捉えている児童・生徒が多い。 * 周囲の配慮を要する子もいれば、配慮される(優しくされる)ことを煩わしく感じる子もいるため、マッチングが重要。 * 正論(答え)を求めてはならず、こどもの想いを受容し導き過ぎない支援、エンパワメントを高める姿勢で接することができる人を求めている印象を受けた。 * ゲームやインターネット上での関係性の相手に相談しやすさを感じることも多い。
<p><u>安心して過ごせる場所</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家(自分の部屋やリビング、ベッドの上) ・家に誰もいなくて1人になったときに安心する。 ・声もなにもない密室みたいなところなら、ストレスを感じなくてよい。 ・自分のことを全く知らない他人がいるところ ・ふれあいルームや CLAST ・学校のトイレでいたずらされたことがある、安心できない。 ・公園のルールが緩やかになると行きやすい。公園でスケボーやボール遊びができることは絶対に必要。公園には楽しい遊具が沢山ほしい。 ・ネット環境があるところ、WiFi があることが重要。家にいろいろと揃っているため出ていく必要がない。でも、スペックの高いパソコンが自由に使えるのなら、出たくなる。 ・ゲームセンターはお金がかかるので、お金がかからず遊べるところがあるとよい。 ・徒歩や自転車で行ける範囲のことしかわからない。柏崎市に自由に利用してよい公共施設があることを知らない。 ・公共交通機関が気軽に使えないため、行動範囲を広げられない。あいくるは予約がとれない上に終了時間が早い。せめて18時までには利用できるようにしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> * 家を居場所と認識する声が多い。こどもにとって、家を過ごしやすく、安心できる場にすることの重要性がうかがえた。 * 適応指導教室やフリースクールなど配慮された環境に安心感を得やすい。 * 中学生は公園離れする年代であるが、公園の話題は、他の設問に比して意見が出やすく、良くも悪くも身近なものと捉え、関心度が高かった。 * ネット環境、WiFi 環境を重視する意見もあり、よりよい設備を利用できることが外出のきっかけになり、安心に繋がることも多い。 * 年齢的にも行動範囲が狭く、柏崎市内の情報は自宅周辺に限られている。
<p><u>至福の時間</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをしているとき ・仲のよい友だちと会って話すとき、友だちと話して笑うことで1番気が晴れる。 ・自分と気の合う友だちと一緒にいるとき ・CLAST で麻雀やトランプをして皆で遊ぶとき(1人でゲームばかりしていると飽きる) ・1人で本を読んでいるとき 	<ul style="list-style-type: none"> * ゲームを挙げるこどもが圧倒的に多かった。 * 1人でいることに心地よさを感じる子が多い一方で、仲のよい友だちを求める声も多く聞かれた。 * 安心できる環境であれば、人

	<ul style="list-style-type: none"> ・寝ているとき ・アニメをみたり、絵をかいたり、音楽を聴いたりするとき ・AIとの会話 ・彼氏と一緒にいるとき ・嬉しいことも楽しいこともない、人に迷惑をかけないで人生を終了したい。 	<p>との交流も楽しく感じる様子。</p> <p>＊ 発言には、思春期ならではの葛藤も含まれている。</p>
理想の学校は？	<ul style="list-style-type: none"> ・給食が豪華になると楽しみになる。 ・となりの席に友だちがいる、仲のよい友だちと同じクラスになる、仲のよい友だちが沢山いる。 ・自分と好きなことが同じ友だちがいると話も合って学校に居やすい。 ・学校でも病気や障がい(特性)のある子と一緒に、という流れだが、それによる負担が強い。いたずらされると思うと安心して学校に居られなくなる。分けてもらったほうがよい。 ・学校でゲームができるとよい。 ・思いやりのある先生、こどもの目線で話してくれる先生がいるとよい。 ・学校で疲れたときに、眠れたり休めたりするとよい。 ・学校の「皆と一緒に」という感じが嫌、できない人をどんどん炙り出す感じが嫌。学校の雰囲気嫌。 ・学習的な勉強のない学校だとよい。体験重視型の学習。 ・堅苦しくない学校だとよい。私服。校則がない。 ・自由に過ごせるフリースペースがあるとよい。 ・いじめがない学校がよい。 ・学校のキッチリしているところが嫌。学校は嫌い。人と関わりたくない。 	<p>＊ 仲のよい友だちが学校にいることは、こどもにとって非常に重要なポイントとなっている。クラス替えや席替え、転校などはこどもにとって大きな出来事であり、学校の居やすさに大きく関わる。</p> <p>＊ インクルーシブ教育については、促進すると同時に、全方位的な配慮・環境等の体制整備が必要。</p> <p>＊ 給食への意見が多く、食の楽しみは大きい様子。</p> <p>＊ 学校に対する負の感情が強いこどもにとっては、学校の雰囲気全体に苦手感がある印象。</p> <p>＊ 学校生活での自由度が広がることを求めるこどもも多い。</p>

4. まとめ

本ヒアリングは、小・中学生の年代を主な対象としていることから、柏崎市全般に対する意見については、出にくさがあった。

ヒアリング項目の中では、余暇時間(至福の時間)に関して、最も多くの意見が挙げられた。特にゲームやインターネットについては、積極的に話をしてくれる子もいて、好きなこと・得意なことは話がしやすい様子だった。また、本ヒアリング全体を通して、仲のよい友だちの存在を重要視する意見が多く聞かれ、小・中学生にとっての友人関係は、非常に大きなウエイトを占めていると言える。

また、安心して過ごせる場所については、「自宅」と答えるこどもが圧倒的に多かったが、自宅の中でも「自分の部屋」や「家族が全員出かけたとき」と言うこどもも多く、学校に行っていないという状況を無意識的に負い目に感じていると推察された。

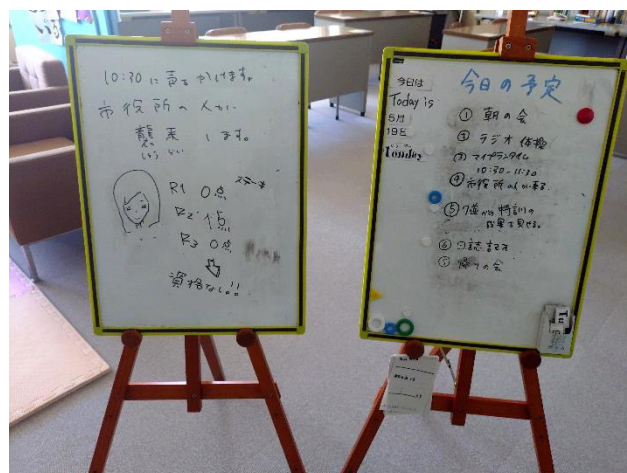
相談しやすい人については、「お母さん」と言う子もいれば、「家の人には相談できない」と言う子もいて、また、配慮を要する子もいれば、配慮され過ぎることに煩わしさを感じる子もいて、不登校の児童・生徒のニーズは、その置かれた環境に応じて大きく異なるものと言える。

本ヒアリングで対象とした「ふれあいルーム」と「CLAST」は、学校以外で不登校のこどもが通うことがで

きる場となっているが、市の適応指導教室と民間のフリースクールでは、その活動内容や雰囲気は異なることも多く、それぞれにマッチングすることも異なる場合がある。不登校のこどもの置かれた環境、ニーズ等は非常に多様であるが故に、さまざまな受け皿、選択肢があることが、こどもの通える場・居場所の充実に繋がっている。

当市の不登校の児童・生徒数は、依然として増加傾向にある。こどものエネルギーを回復するためには、必要なタイミングで活用できる居場所があることが重要であり、そして学校復帰や社会的自立等を支援するためにも、こどもが心地よく過ごせ、通い続けられるような場の提供、社会環境を構築すること、その取組を前進させていくことが重要な課題となる。

5. そ の 他（当日の雰囲気等 ※第1回のみ）



ひきこもりの状態にある若者へのヒアリング

1. 概 要

(1) 目 的

本ヒアリングでは、対象者の実態把握・課題抽出を主目的とはせず、ひきこもりの状態にある(ひきこもりの状態にあった)若者の考え等を把握することで、当該計画の施策に反映させることを目的としている。

(2) 対 象 者

ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者であり、ヒアリングへの協力同意を得た若者

(3) 回答人数

計 8 名

(4) 日 時

《個別ヒアリング(4名)》

26歳男性：令和7(2025)年6月4日(水) 15:00～15:20

18歳男性：令和7(2025)年6月17日(火) 9:30～9:50

22歳男性：令和7(2025)年7月24日(木) 11:00～11:20

18歳女性：令和7(2025)年8月12日(火) 15:30～15:20

《グループヒアリング(4名)》

18歳女性、20歳男性、23歳女性、26歳女性

：令和7(2025)年6月9日(月) 14:30～15:00

(5) ヒアリング方法

① 個別での聴き取り方式(個別ヒアリング)

… ひきこもり支援センター(アマ・テラス)担当者同席のもと、計画担当者による個別の聴き取り(ヒアリング)を実施した。

② 集団での聴き取り方式(グループヒアリング)

… ひきこもり支援センター(アマ・テラス)担当者より、当事者交流会参加者に対して、聴き取り(ヒアリング)を実施した。

※ ①・②ともに、簡易なアンケートを併せて実施した。

2. テーマ

(主なヒアリング項目)

- 余暇・自由時間の過ごし方
- 居場所/外出先について
- 就労に関するサポートについて
- 興味・関心のあること
- 困りごと・悩みごと/ひきこもり支援センターとの関わり経過について

3. 結 果 (アンケート結果含む)

(1)これまでの経験(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
学校になじめなかった	3 名
小学校時代に不登校を経験した	3 名
中学校時代に不登校を経験した	8 名
高校時代に不登校を経験した	3 名
大学等時代に不登校を経験した	—
受験に失敗した	—
就職活動がうまくいかない経験をした	—
職場になじめなかった	—
人間関係がうまくいかなかった	5 名
病気をした	1 名
仕事を辞めた	1 名
家族などの介護や看護を担うようになった	—
あてはまるものはない	—

(2)困りごと・悩みごと(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
日常生活に関すること	2 名
経済的なこと	4 名
医療・病気に関すること	1 名
学校のこと	1 名
仕事のこと	4 名
将来のこと	6 名
その他	1 名
困りごとや悩みごとはない	—
わからない/答えたくない	1 名

・老後のこと
・災害時のこと

(3)困りごと・悩みごとの相談先(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
家族	6 名
友人	2 名
相談窓口、相談機関の人	4 名
インターネットや SNS	1 名
その他	—
相談しない	1 名
わからない/答えたくない	—

(4)ひきこもり支援センターとの関わり/きっかけ(ヒアリング)

主な発言
<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談:家族から進められて関わることとなった(4名)。 ・中学校の先生から教えてもらった(2名)。 ・保健師の人から紹介された(1名)。 ・市のカウンセリングを受けていて、高校卒業するに当たり、紹介された(1名)。 ・最初は相談機関を紹介されても何もわからない状況で戸惑った。そもそも情報自体がない・入らないこともあり、なにかの勧誘かと思うくらい、抵抗感があり不安。自分なりの下調べが必要だった。 ・「ひきこもり支援センター」という名称に抵抗感があり、印象がよくないと感じるが、わかりやすさも重要だと思う。とは言え、わかりやすすぎると、何かひっかかる部分がある。

(5)柏崎市の困りごと・悩みごと支援として、必要と思うこと(アンケート:複数回答)

内 容	人 数
身近な相談窓口の充実	4名
医療・福祉などの専門的な支援の充実	1名
家族への支援	3名
居場所づくり	5名
訪問支援	—
就労支援	1名
社会体験活動の提供	1名
支援者の育成・スキルアップ	—
啓発活動による地域の理解促進	—
医療機関との連携	1名
学校との連携	3名
その他	—

(6)余暇・自由時間の過ごし方(ヒアリング)

主な発言
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム(スマホ、プレステ等)、大人になってもゲームは楽しく、ゲームで課金したいという気持ちで、仕事をするキッカケやモチベーションにもなった。 ・自分の部屋で過ごすことが多い。 ・絵を描く。小説を書く。 ・録画したテレビや YouTube を見る。 ・SNS 等、インターネット上で交流をする。 ・自主的に勉強(漢字)。運動したり日光を浴びたりする。 ・買い物やコーヒー店に出かける。 ・出かけるためには、運転免許が必要。柏崎市は車がないと不便な地域で、出かけることができない。 ・柏崎市の公共交通機関は時間の制約が大きく、自由度がない。利用しづらい。 ・コメダ珈琲やスターバックスに行く。柏崎市にドトールやタリーズなどがあると余暇が広がる。

(7)居場所/外出先について(ヒアリング)

主な発言
<p>居場所について</p> <ul style="list-style-type: none">・家(自分の部屋、リビングなど)、自分の部屋が1番。・誰かに気兼ねせず、落ち着いてゲームできるところが安心する。結局は家になる。・居心地のよい空間を居場所としたいが、居心地については人によって異なるので、難しい。・安心して過ごせる居場所など特にない。インターネット上の交流についても、安心できる居場所というわけではない。・本来は自分の家は安心できる居場所なのだと思うが、そうでない人もいる。家が安心できない場がある場合に、安心して過ごせる避難先が欲しい。特に夜間、利用できる場所が欲しい。夜はどこも閉まってしまうので、夜に過ごせる場所、眠ったり休んだりできる場所があるとありがたい。クッションなど、柔らかいものがあると不安が和らぐ。・1人で過ごせる場所もよいが、人と集えるところがあってもよい。そこでゲームなどができると、ゲームを媒介に人とのコミュニケーションがとりやすくなる。ゲームをすることで思考を切り替えることができ、一時でも嫌なことを忘れることができる、自分を落ち着かせることができると思う。 <p>外出先について</p> <ul style="list-style-type: none">・自転車でドンキやゲオなどにゲームを買いに行く。・博物館の空気感が好きで、展示物を見に行く。・市内の自分で行ける範囲にゲームセンターがあるとよい。今は家族と出かけた時に長岡のゲームセンターに行っている状況。・柏崎市は娯楽が少ない。・そもそも行きたいところがないため、あまり外出しない。月1の受診や相談など、予定があるときだけ外出する。医師より日光を浴びよう指導を受けているので、自宅の庭先や畑には出る。・若者が皆でワイワイできるところがあるとよいと思う。小中学生の時にボーリング場に行って遊んだ記憶が残っているが、今はそのような施設は近づくなく、交通手段もないため、近くにあったら出かけやすいと思う。・若者が集まれる場があるとよいと思うが、柏崎市は中心街に出るまでに時間がかかる。免許を持っていないと難しい。新しく居場所を作るのは難しいだろうから、既にある施設を無料開放するとよいと思う。・日常生活品は柏崎市内でも買えるが、それ以外の特別なものや楽しみになるようなもの、専門的なものなどは市外(長岡など)に行く必要がある。・柏崎市にも丸亀製麺、ドミノピザ、ミスタードーナツ、ラウンドワン(屋内で遊べる巨大な遊び場)が欲しい。・柏崎市には、外出先、買い物などにおいて選択肢がない。選択肢があることはとても重要で、自分で選べるのが楽しみや満足度に繋がり、外に出るきっかけにもなる。・食が外出のきっかけになることもある。期間限定、数量限定等の食べ物を食べる・買うことが外出のモチベーションになる(出たくないが食べたい・・と葛藤しながらも外出する等)。ただし、そのようなお店が市内にないと難しい。・自分で市外に行けない人は、かなり不自由だと思う。

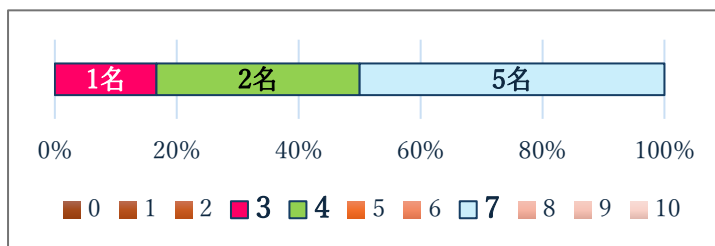
(8)就労に関するサポートについて(ヒアリング)

主な発言
<ul style="list-style-type: none"> ・世の中に、どのような仕事があるのか知らない。就労の相談で「どんな仕事がよいか？」と聞かれても、何も知らない状態では答えられない。情報が欲しい。 ・例えば「製造業」と一括りに紹介されても、自分が求めるものか何なのか分からず判断できない。 ・仕事のジャンルを大きく分けて、もっと小分けにして、わかりやすく示してもらえそうなサポートがあるとよい。 ・仕事の経験がない若者は、そもそも仕事の種類がわからず、考えられない。 ・自分で調べるだけだと情報が不確かなので、実際に気軽な感じで職場見学ができるとよい。 ・動画で職場の様子を紹介する等、職場に行かずとも職場の雰囲気や働いている人の様子を知ることができる仕組みがあるとよい。 ・自分のように就きたい職種がわからない人には、柏崎市の仕事を具体的に紹介して欲しい。そこで興味を持った仕事の体験ができるとよい。思い描く仕事の様子と実際の仕事とのギャップを小さくしたい。 ・職場の人間関係に不安がある。職場のモヤモヤなどを自分の中にため込まずにすぐに相談できるような相談場所があるとよい。

(9)興味・関心があること(ヒアリング)

主な発言
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム関連のこと ・好きなアニメや漫画のこと ・社会的なもの(市内の職業など)を知りたい、触れていきたい。 ・政治については「何で？」とツツコミたい気持ちもあるが、自分の意見を反映させたい(参画したい)とまでは思わない。 ・政治のニュースが気になる。日本がどうなるのか、日本が変わるためにはどうしたらよいのか、自分なりに考え、選挙にも行った。 ・株や投資(ニーサなど)は、きちんと学んだことがない。気になるがわからない。 ・自転車のルールがおかしい。人通りの激しい都会と歩道に歩行者がいないような田舎のルールを一律にしないでほしい。車の運転をする側からすると、自転車が車道を走るのは危なく、特に高齢化の進んでいる地域については、事故が起こりやすい。 ・ひきこもり当事者が何を求めるか・・・は、いたって普通。他の若者と大きな違いはないと思う。 ・路線バスの時刻が変更され、利用していた便がなくなった。公共交通機関が不便と感じる。 ・お米の価格や品薄状況のこと、物価やガソリン代等。

(10)生活満足度(アンケート)



(11)柏崎市について(アンケート)

内 容	人 数
好き	3 名
どちらかといえば好き	2 名
どちらかといえば嫌い	—
嫌い	1 名
わからない	2 名

(12) 柏崎市に期待すること(アンケート)

自由記載
<ul style="list-style-type: none">・柏崎市は、+αの商業施設がない。辛い所に手が届かない。楽しく・休め・買え・遊べる複合型の施設が1か所は欲しい。・こどもや若者が情報を得る機会が少ない。自分で情報を拾いに行かないと届かない。こどもや若者にも、柏崎市の情報が届くような手立てがあるとよい。・柏崎市に文学を楽しめるようなところがあるとよい。・祭り等のイベントのときに、柏崎市民には駐車場を無料にして欲しい。柏崎市民としての優遇があれば、住んでいてよかったと思えると思う。市内でも車がないと行けない地域が多いが、公共交通機関は充実していない。・柏崎市にはもう期待していない。実現して欲しいことはあるが、それをしてくれないのがわかってるので、何もない。・うどん屋やドーナツ屋がなくなったことが残念。人気のお店だったのに。そのような店があったほうがよいと思う。そうでないと、人がいなくなってもおかしくない。

4. まとめ

ひきこもり支援センター(アマ・テラス)が令和 6 年度に実施した「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においては、40 代以上の方でひきこもり状態に該当するも、支援に繋がっていないケースが多いことが示され、ひきこもりが顕在化しにくいという課題が挙げられている。本ヒアリングは、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者(既に支援に繋がっている若者)を対象としているが、支援に繋がったきっかけについては、「家族からの相談」の他に、中学校の先生や保健師、市のカウンセリング相談員からの紹介等が挙げられた。ヒアリングの中では、「何もわからない状態で紹介されても、不安になる」、「ひきこもり支援センターの名称に抵抗感があった」等の発言が聞かれたことから、ひきこもり状態にある方に、どのように情報を伝えるか、わかりやすさやイメージのしやすさ等も含め、周知・啓発への工夫が必要であると推察される。

アンケートでは、「これまでの経験」について、「中学校時代に不登校を経験した」と回答した人数は 8 名であり、回答者すべてが該当する結果だった。ひきこもり支援センター(アマ・テラス)の令和 6 年度の実績報告でも、不登校経験がある当事者の割合は約 65%とされ、ひきこもりと不登校の親和性が高いことが示されており、本ヒアリングにおいても同様の結果となった。また、本ヒアリングは若者を対象とし、かつ回答者すべてにおいて不登校経験があるも現在は外部との繋がりができていることからすると、若年(早期)の段階で支援が入ることが、ひきこもりの長期化を防ぐことに繋がると推察される。

「困りごと・悩みごと」については、6 名(75%)が「将来のこと」と回答し、4 名(50%)が「経済的なこと」、「仕事のこと」と回答している。「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においても、同様の設問において同様の回答傾向にあるため、今後、重点的に検討すべき課題である。

「困りごと・悩みごと支援として必要と思うこと」については、5 名(63%)が「居場所づくり」と回答し、次いで「身近な相談窓口の充実」が 4 名(50%)となっている。「柏崎市ひきこもりに関する実態調査」においても、本ヒアリングと同様の回答傾向にあるが、「居場所づくり」については、本ヒアリングのほうが高い回答を得ている。令和 7 年度に実施した「柏崎市若者の意識に関するアンケート調査」や「学生ヒアリング」でも、若者の居場所ニーズが高いことが示されており、また、本調査全体を通して、柏崎市における複合施設や遊び

場の設置等を望む声が非常に多く聞かれていることから、若者全体で同様のニーズを持っていることが推察できる。

最後に、本ヒアリングは、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)登録者のうち、ヒアリングへの同意を得られる状況(外部と繋がり気持ちが外に向いている状況)にある 8 名の方から協力いただいた。ひきこもり期間は長くなく、社交的な回答者が多いこともあり、本ヒアリングが当市のひきこもり全体の実態を的確に捉えているとは言い難いものの、「困難を抱えている若者」として、ヒアリングを通して貴重な意見をうかがうことができた。

今後は、ひきこもり支援センター(アマ・テラス)での活動実績や実態調査等とも併せ、継続的にひきこもりに関する課題の抽出・施策の検討を行っていく必要がある。